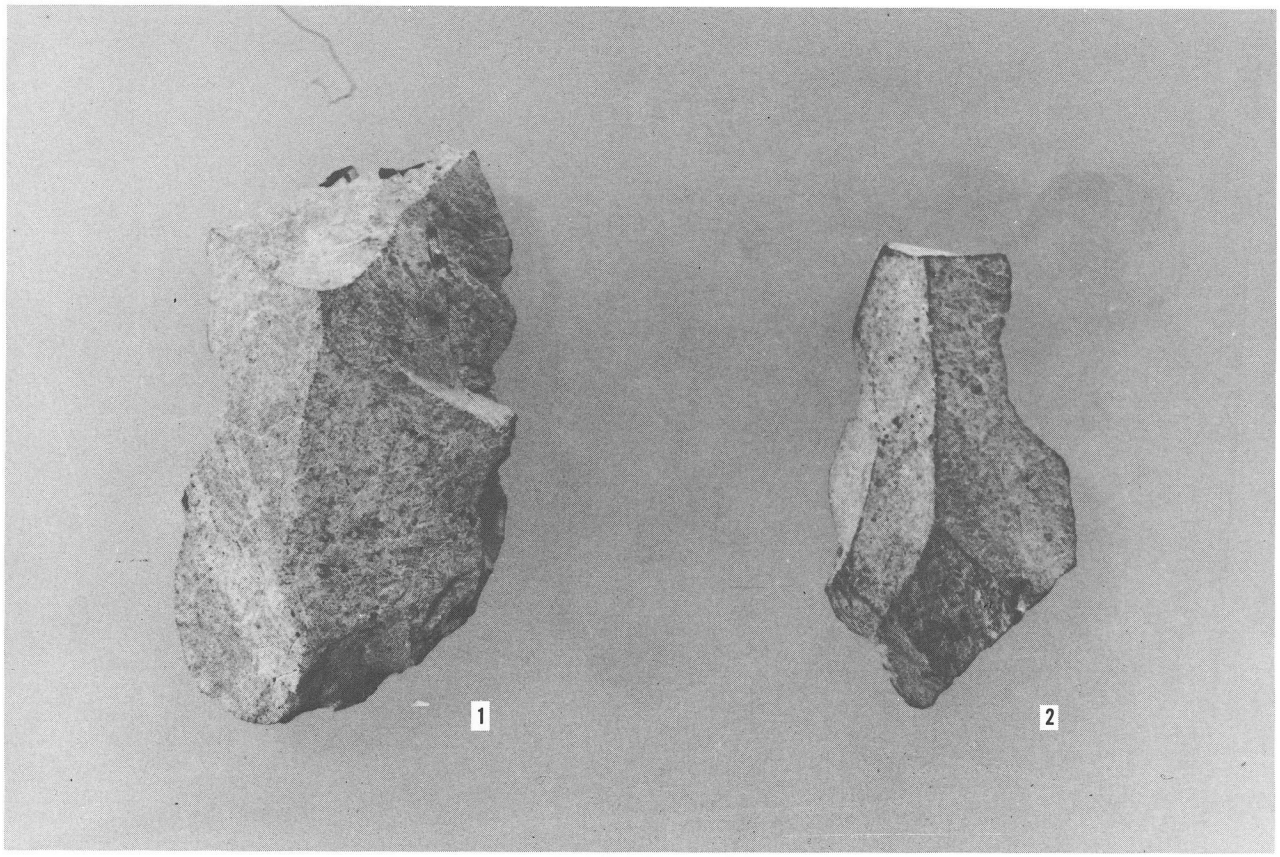
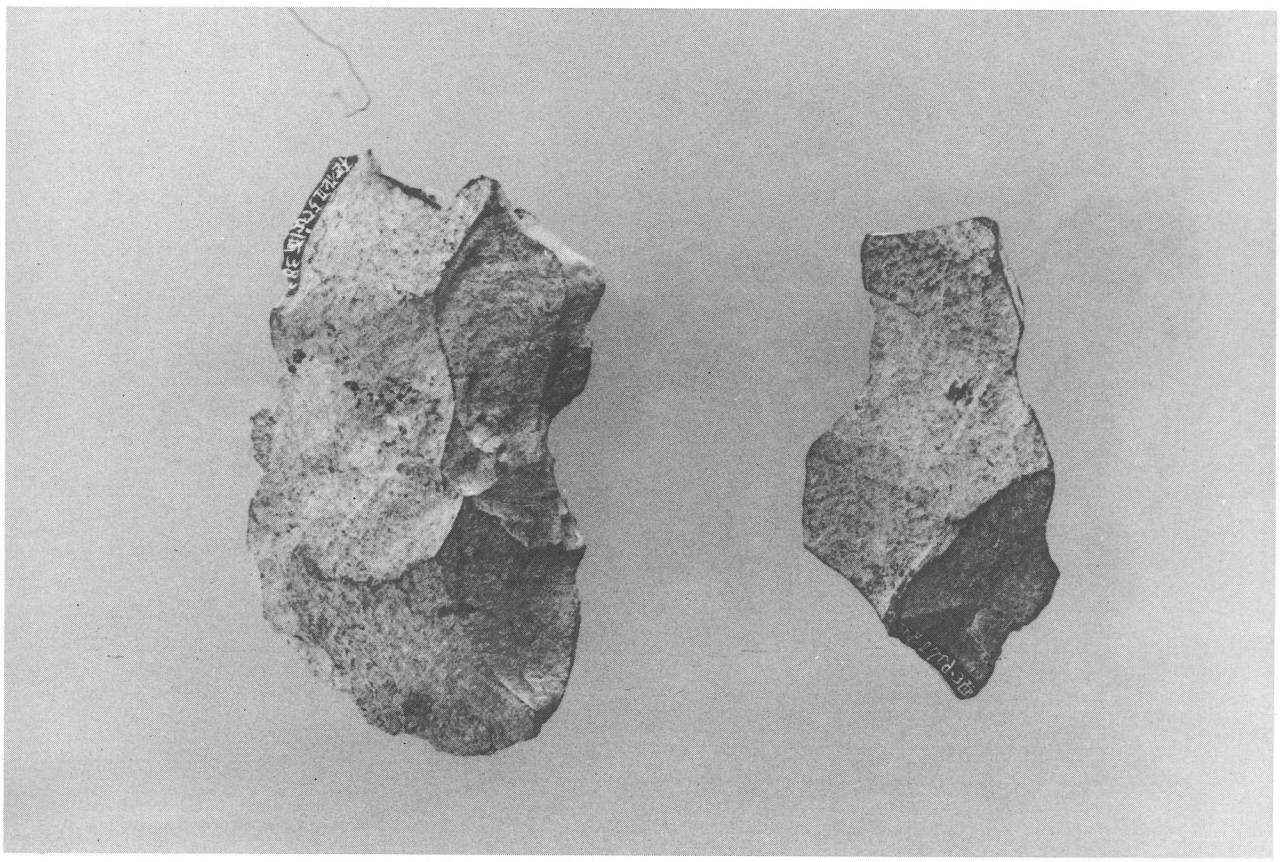
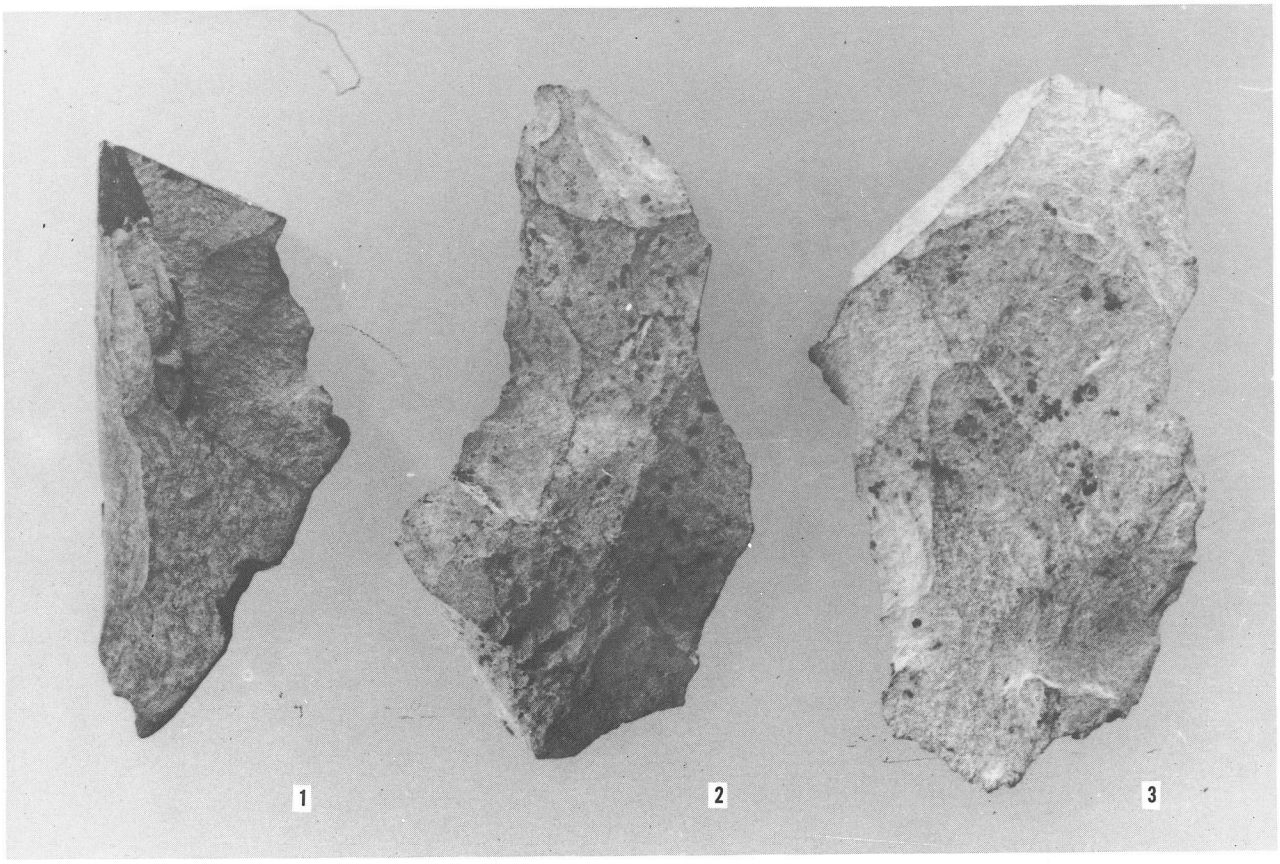


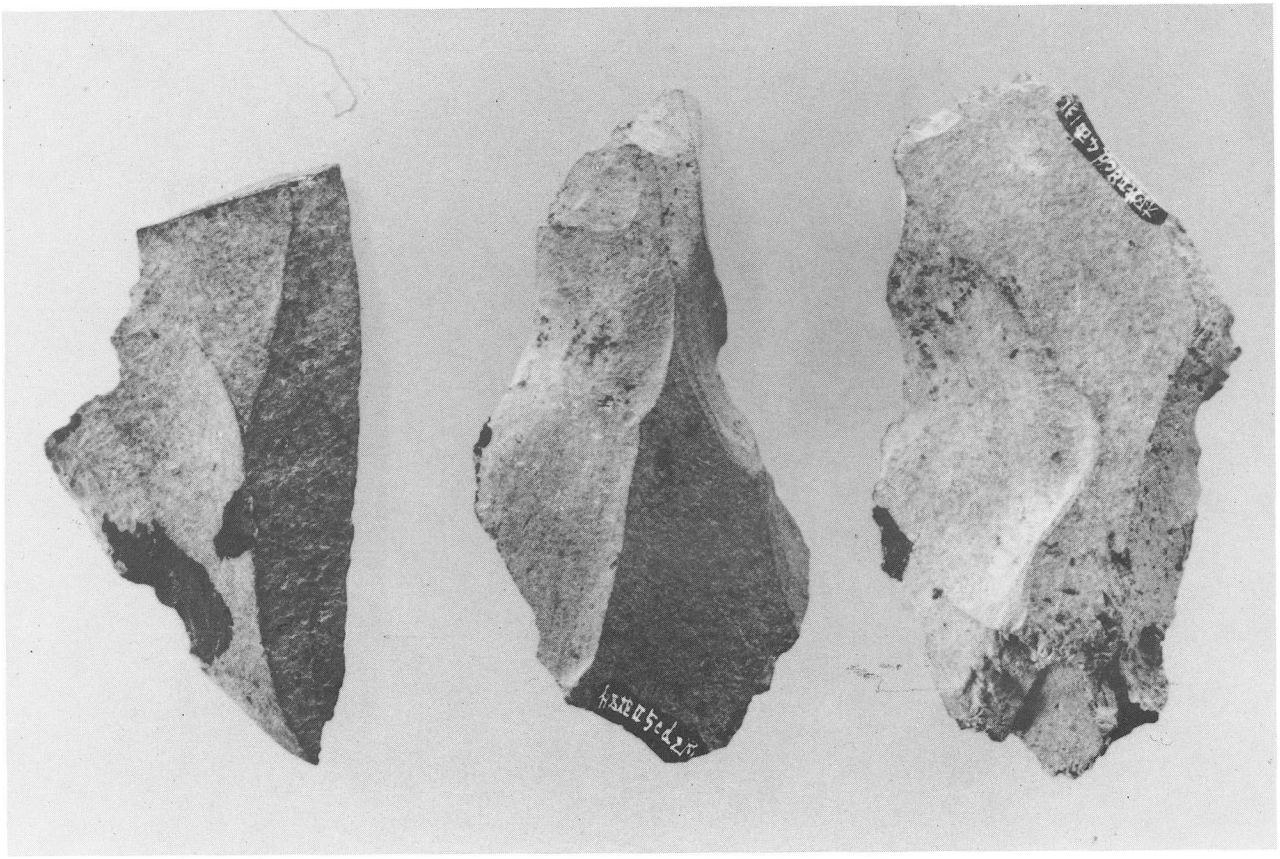
(1)　石核Ⅳ－3　(B面)



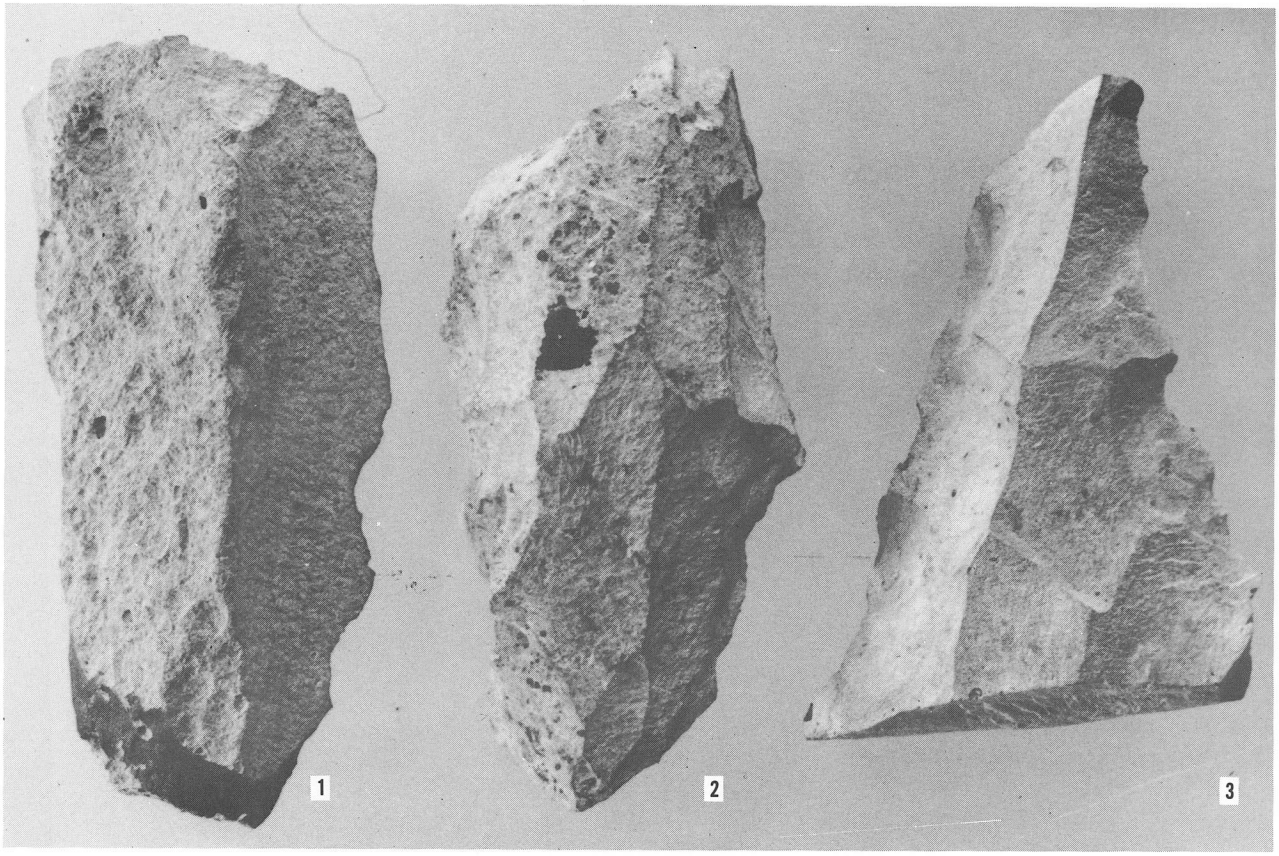
(2)　石核Ⅳ－3　(A面)



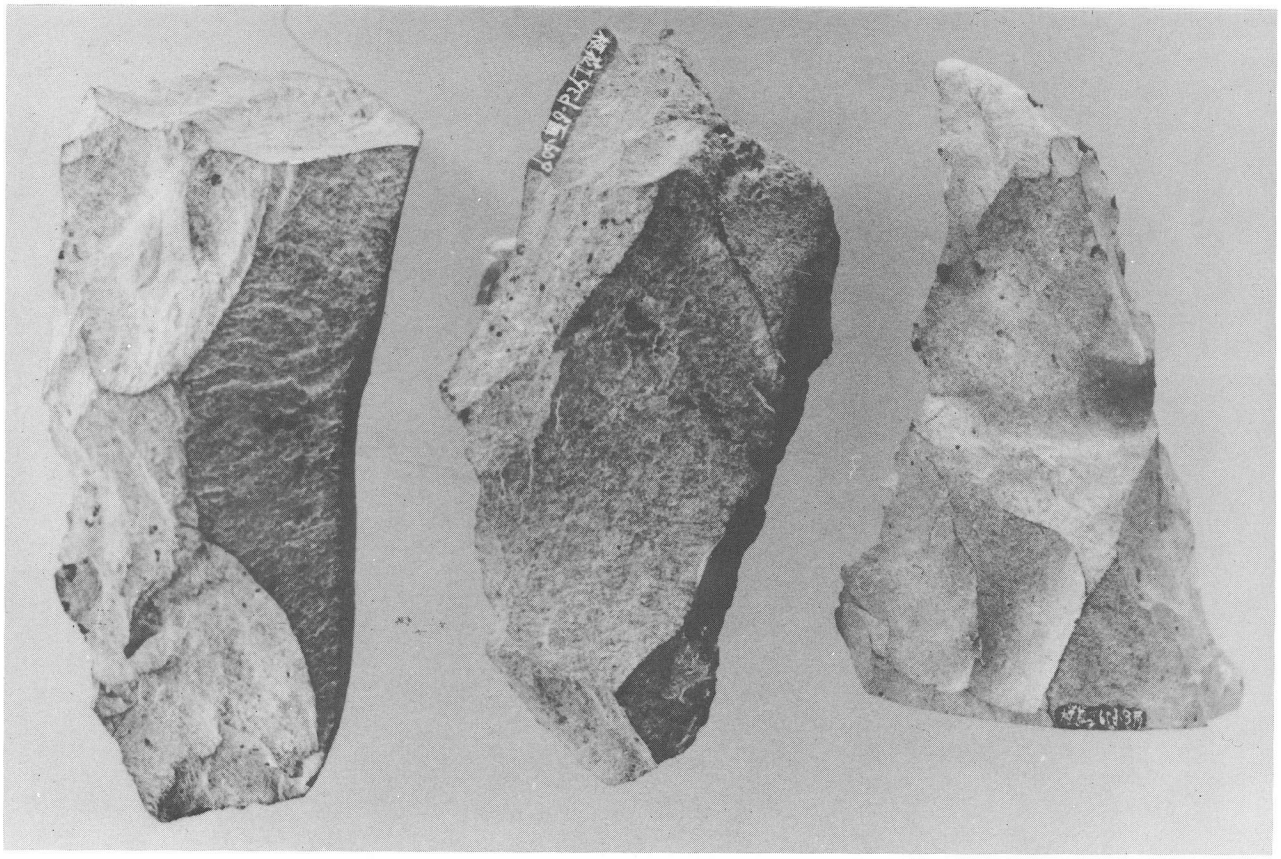
(1)　石核Ⅳ－4　（A面）



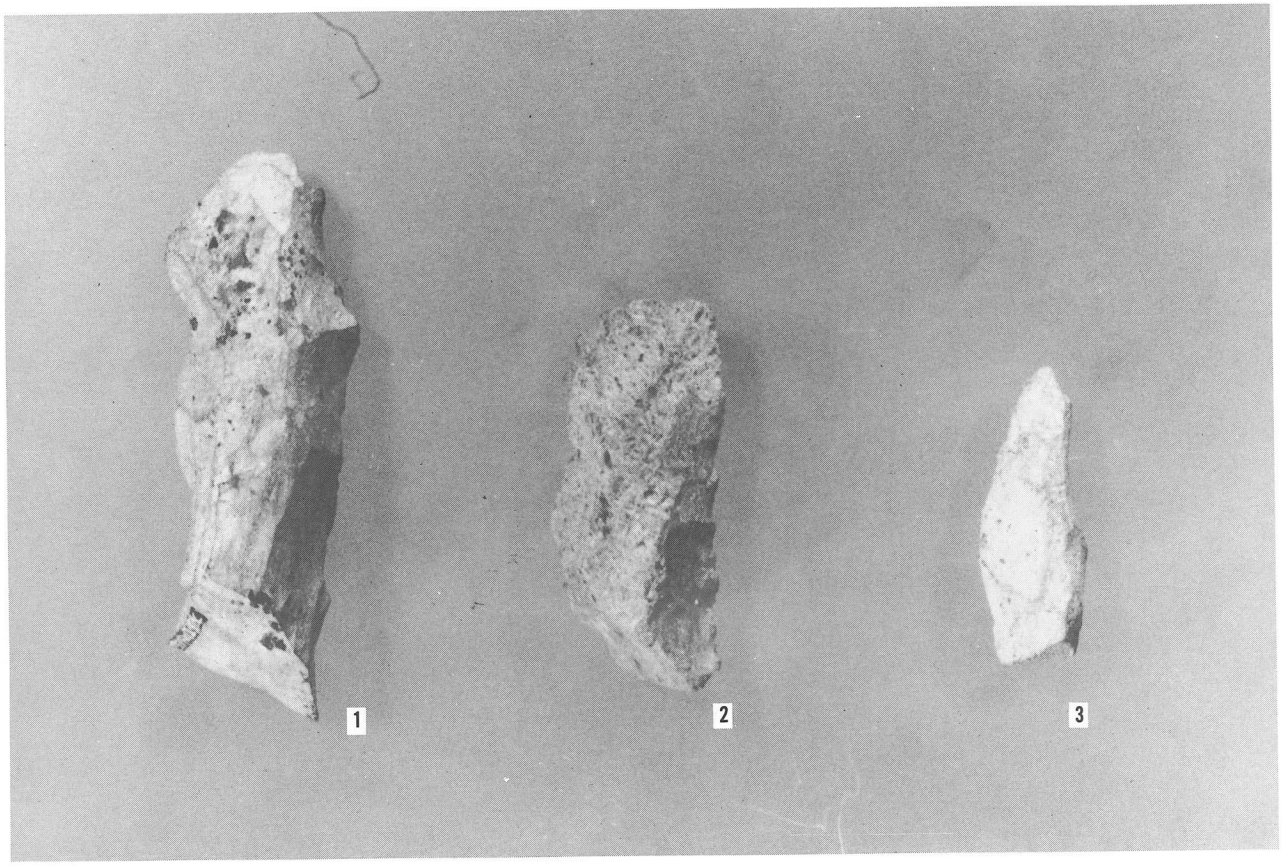
(2)　石核Ⅳ－4　（B面）



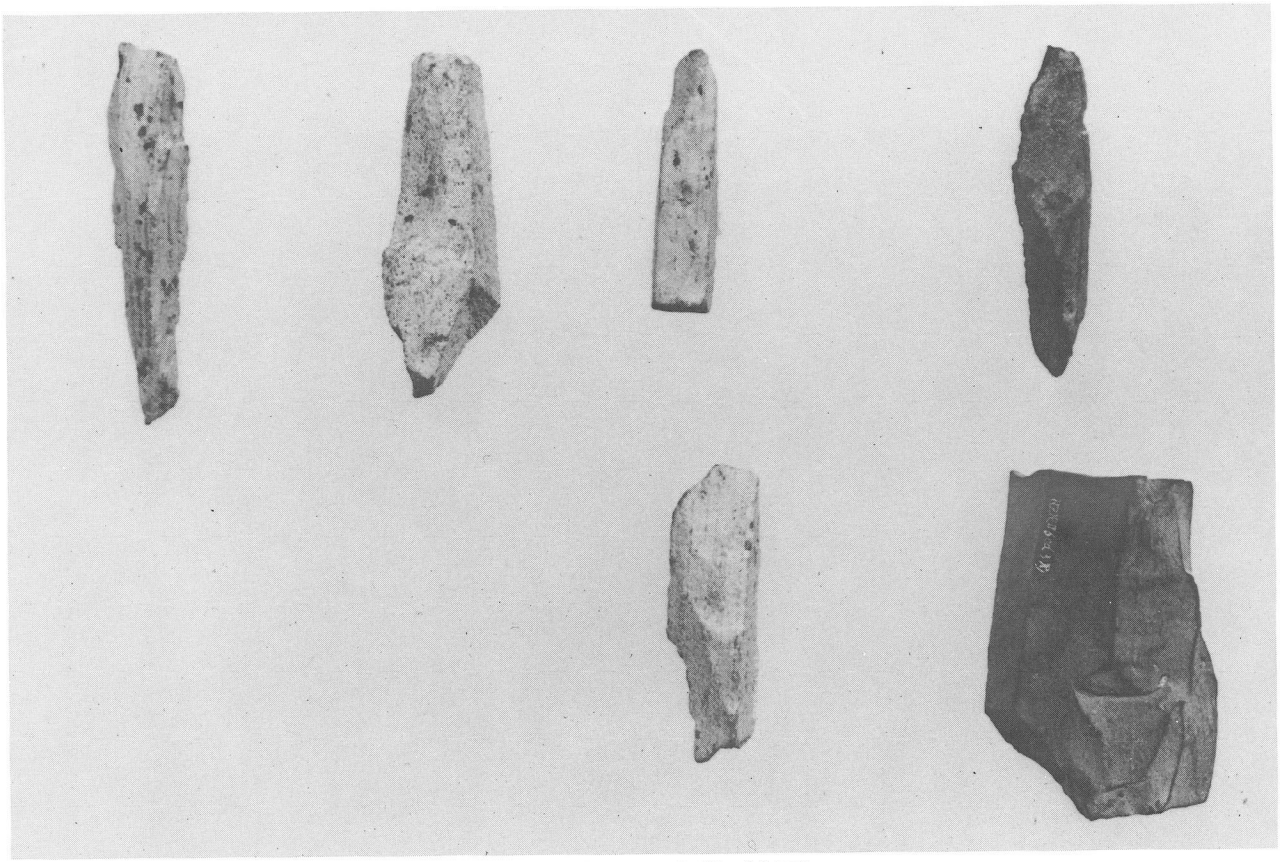
(1)　石核Ⅴ（A面）



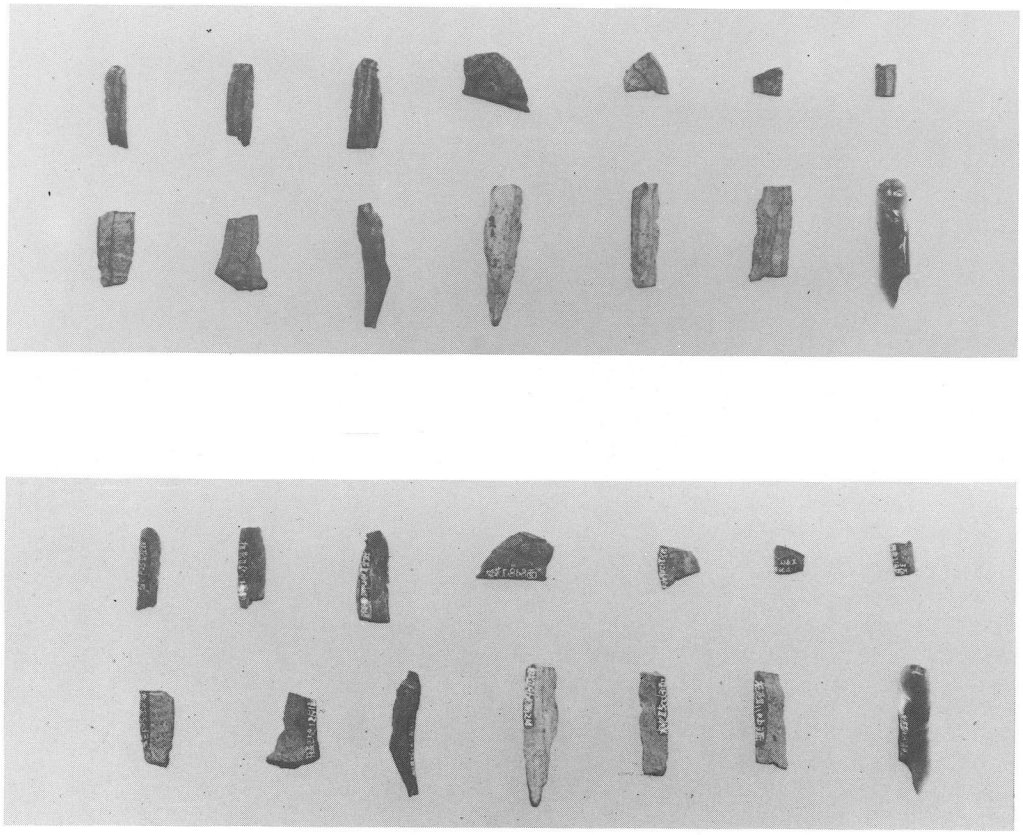
(2)　石核Ⅴ（B面）



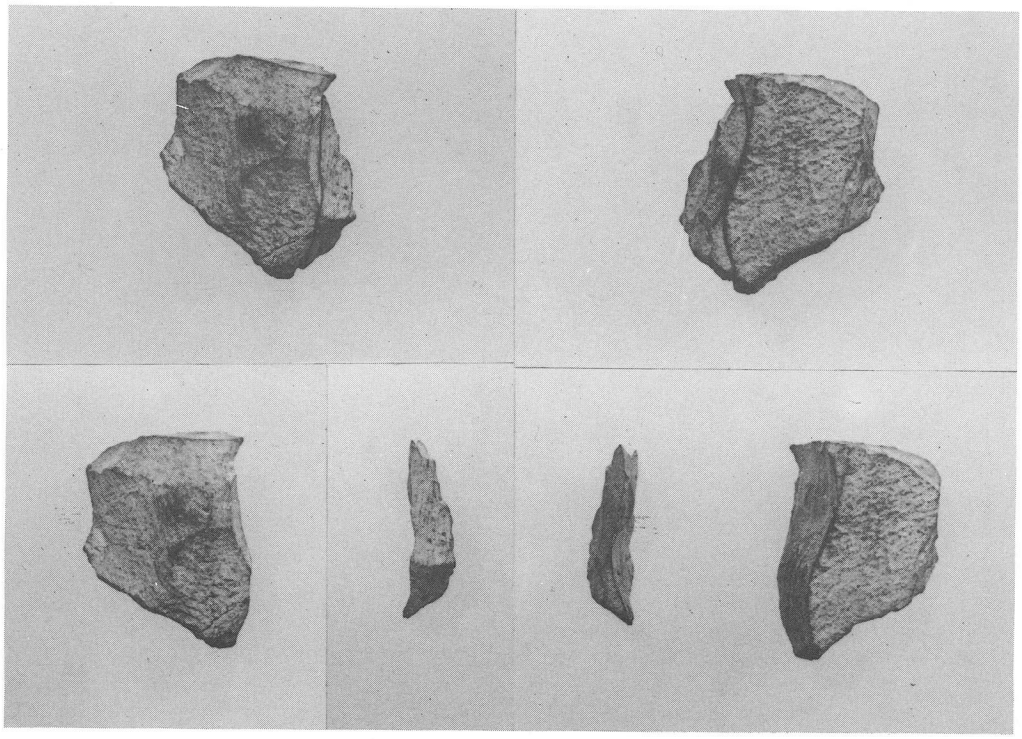
(1)　舟底形石器



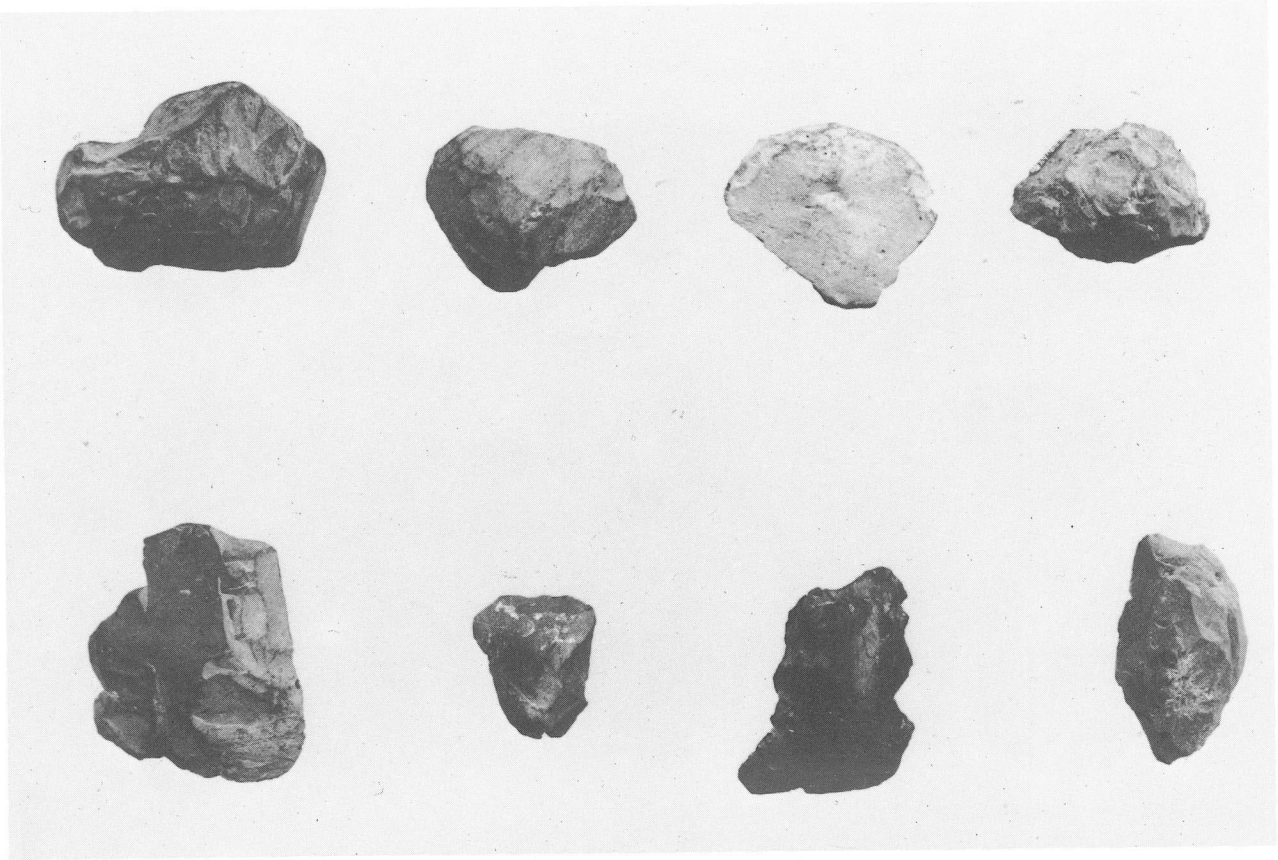
(2)　縦長剝片，同石核（表面）



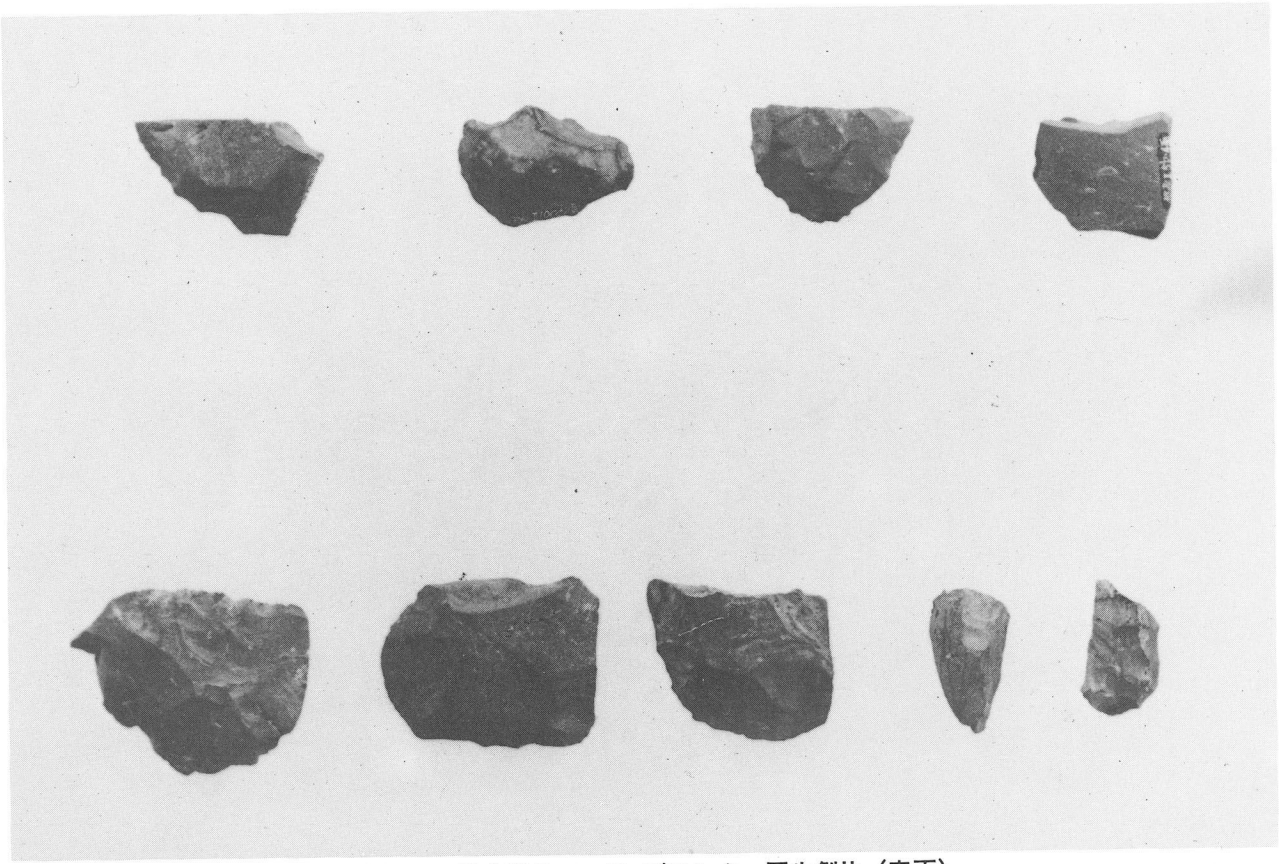
(1)　細石刃(表裏面)



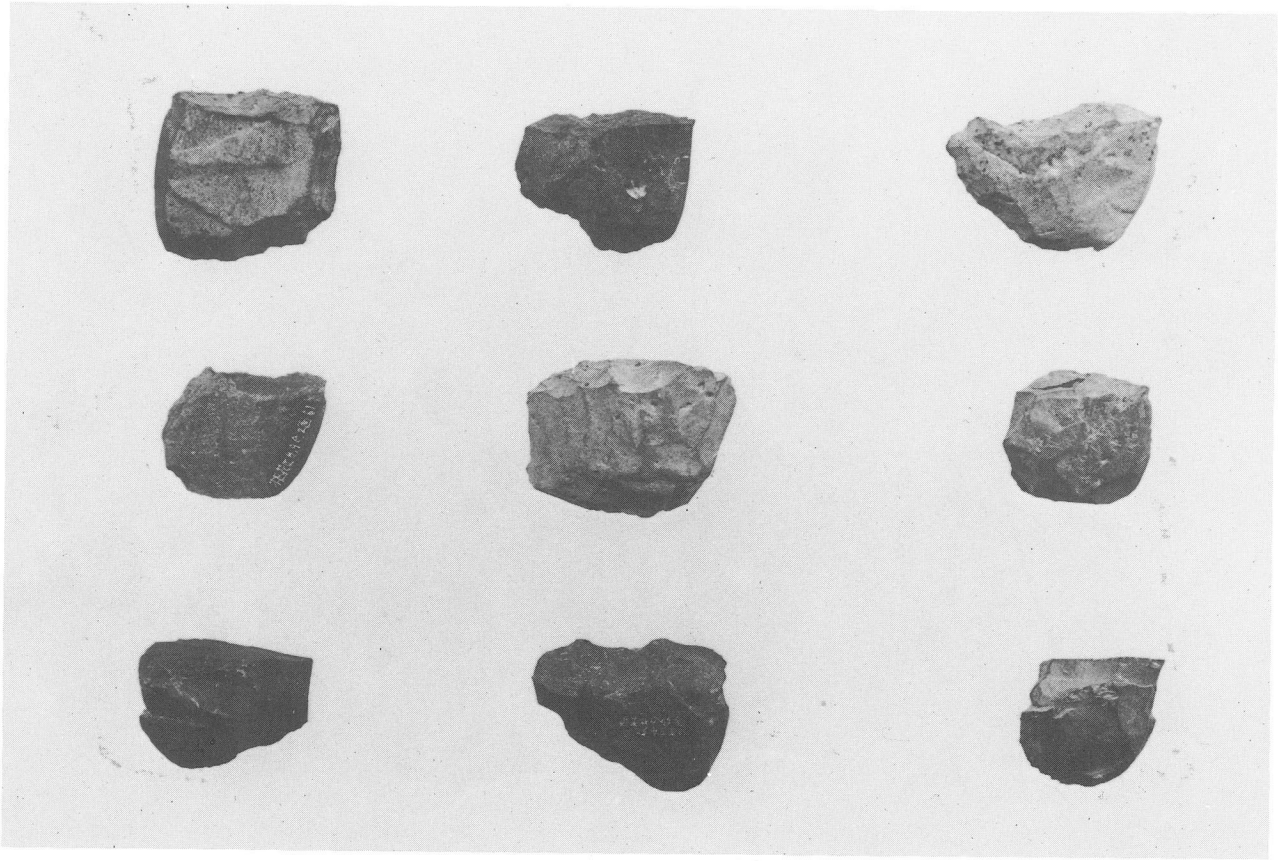
(2)　縦長剝片石核接合資料



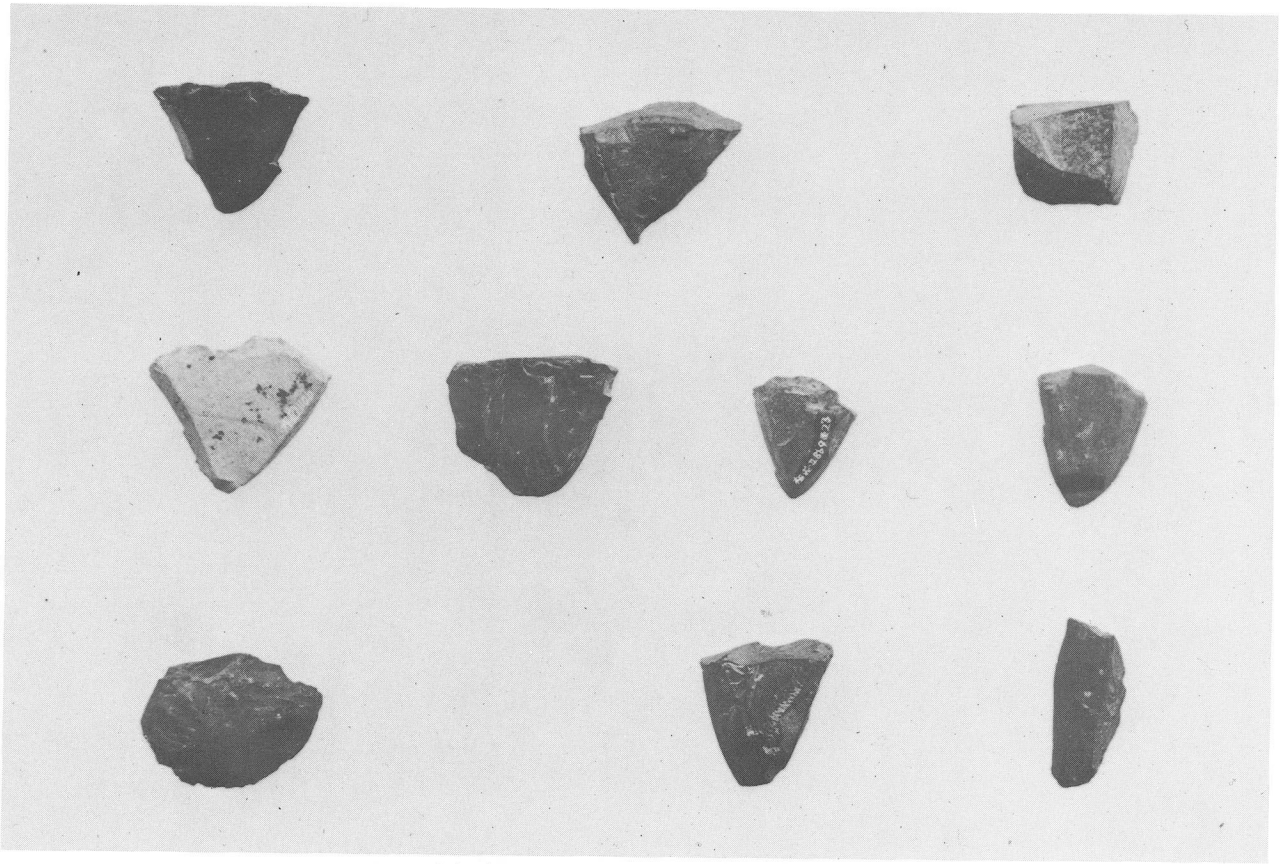
(1)　ハリ質安山岩，母岩，剝片（表面）



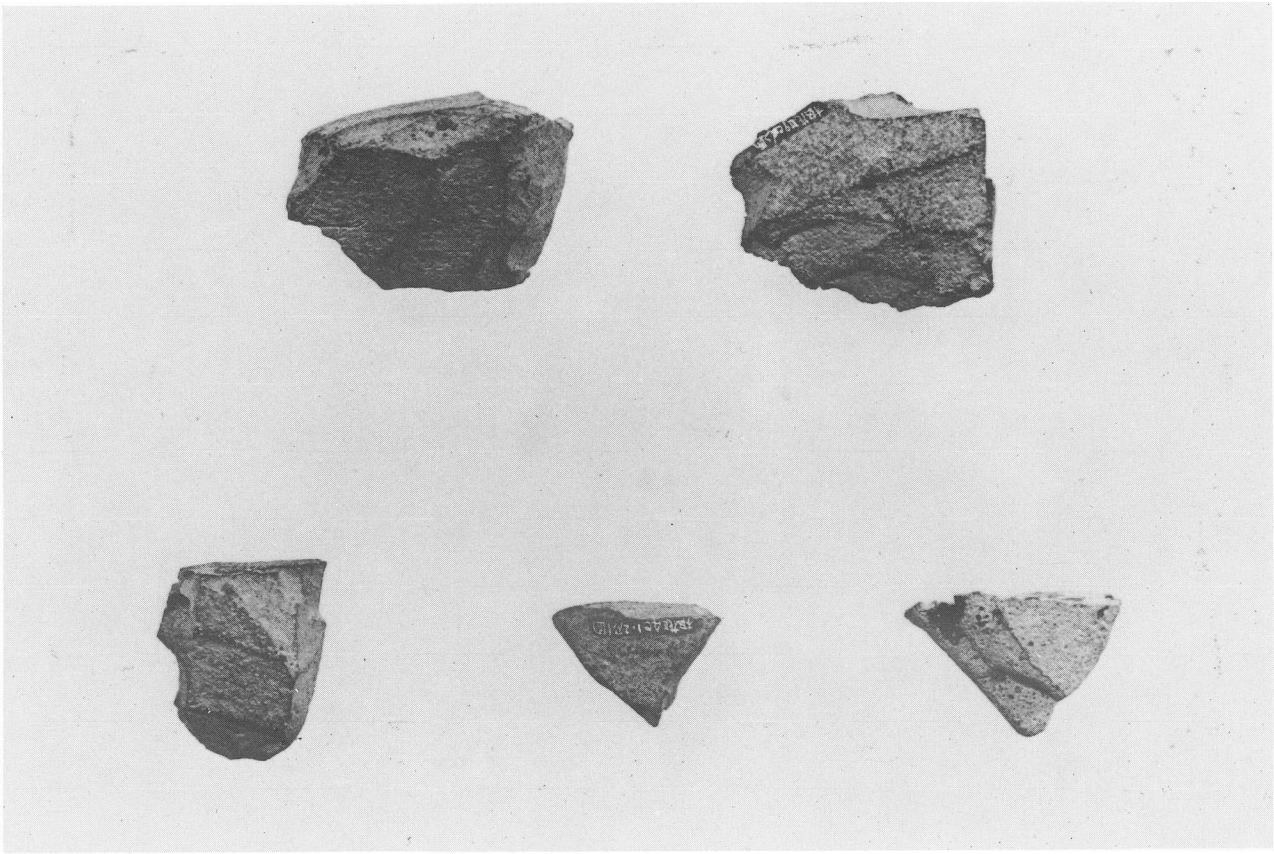
(2)　細石刃核未製品，コア・ブランク，再生剝片（表面）



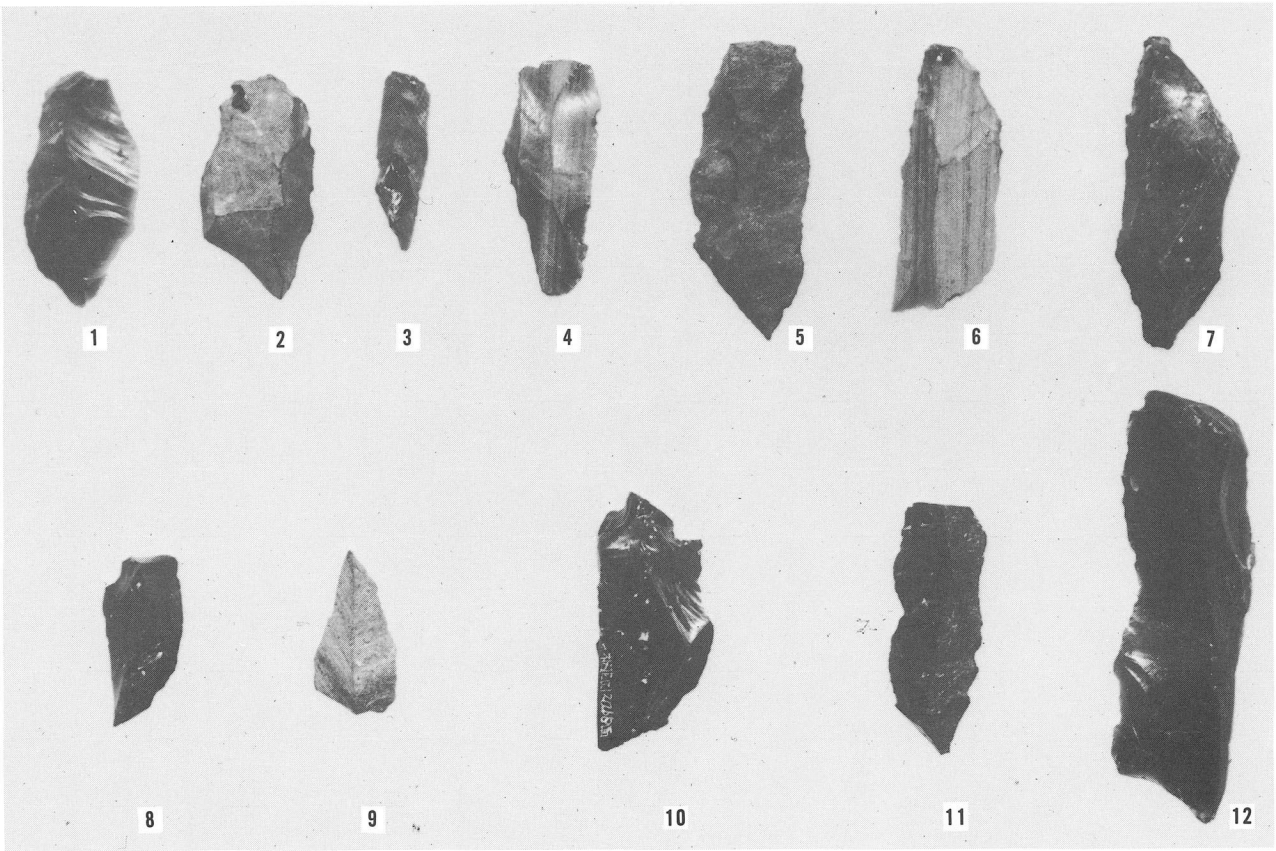
(1)　細石刃核A—Ⅰi ii 類（表面）



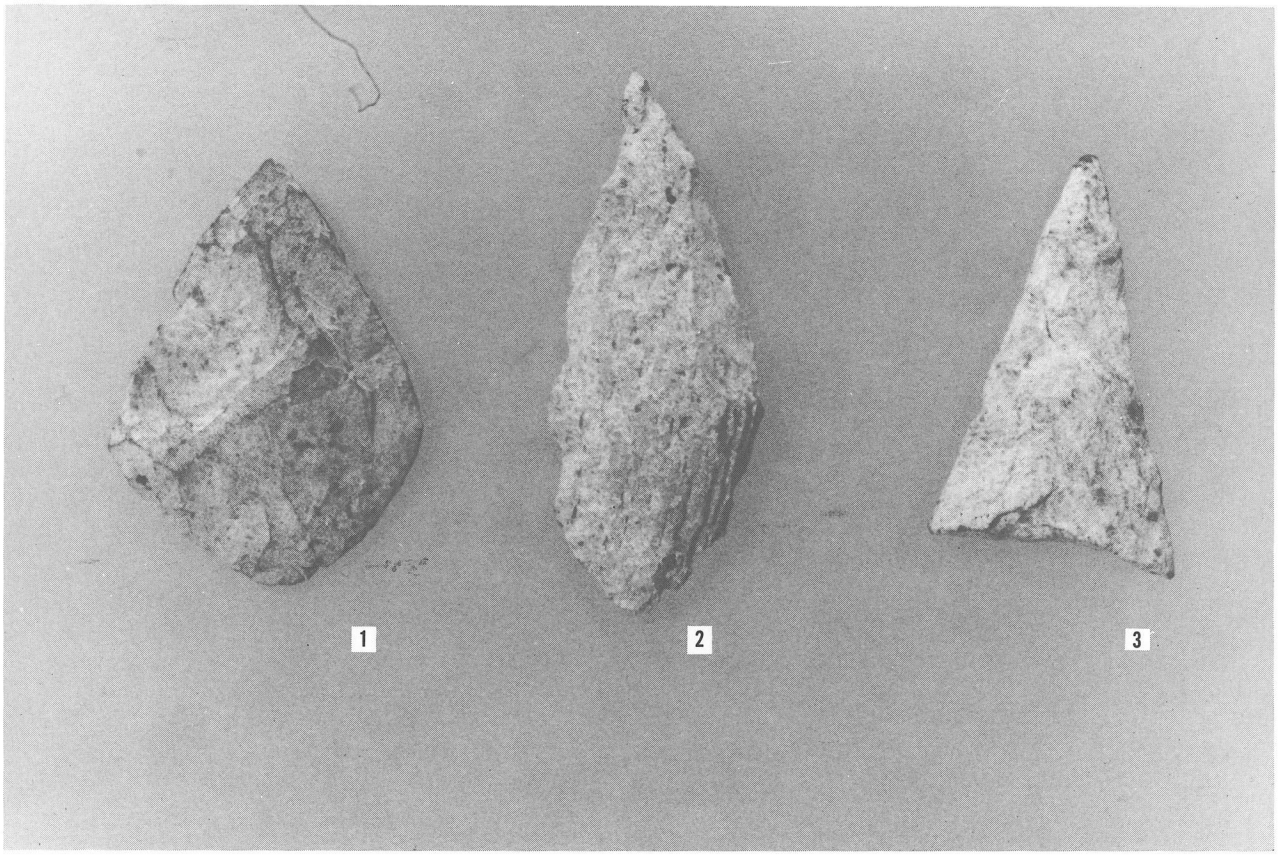
(2)　細石刃核A—Ⅱ．B．C類（表面）



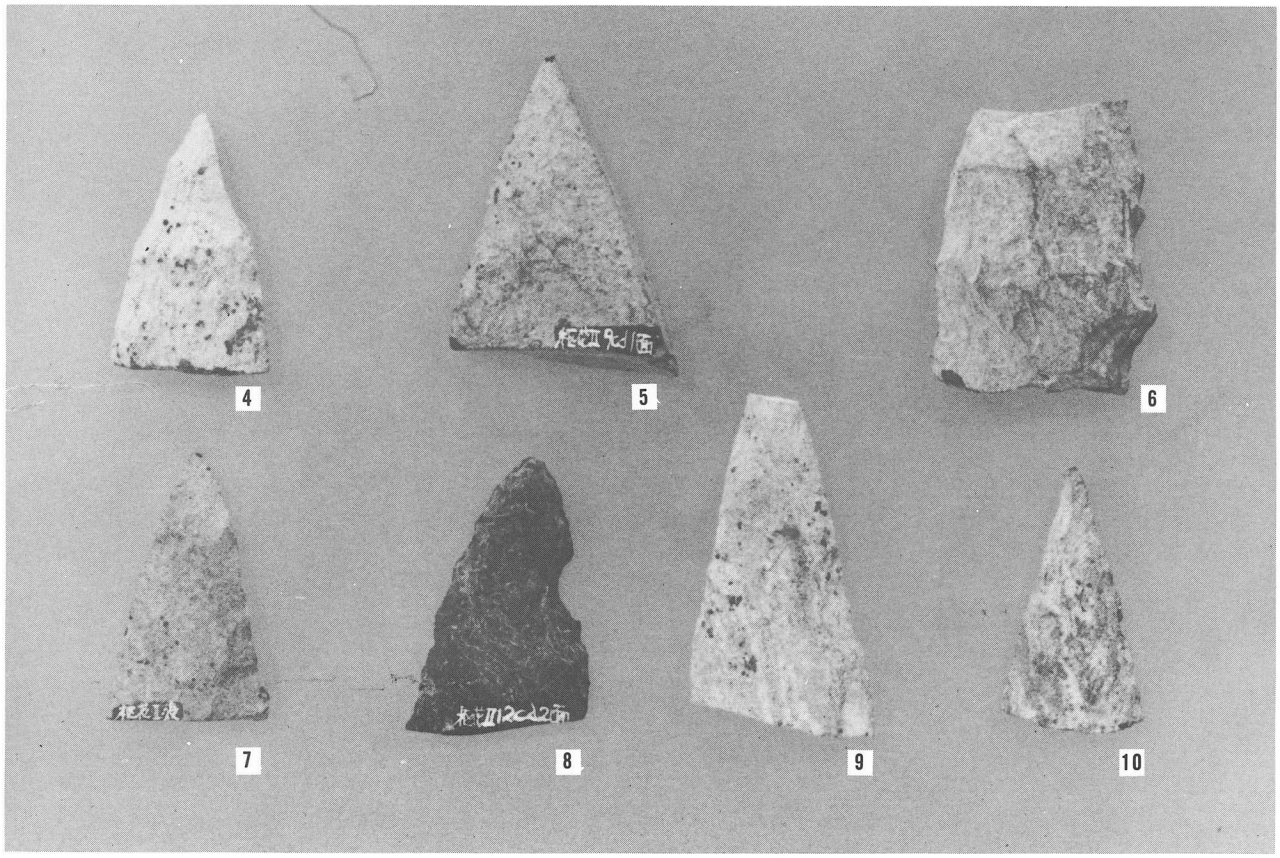
(1)　サヌカイト製細石刃核（表面）



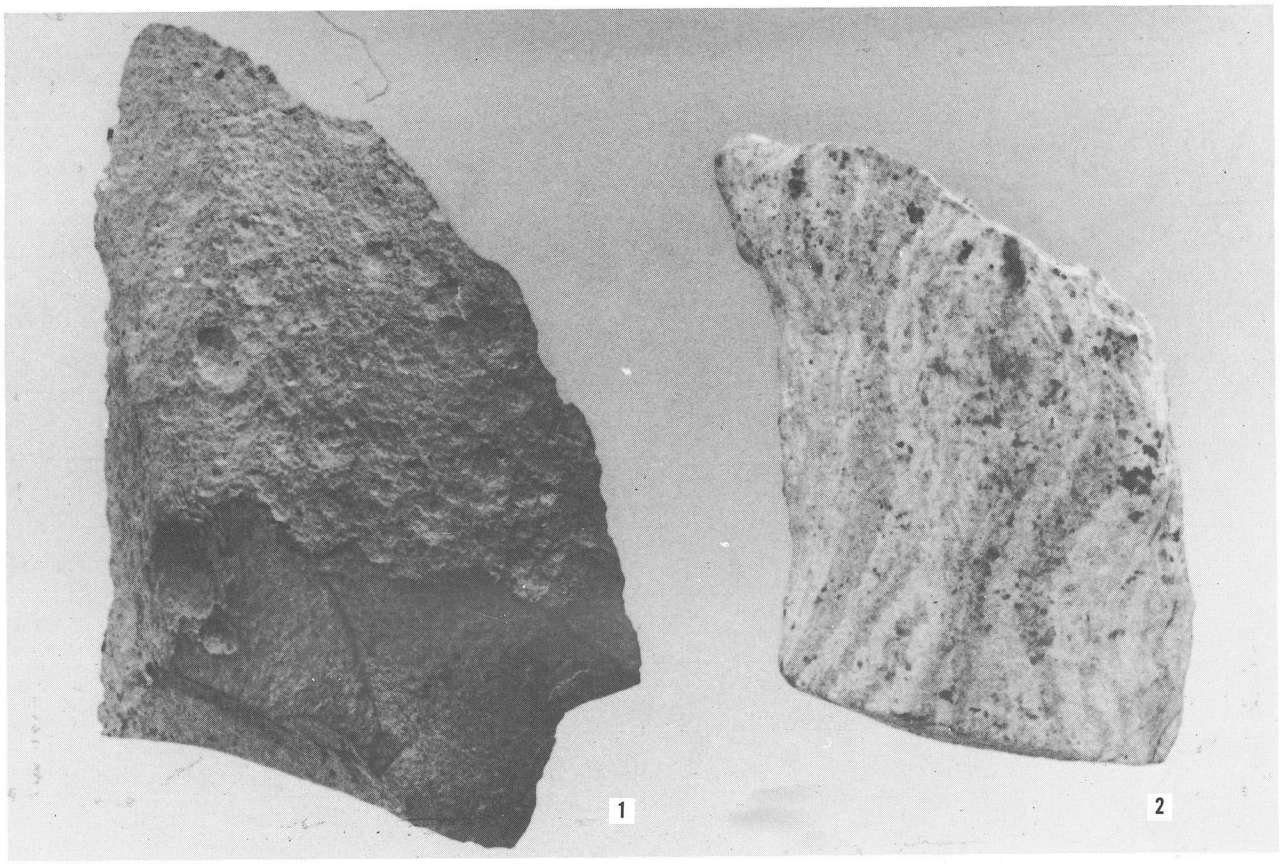
(2)　黒曜石製石器（表面）



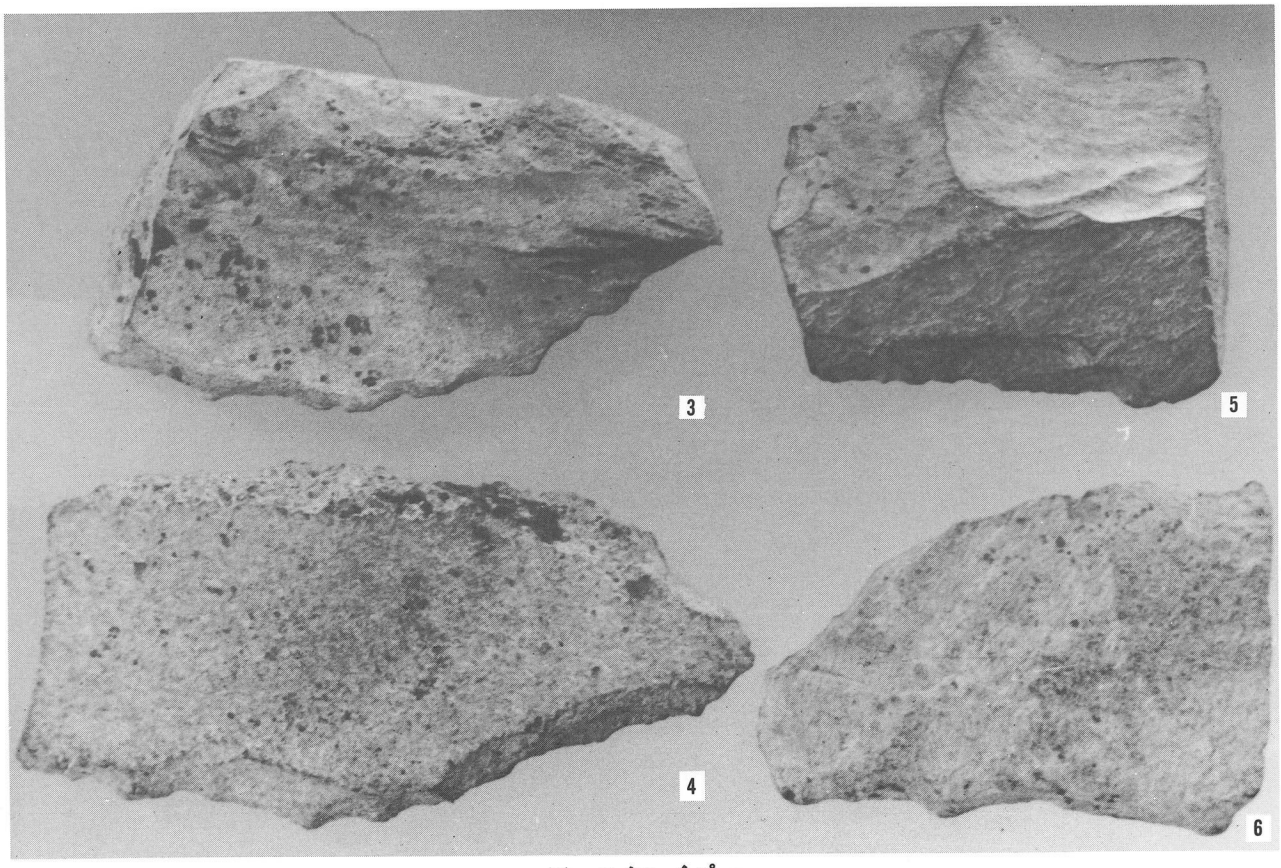
(1)　尖頭器（A面）



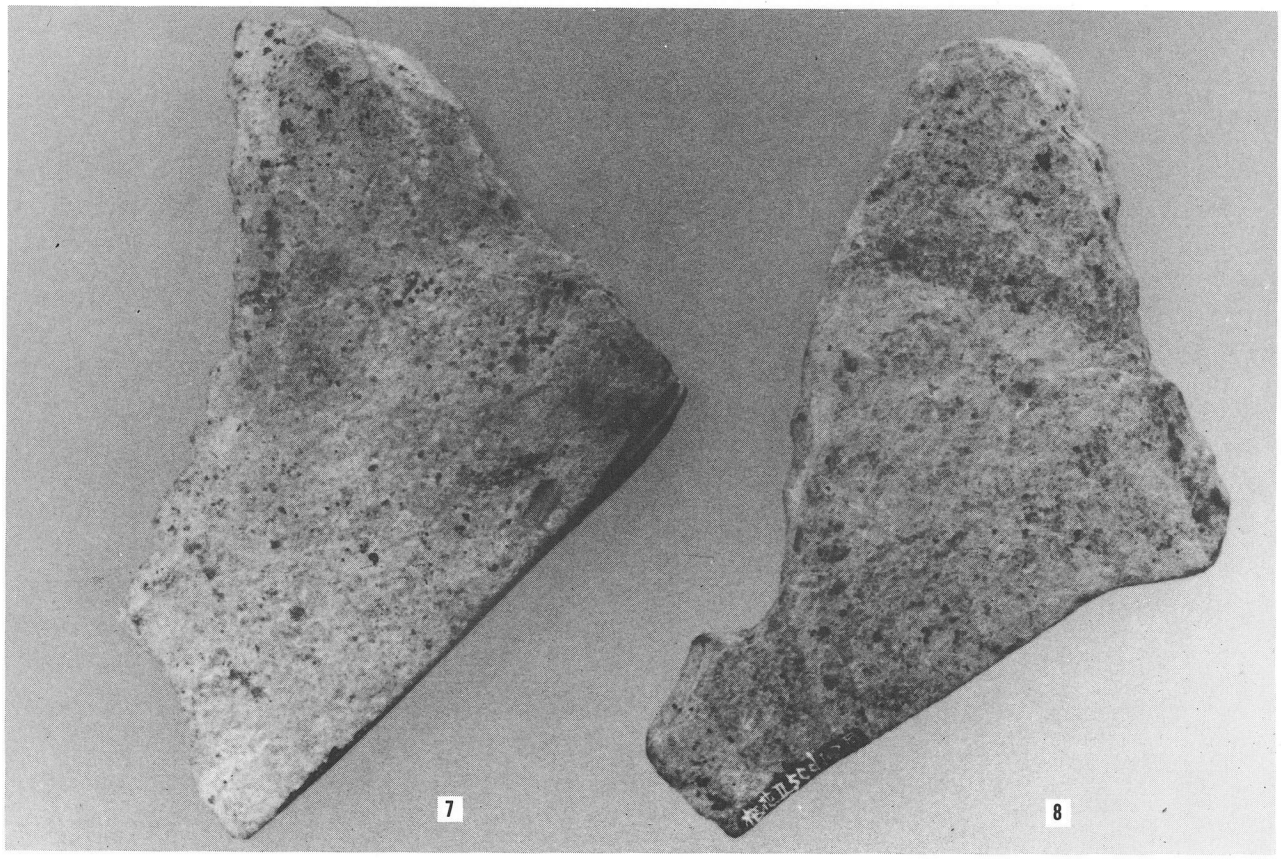
(2)　尖頭器（A面）



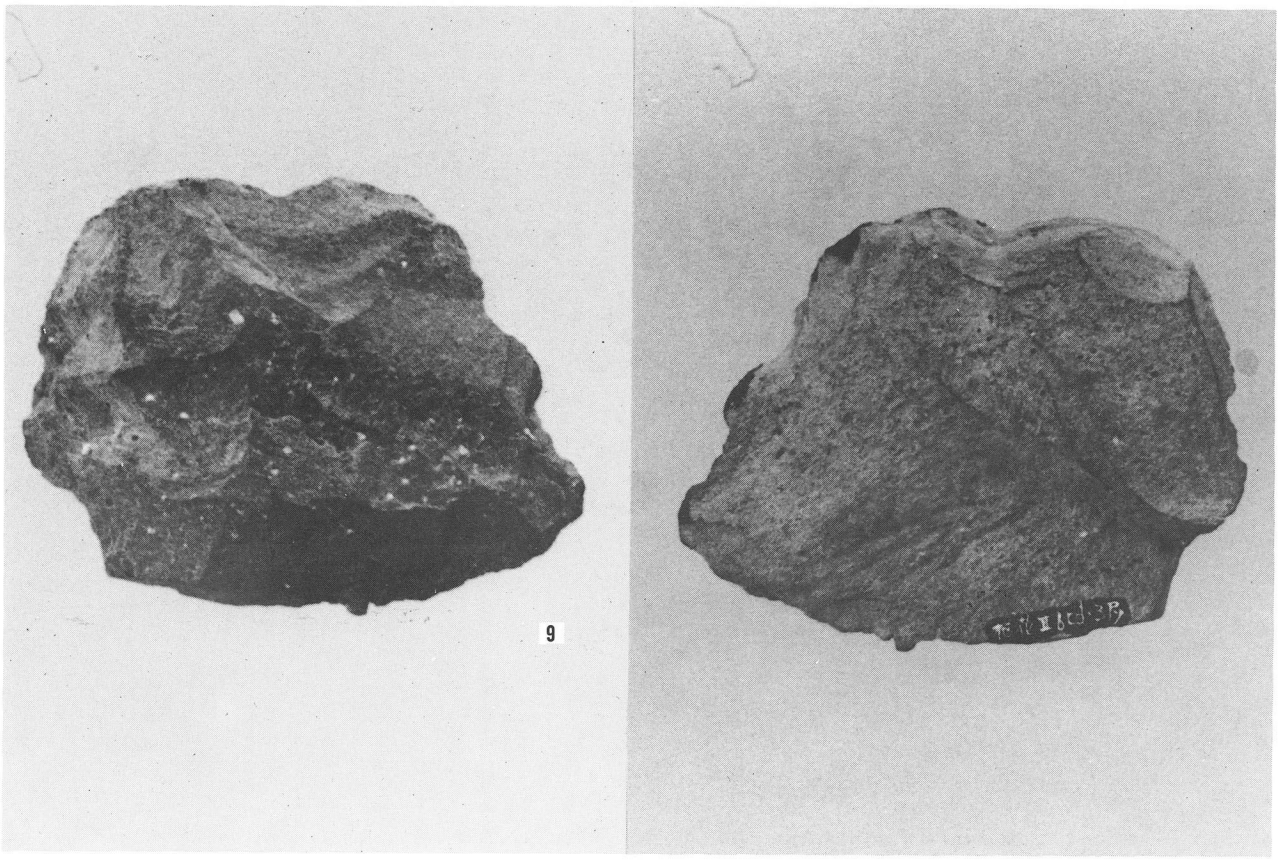
(1)　スクレイパー



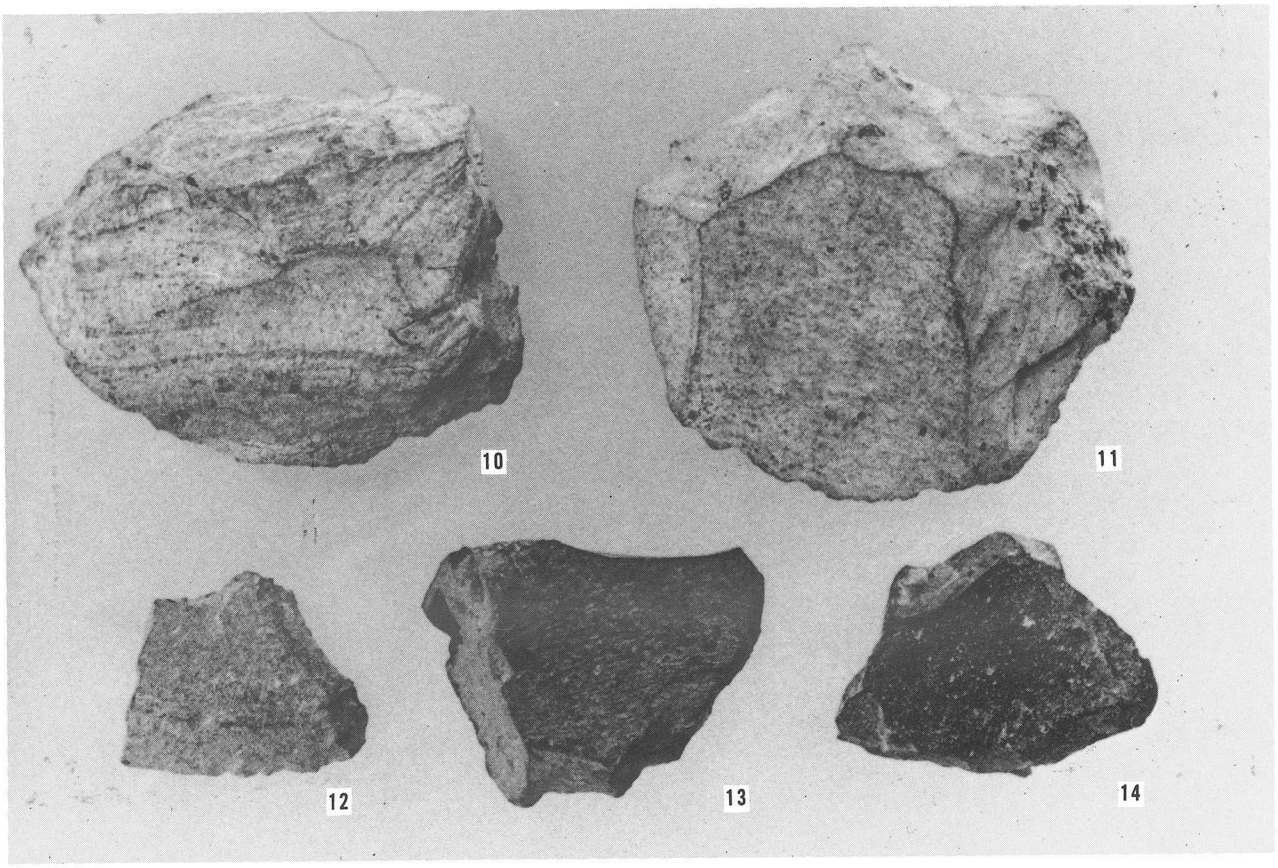
(2)　スクレイパー



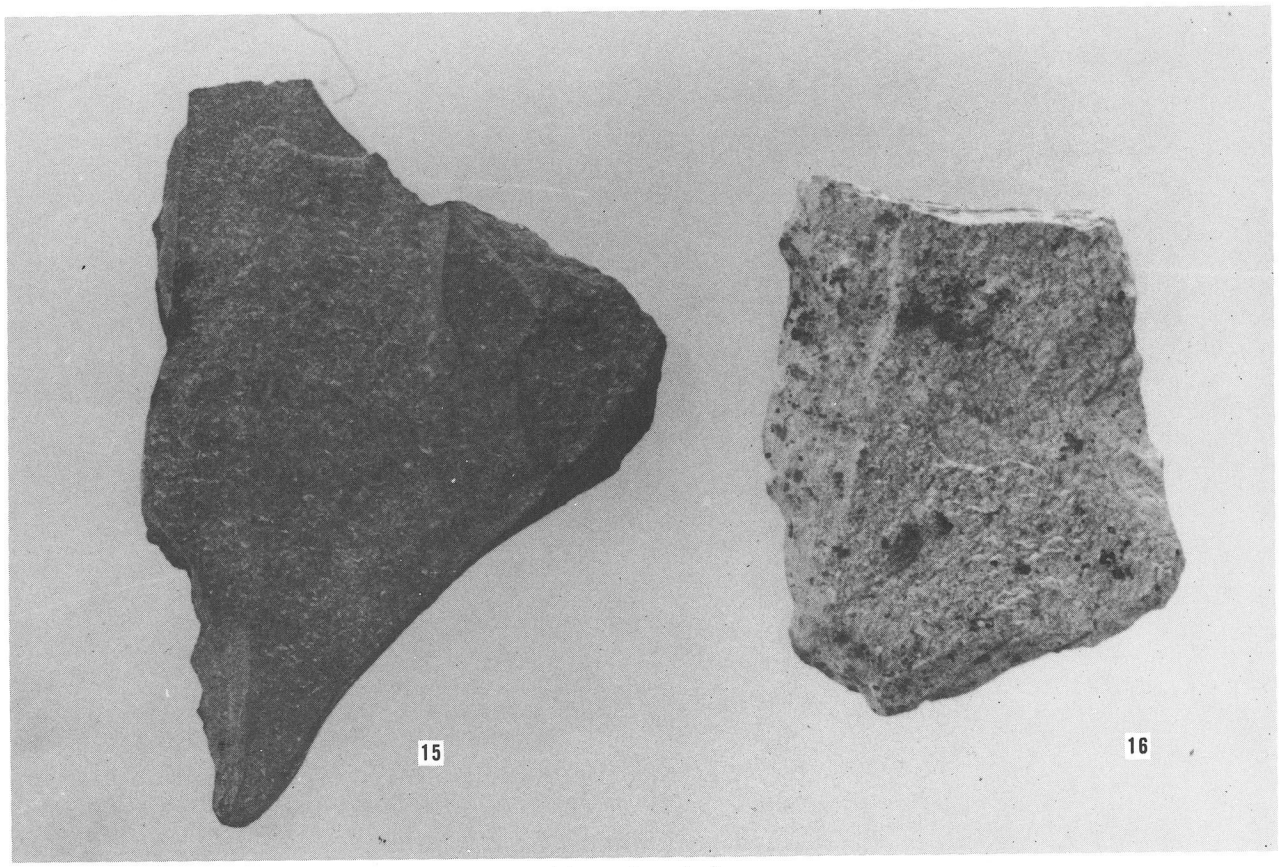
(1)　スクレイパー



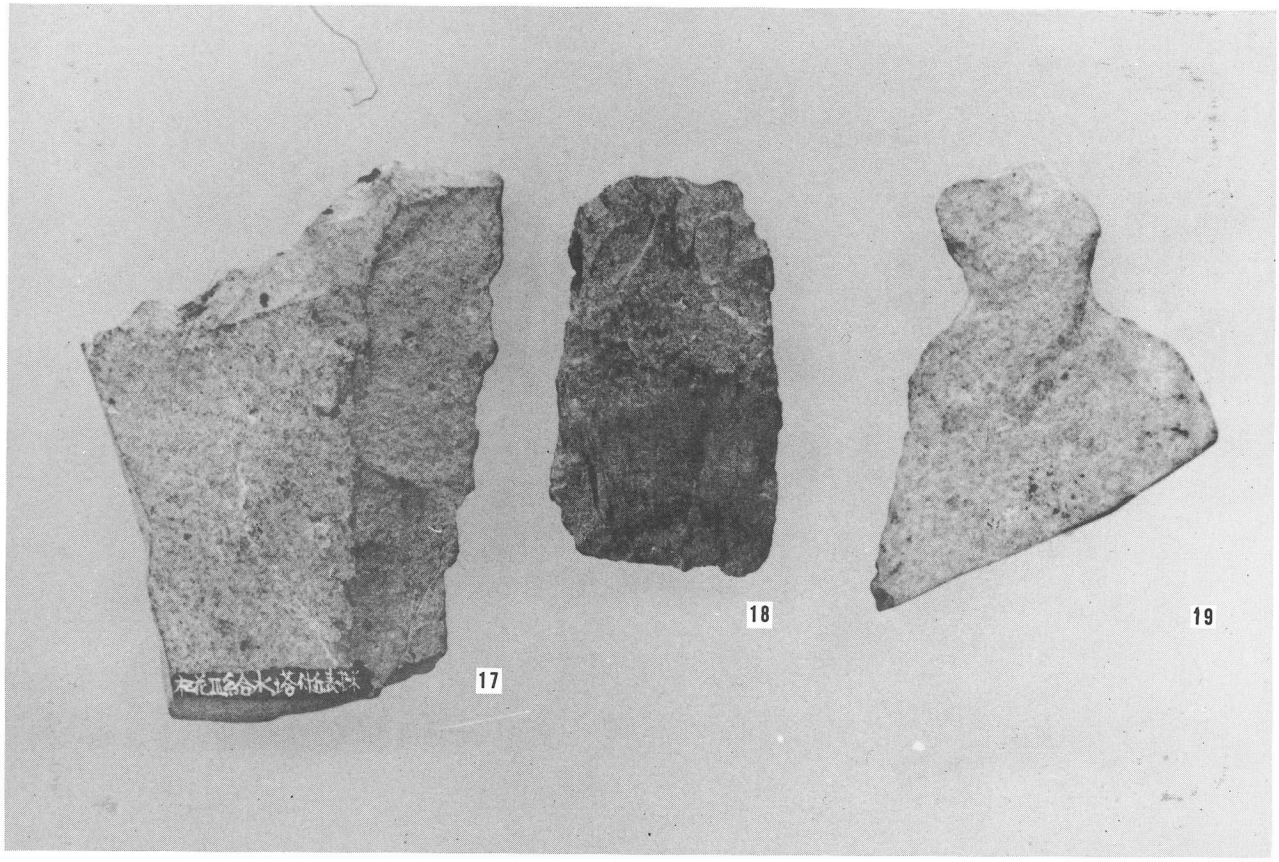
(2)　スクレイパー



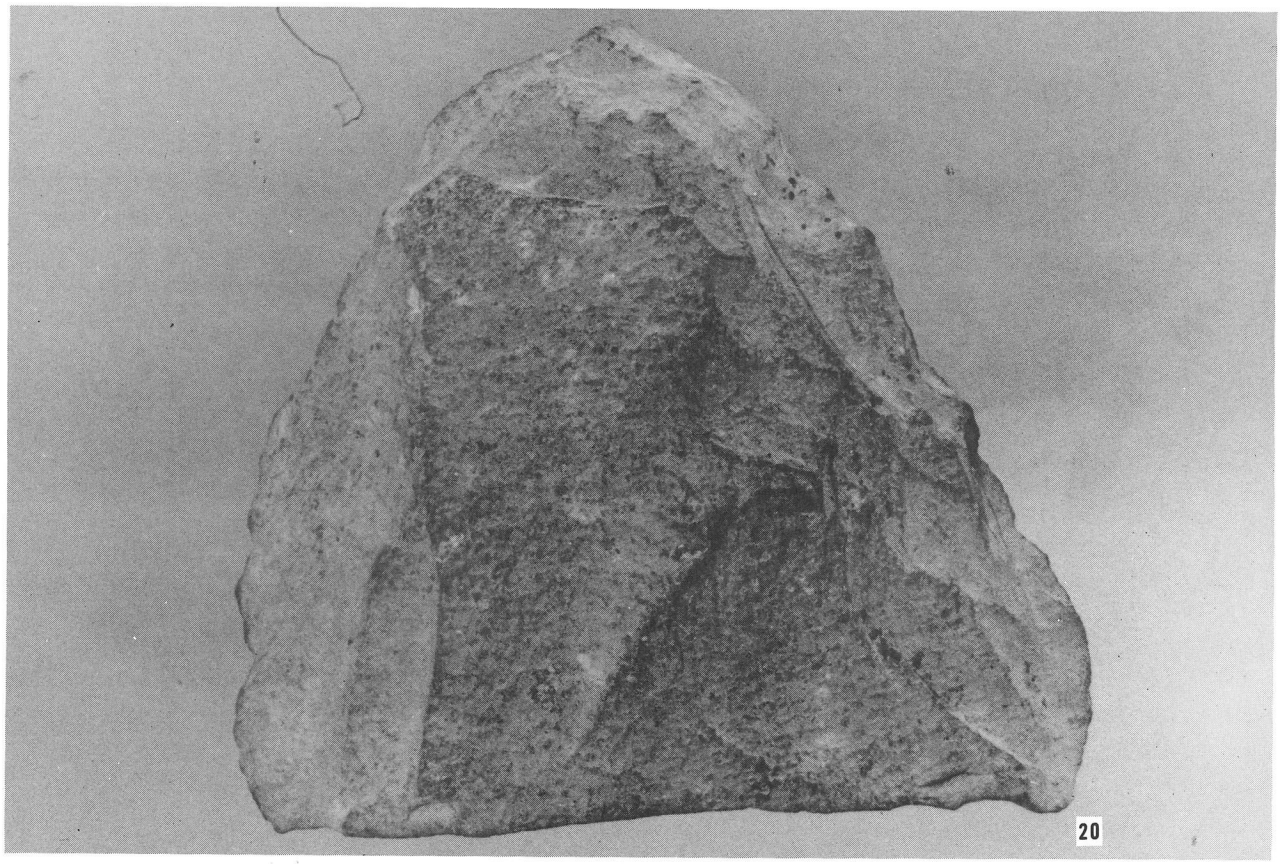
(1)　スクレイパー



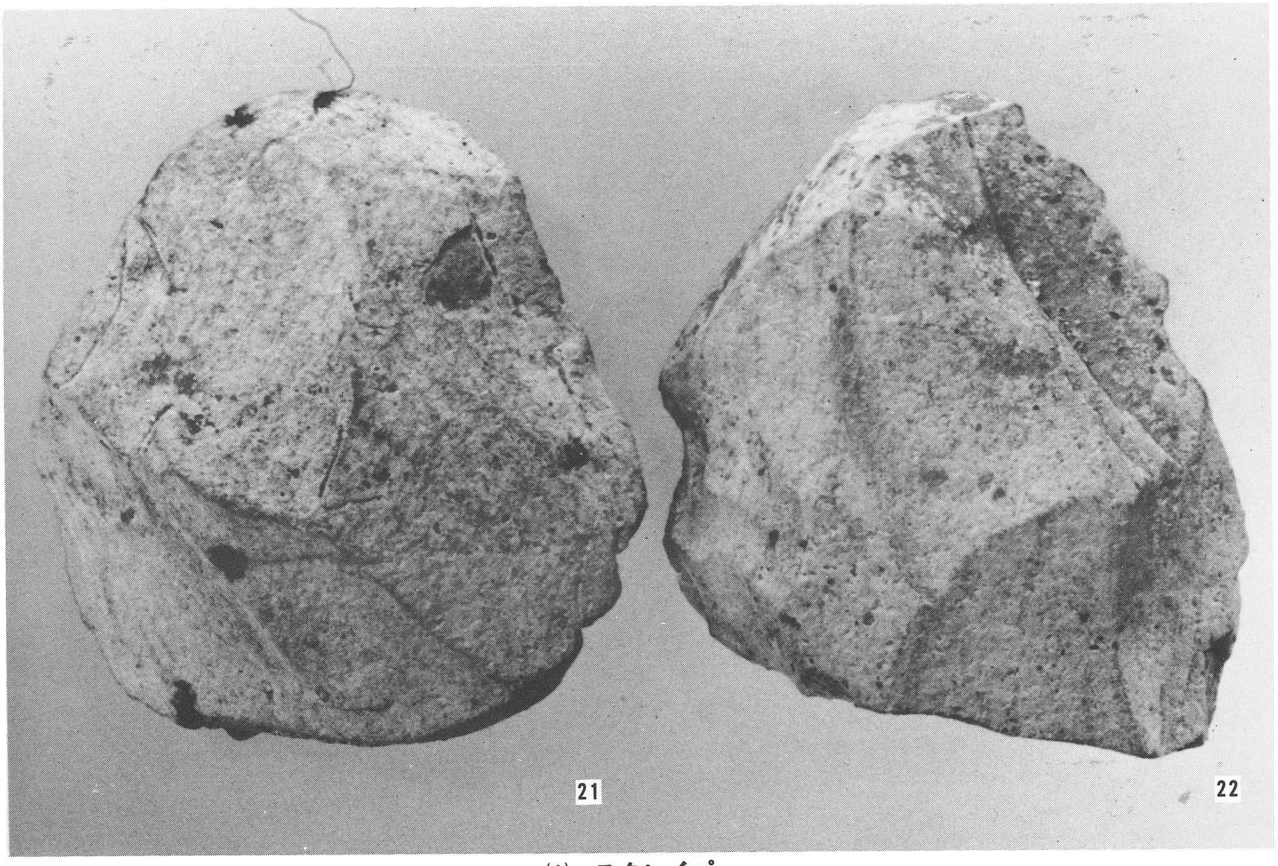
(2)　スクレイパー



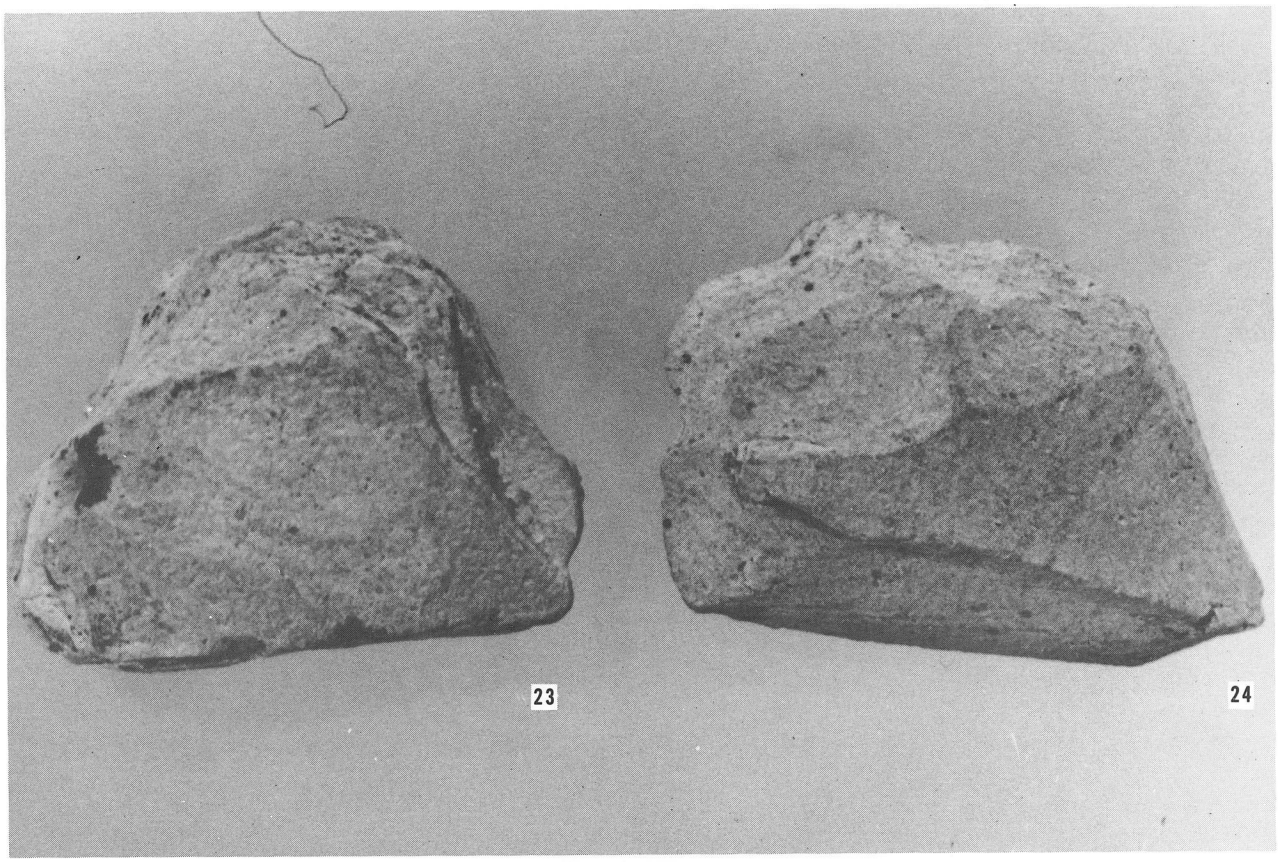
(1)　スクレイパー



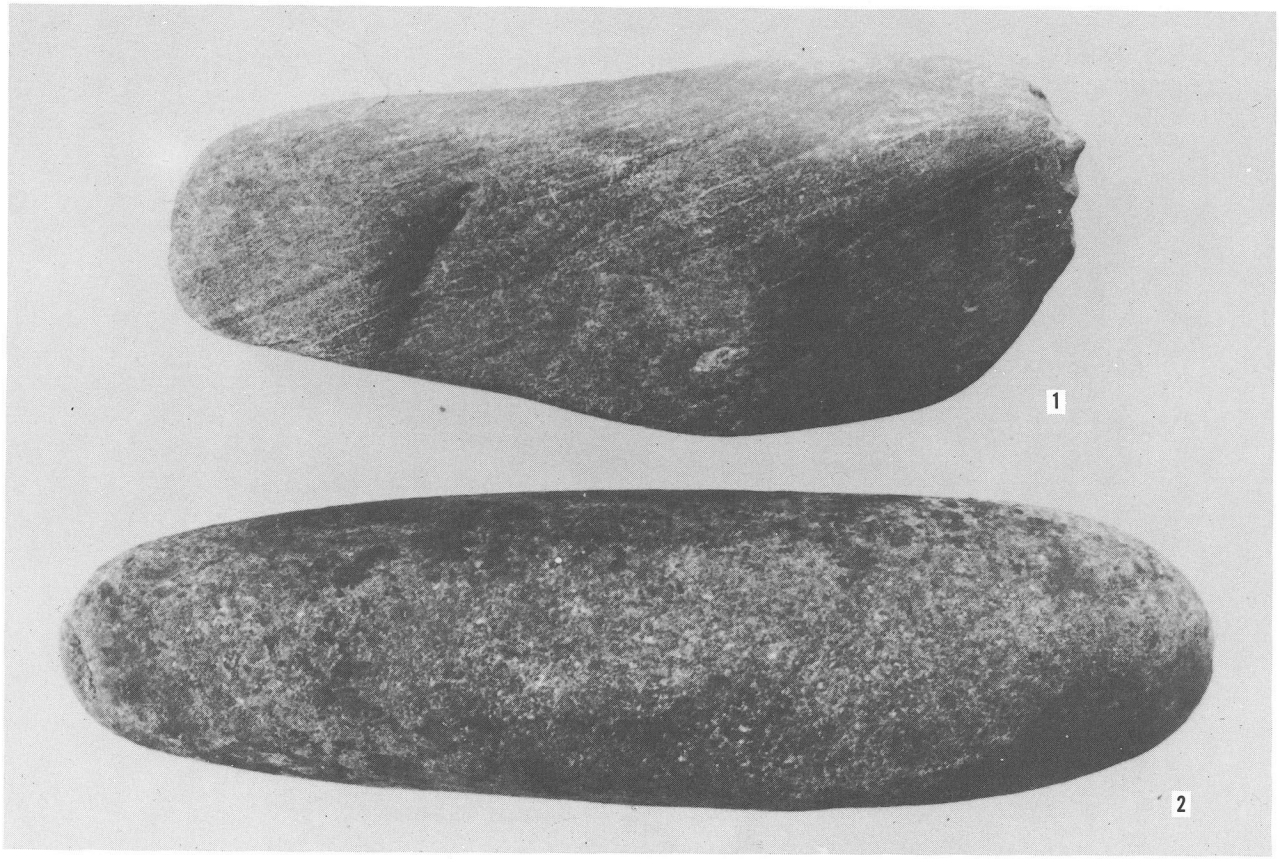
(2)　スクレイパー



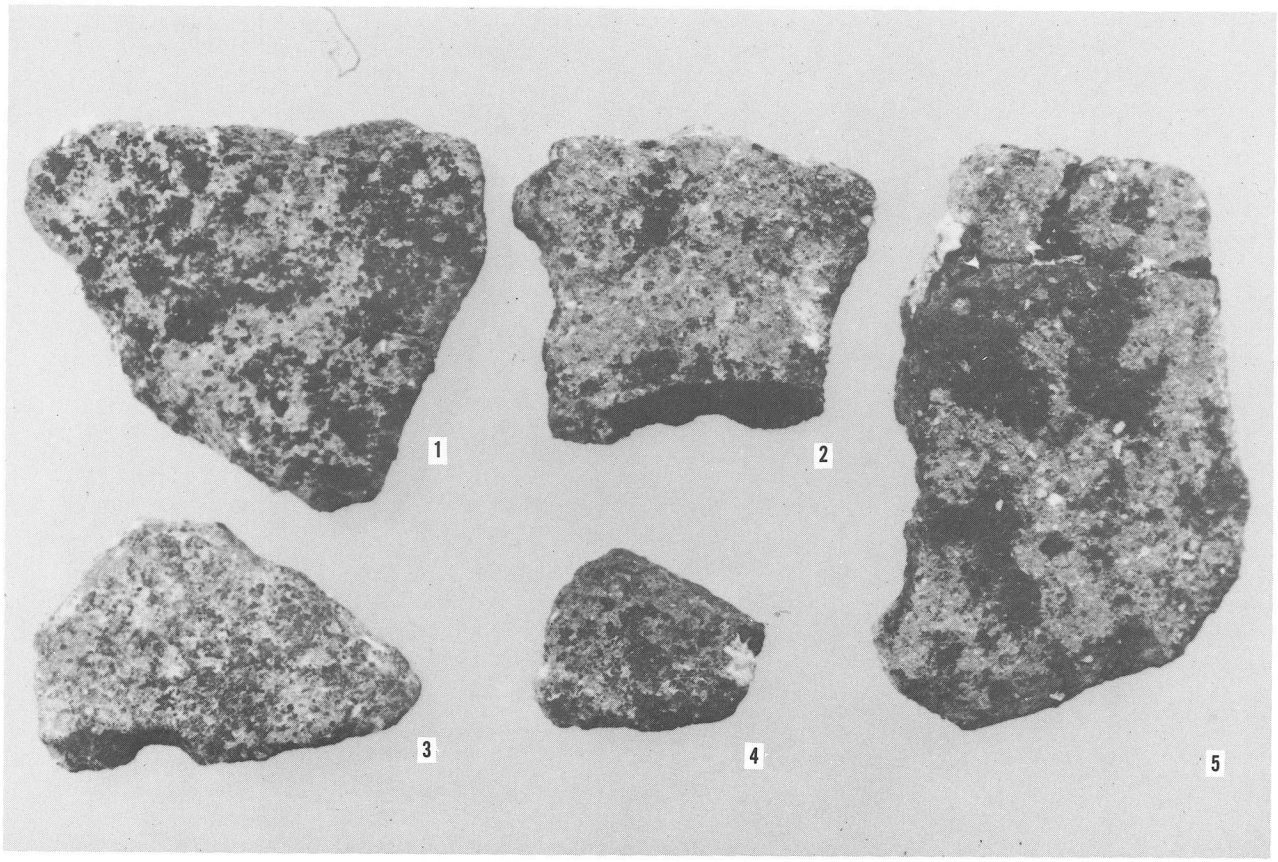
(1)　スクレイパー



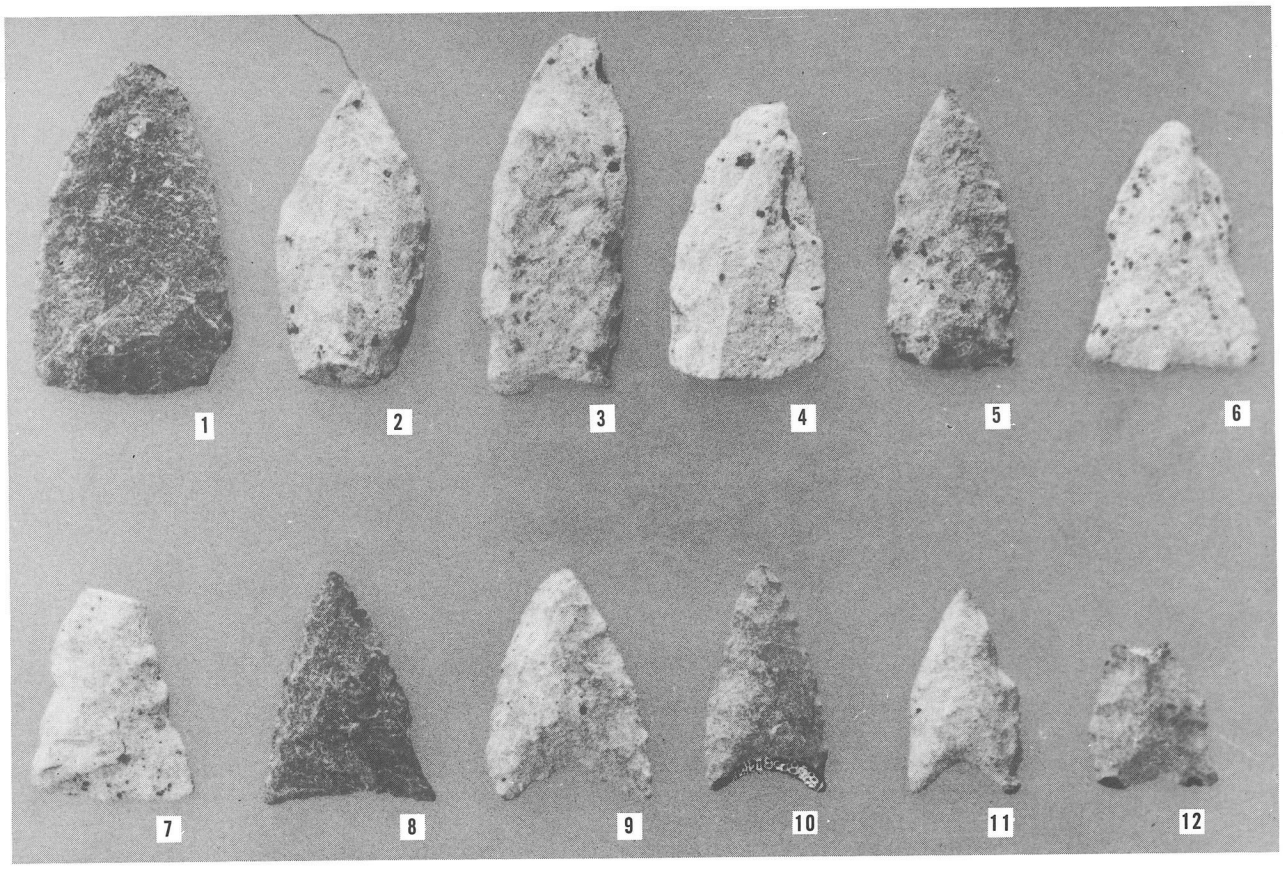
(2)　スクレイパー



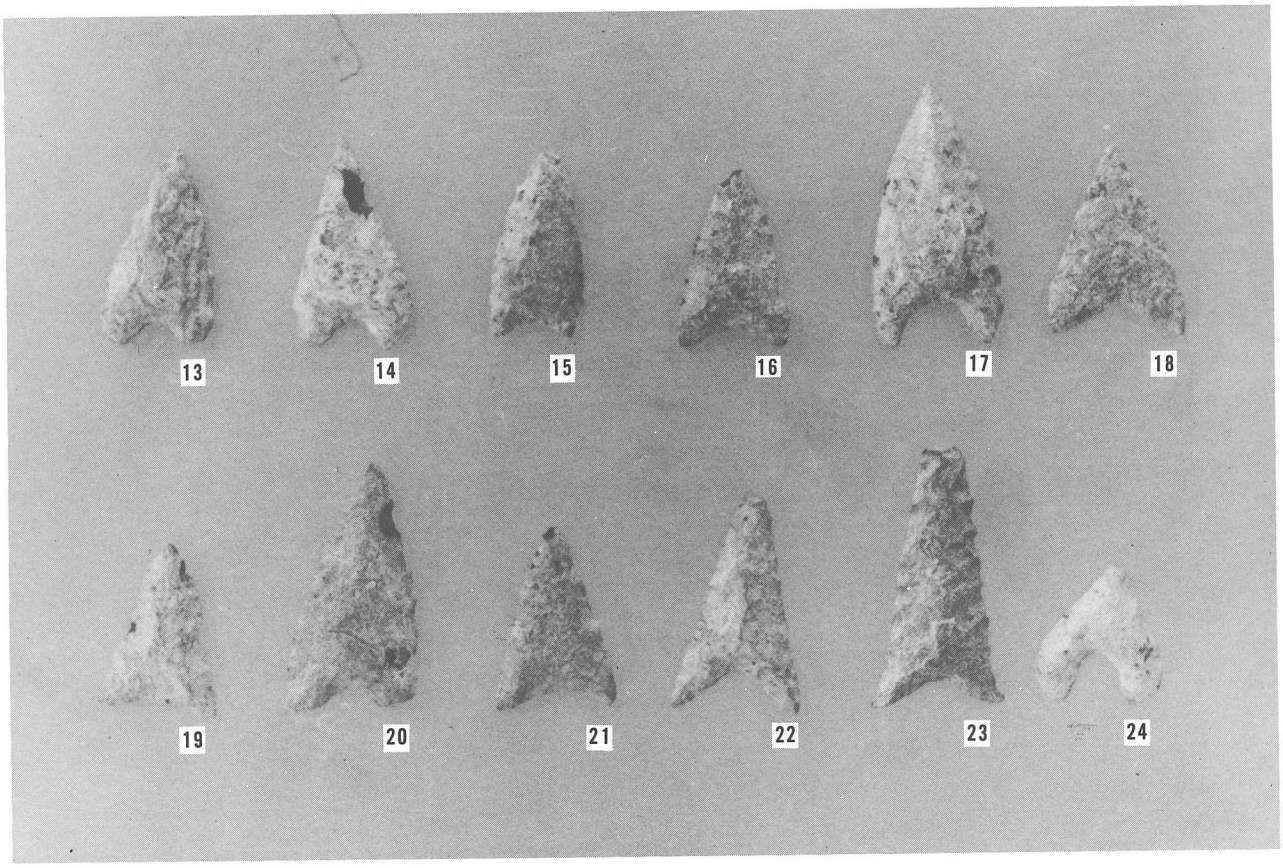
(1)　叩　石



(2)　縄文式土器



(1) 石 鏃



(2) 石 鏃

V　大浦遺跡の調査

V　大浦遺跡の調査

1　はじめに

瀬戸内海に点在する小さな島々は，今から１～２万年程前には陸地であった。そして今日海になっているところは沼地や草原であったと想像されている。人々は獣を追って草原を駆け，時には奔放に，時には厳酷な自然と戦っていたにちがいない。そうした人々の生活の証が島々に残されていることは古くから知られていた。櫃石島（ひついしじま）では，間壁葭子氏の精力的な調査[注(1)]等によって島のいたるところで旧石器時代遺物の存在が報告され，まさしく宝庫としての認識があった。

そこへ本州と四国を結ぶ本州四国連絡橋が計画された。そこで，香川県教育委員会では昭和51年度から工事対象地区内に予備調査をおこなって遺跡の存在・範囲・性格等を明らかにしようとした。櫃石島でも各所にトレンチが設けられて調査がおこなわれた。

大浦（おおうら）遺跡は櫃石島の最高所から南に延びた尾根がほぼ終りかけたところにあり，大浦浜を見下ろす位置にある。予備調査は尾根の中央部に11ヵ所と，西の谷筋に９ヵ所実施された。谷筋のトレンチからは流れ込みの土砂の中に数点の石器・剝片・削片等が確認されたにすぎなかった。しかし，尾根筋のトレンチでは多数の石器・剝片・削片が出土し，遺跡の存在を裏付けた。特に中央部平坦地南端では良好な包含層が確認され，石器製作趾が期待された。

出土した製品の中には，ナイフ形石器・縦長剝片とともに細石刃・細石刃核が確認されている。このことは花見山遺跡との関連性を喚起させている。

本調査は予備調査の成果に基づき，3200㎡を対象としておこなうこととし，６月11日より開始した。　（斉藤）

注

(1)　間壁葭子「櫃石島採集の石器」『倉敷考古館集報第４号』

2 調査経過

現地調査は，昭和55年６月11日に着手し，同年12月16日に終了，約半年を要した。

調査日誌抄

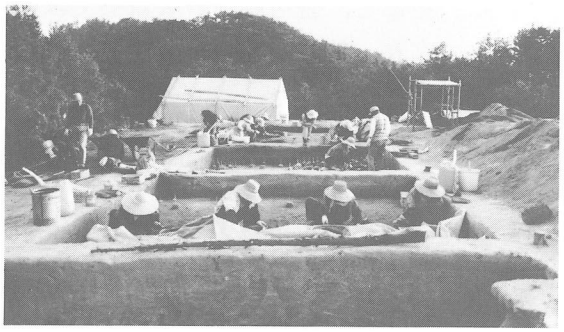
６月11日　発掘現場の現地踏査。発掘前写真撮影。伐開作業。区画設定・杭打ち。

６月13日　伐開作業中，作業員Ａさんが左足膝頭部裂傷。

６月17日　調査区尾根部（ｅ，ｆ列）の遺物検出作業開始。

６月19日　尾根筋両側に新区画設定・杭打ち。

６月23日　ｆ－10，ｆ－12，ｆ－14，ｆ－16の写真撮影。ｆ－10，ｆ－14の平板実測とレベル計測。気象条件良好で作業ペース向上。



第１図　調査風景（北より）

６月24日　調査区拡張のため，地権者の借地契約書類の作成及び一部交渉。

６月26日　ｅ－９より縦長剥片石核，ｅ－12よりチャート，黒曜石，マイクロ・コア出土。

６月30日　ｆ－12，13，14，15，16の遺物出土数かなり多し。ｆ－10で予備調査で確認された不明石組みを検出。ｅ－９にピットらしきもの検出。

７月３日　発掘は依然ｆ列中心。ハリ質の剥片が多数出土。予備調査による試掘跡は，地山に至るまで深掘りする。

７月８日　ｅ，ｆ列は掘り進むにつれ出土点数は増加傾向。ｆ－13より木葉形尖頭器，縦長剥片石核，円盤状土製品。文化庁稲田文部技官，旧石器文化発掘調査視察のため来島。

７月11日　この一週間は雨の日が多く，作業は遅滞ぎみ。遺物流失の恐れあり。

７月15日　夏の強い陽射が照りつけ始める。ｆ－16で野壺を検出。ｅ－14から本調査最初のナイフ形石器出土。

７月16日　ｅ－15より押型文土器破片出土。

７月17日　梅雨明けのうだるような射熱のため地面が乾燥し，水分蒸発著しく，撒水なしでは発掘困難。

７月23日　ｅ－16の花崗岩礫が集中する箇所より先端だけ残存の尖頭器出土。

７月24日　ｅ－16の集石群南側で野壺検出。

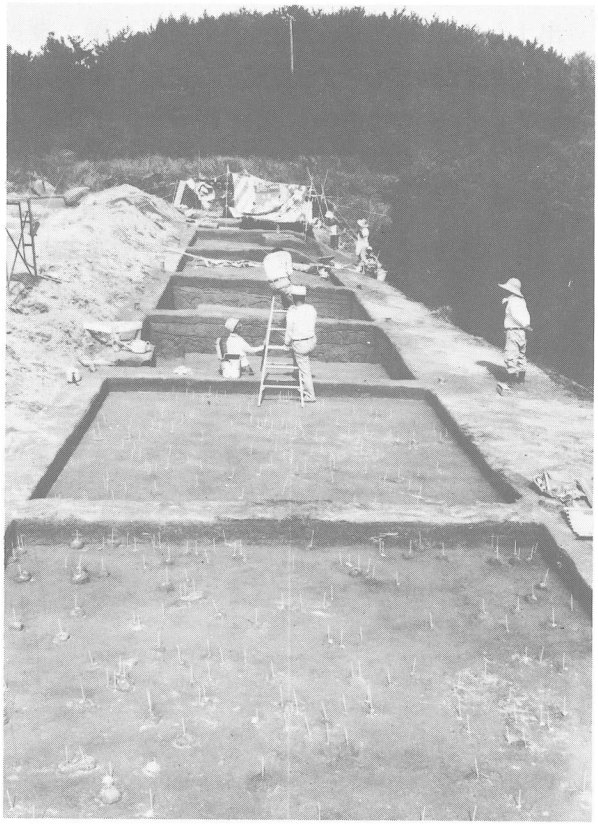
７月31日　ｆ－14，15を除くｆ列全域とｅ－12で軟質黄褐色土の面が確認されており，遺物出土最終面の状況を呈しているため深掘りのトレンチ設定。香川大学歴研の学生十数名現場見学。

８月１日　ｆ列の深掘り開始。土層の堆積状況を検討する。

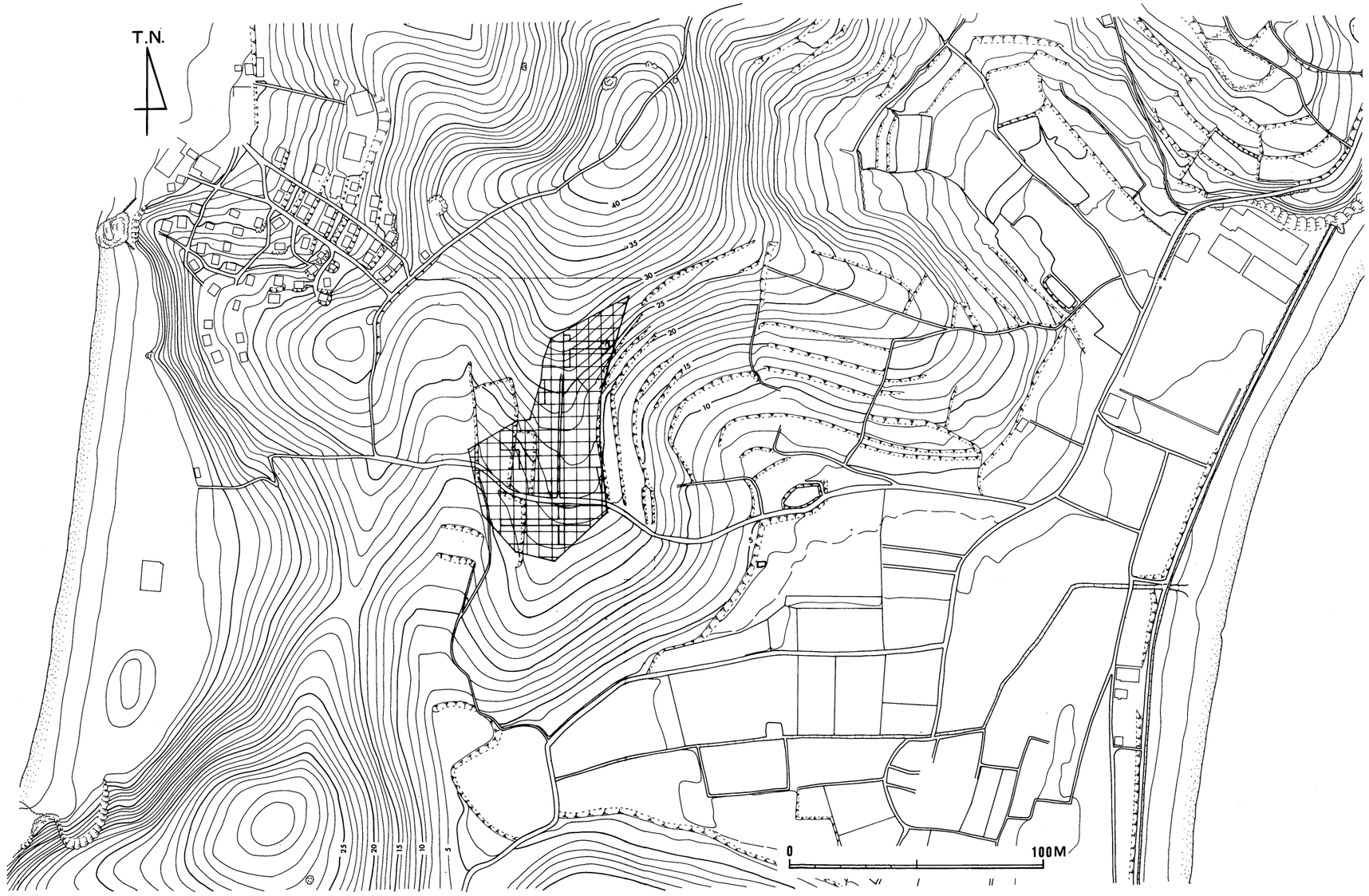
８月７日　ｆ列８～13は深掘り終了，土層序の線引きを行う。

８月11日　土層序実測開始。

８月18日　花見山遺跡からベルコン運搬。始業時小雨，次第に雨足強まって午前中で作業中



第２図　調査風景（南より）



第 3 図　大浦遺跡地形図

止。毎度のことながら天候判断には悩まされる。

8月19日 f－16よりナイフ形石器出土。明日の埋戻しのためベルコンエンジンの試運転，調子良好。

8月20日 7：50より降雨。しかし埋戻し作業強行。

8月25日 g列発掘開始。（g－12，13）

8月27日 e－9，10よりハリ質安山岩，マイクロ・コア出土，g－13，e11，e－13より石鏃，e－13からナイフ形石器出土。現在発掘調査区南側にトレンチ設定予定のため伐開を行う。草刈機を導入したので順調。

9月1日 伐開作業終了。e－16では花崗岩排除後，下方より7個の縦長剝片検出。

9月4日 南側トレンチ設定・杭打ち。e－16花崗岩集中個所の平面図・レベル計測。

9月5日 倉敷考古館の間壁葭子氏来島。縦長剝片の量に驚いた様子。f列はf－16を残し全て終了のため精査はe列が中心。

9月16日 e列ほぼ終了。道南側トレンチ第1層除去。

9月22日 d列（d－19）精査開始。堆積は残りが硬質であるため掘り下げが難行する。遺物は皆無に近い状態。e－9にみられた褐色の広がりを精査する。大半が全てハリ質安山岩でマイクロ・ブレイドも含まれている。現状では不明の落ち込みとする。

9月24日 道南トレンチでは10cm程度で地山になる個所有り。遺物出土ほとんどなし。

10月1日 g列に精査の主力を注ぐ。g－14，15では表土層にチャート，石鏃，縦長剝片など多数の遺物。

10月3日 e－8，g－9～11では遺物出土数極少。また，g－12，13の最終面でも出土数は少なくなる。

10月8日 f－16終了。g－14，15では黒曜石，ナイフ形石器，縦長剝片石核，スクレイパーなど依然として遺物出土数多し。

13～14日 台風通過のため現場作業中止。

10月16日 g－14，15よりサヌカイト砕片，押型文・無文土器片が比較的多く出土。

10月23日 調査区北側ミカン畑の調査区設定内及び周辺の立木伐採。

11月4日 「アサヒグラフ」取材ヘリコプターが上空旋回し写真撮影。

11月5日 朝日新聞茨木氏「アサヒグラフ」取材のため来訪。h列（h－15，16），発掘開始。d－16より石匙出土。

11月6日 北トレンチ，d列では遺物ほとんどなし。

11月12日 d－16精査中，小円礫が多数出土するが不明である。先に石匙，山形押型文土器も出土しているので注意が必要だ。

11月14日 西トレンチ発掘開始。

11月26日 調査は終了まであと一歩。作業員の配置を考えなくてはならない。

12月2日 西トレンチ（a，b－13）は表土から60cmで軟質，淡白黄土色の砂層を検出。当地区は瓦片など新しい遺物が主体をしめる。

12月4日 北西季節風のため波高く，本島便欠航，作業員現場へ来れず。調査員を乗せた船は運航。d列の土層序実測捗る。

12月9日 岡山大学近藤義郎氏来訪。d列完了。a－19，20の拡張区発掘順調。かなり下方まで新しい遺物を包含。

12月11日 精査全て終了。数グリッドの土層序実測を残すのみ。

12月16日 調査完了。

（東原）

3　調査区の設定と調査の方法

調査対象地区一帯は開墾によって数段の畑地になっており，原地形はかなり変容しているものと思われた。調査区の基本軸は真北に合わせるため第五座標系を基本として設定した。この軸に基づいて調査区全域に５ｍのグリッドを敷き，交点に杭打ちをおこなった。杭には西より順次ａからｉのアルファベットを，また北より１から21の数字を付した。このため，杭のｇ列が，ｙ＝－48.540，８区がｘ＝－175.500に合致している。（第４図）各グリッドの名称は北西隅の杭番号を用いることとし，ｅ－15，ｅ－16……と呼ぶことにした。

予備調査の結果により，調査区の中央に位置する平坦地に遺物の集中が見られることがわかっていた。そこで，調査の中心をここに置くことにし，この平坦地の全グリッドを発掘することにした。ｄ・ｅ・ｆ・ｇ列の８から９区及びｈ列の15・16区がこれに該当する。この平坦地の周辺部には狭小な平坦地が段差をもって連なっているが，遺物の散布は稀薄であることが予想された。そこで，この地域にはトレンチを設けて状況を把握することにした。トレンチはグリッドの区画に基づいて設定し，幅は半分の 2.5ｍとすることにした。原地形の復元も併せて意図したので，尾根筋に沿ったものと直交するものを，各平坦地をカバーできるように配した。

調査は中央平坦部から始めた。ここは各グリッド間に50cmの畦を残して全掘することにした。排土置場と埋め戻しの都合からｅ列とｆ列を先ずおこない，その排土を両側のｄ列とｇ列に置いた。ｅ列とｆ列の発掘終了後埋め戻しをおこない，ｄ列とｇ列の調査を始めた。また，周辺部のトレンチは中央平坦部の調査の進行具合に応じて順次着手した。

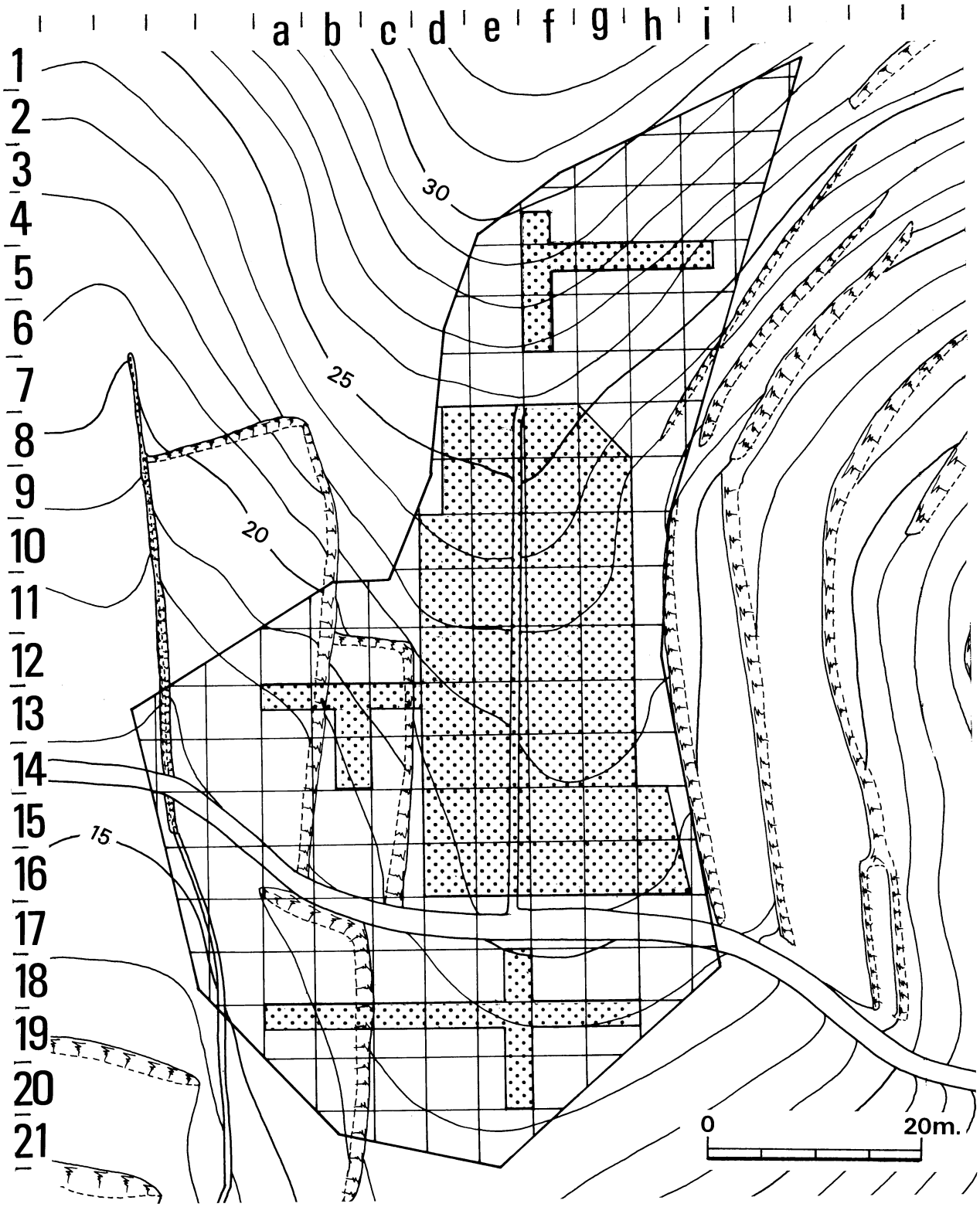
予備調査では細石刃及び細石刃核が出土しており，本調査でも当然出土が予想されたので，慎重を期し，これに対応する掘り方をとった。表土は畑地の耕作土であったが，上記の理由により「ふるい」は使用せず精査し，出土地点を明確にして平板による実測をおこなった。あわせて絶対高も記録した。１面の掘り下げは原則として約10cmとした。ｄ～ｆ列の８～10までは地山までの堆積が比較的浅く，１面～４面で終了した。ｇ列は尾根の東側斜面部になるために，またｄ～ｆ列でも，16区に向かうに従って傾斜しているため堆積は深くなっていた。このため，掘り下げを行う回数は多くなった。１回に掘り下げる深さは前述した如く約10cmを基準としたが，土層の境目はこれを尊重した。この結果，ｄ～ｇ列の15・16では出土遺物が集中したこともあって，１回に10cm掘り下げることができず，平板測量も９面～12面を数えることとなった。

13区を西に延ばしたトレンチでは，ａ列が谷筋に該当することもあって，堆積が深く湧水もあった。また，遺物の出土が皆無であったので，地山の花崗岩風化土層まで到達しなかったが調査を打ち切った。周辺部のトレンチでは概して出土数が少なく，特記すべき遺物もみられなかった。

第２層中及び第３層中に花崗岩の礫群が認められた。大きさは拳大から径50～60cmを越える大きなものまで様々であったが，その配置等に規則性はなく，また遺物，掘り方等を伴うものでもなかった。しかし，赤褐色を呈し，焼けた痕跡とも考えられたので記録した。岩石は分析のため取り上げてあるので今後検討したい。全地区において出土遺物は全て平板実測をおこない，絶対高も記録した。各グリッド別の出土点数は第３表に示した。

土層の観察については，各グリッド・トレンチの北壁及び西壁を基本としたが，一部トレンチでは北壁に替えて南壁を実測した。

（斉藤）



第 4 図　大浦遺跡調査区画図

4　土層について

土層は基本的に１～５層に区分した。１層表土層（腐植物を含む），２層淡黄色土，３層褐色土層，４層淡黄褐色土層，５層地山である。基本的には５層に区分したが，３層をさらに褐色粗粒の混入状態と硬・軟質で３区分し，それぞれ３，３Ａ，３Ｂとした。尾根筋の地形のため北側と中央部は薄く，南側と東西に移る程厚く堆積する状況がみられた。

(1)　ｆ列８～16

８～11区までは３つの層であり，２層・４層がみられない当地区の３層は他地区に比較して硬質で砂粒も粗い。５層面の隆起が激しい。５層中に部分的な乳白色または黄褐色の粘質土の帯がみられる。12区より，基本的に区分した１～５層が現われる。しかし，２層の堆積は12区の北端の狭い範囲と13区中央南半，14区中央北半でみられなくなる。以下，他区の２層を除く状態は基本的な層序である。しかし，16区南半で表土層をベースとして灰色の砂質土を斑状に含む６層がみられる２層の状況から，人為的な移動による堆積土と考えられる。

(2)　ｄ列13～ｇ列13

１層は均一である。２層の堆積は有無があり ｆ列の中央，東側ｅ列全域，ｇ列西半に堆積が認められない。３層はｆ列の狭い範囲を除くと全域にみられる。しかし，区分時に３層のＡ，Ｂとした土層がｄ列に確認される。３Ａ層は３層の分層基準である褐色粗粒の混入差であり，若干淡い色調で軟質性をもち褐色粒が顕著にみられる。また，３Ｂ層は本来の３層との中間性を示すが，より３Ａ層の軟質性に近い状態である。４層の動きをみると本来の地形を推測させる。それは，尾根中央に当るｅ，ｆ列を中心として東西に緩やかなカーブを描くが，その端部の動きの変化が異なる。ｇ列端部があまり変化しないのに対してｄ列端部は，変化が大きいといえる。

(3)　ｆ列４～６

４区の堆積差は地形の高低であり，それは地境の部分である。全体に薄い土層は畑地化のためであろう。４区の３層は硬質であるが他区の基本的な３層と同じである。６，７区にある花崗岩は地山より認められるが，転落による現象であろう。

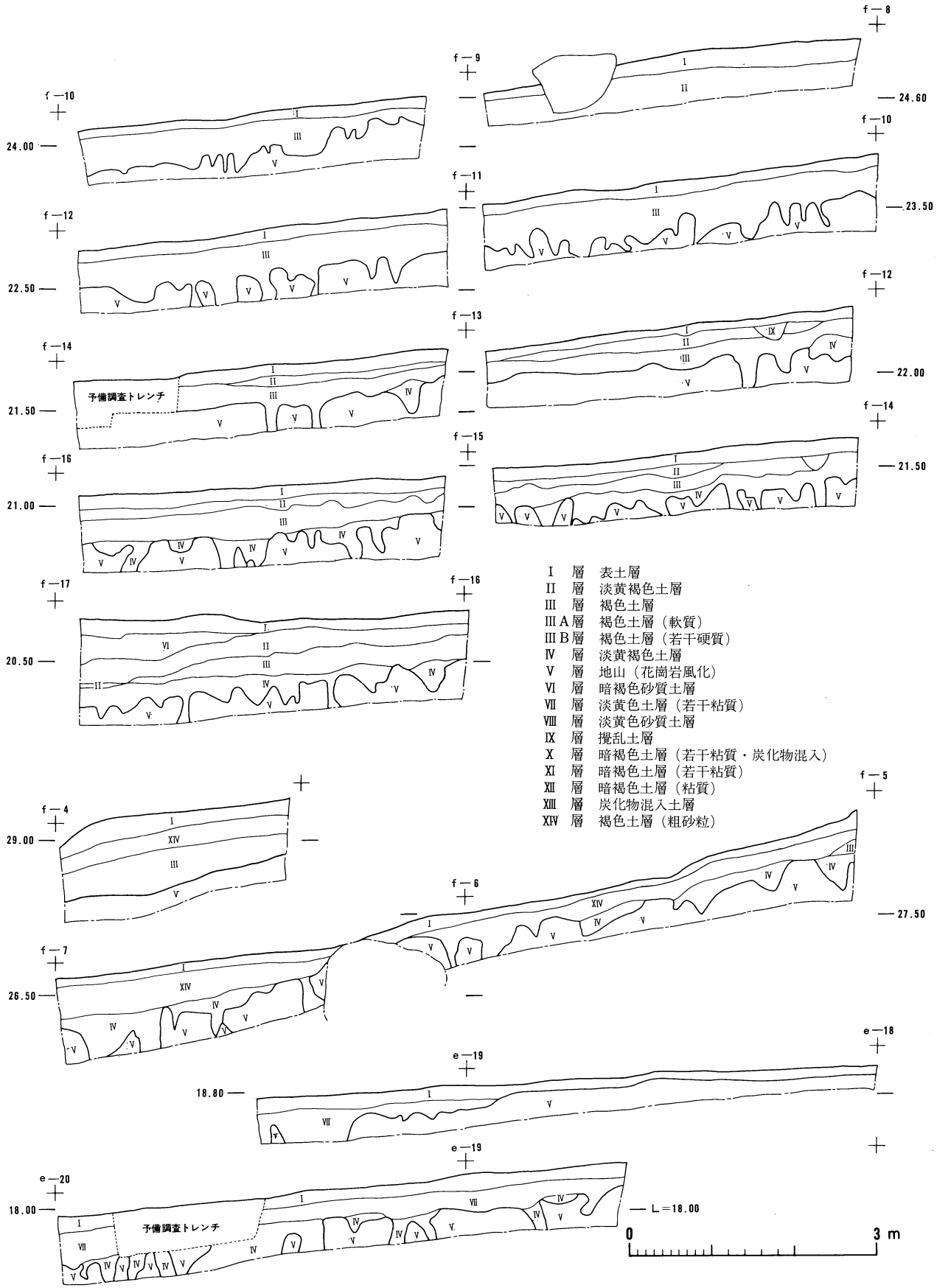
(4)　ｅ列18～20

この地域の地形は平坦状地をすることから人為的な形成であろう。18区は特に薄い土層である。７層はやや粘質状を呈する土層であり，20区では全域に均等な幅でみられる。地山は粘質な乳白色の帯が部分的に走る。

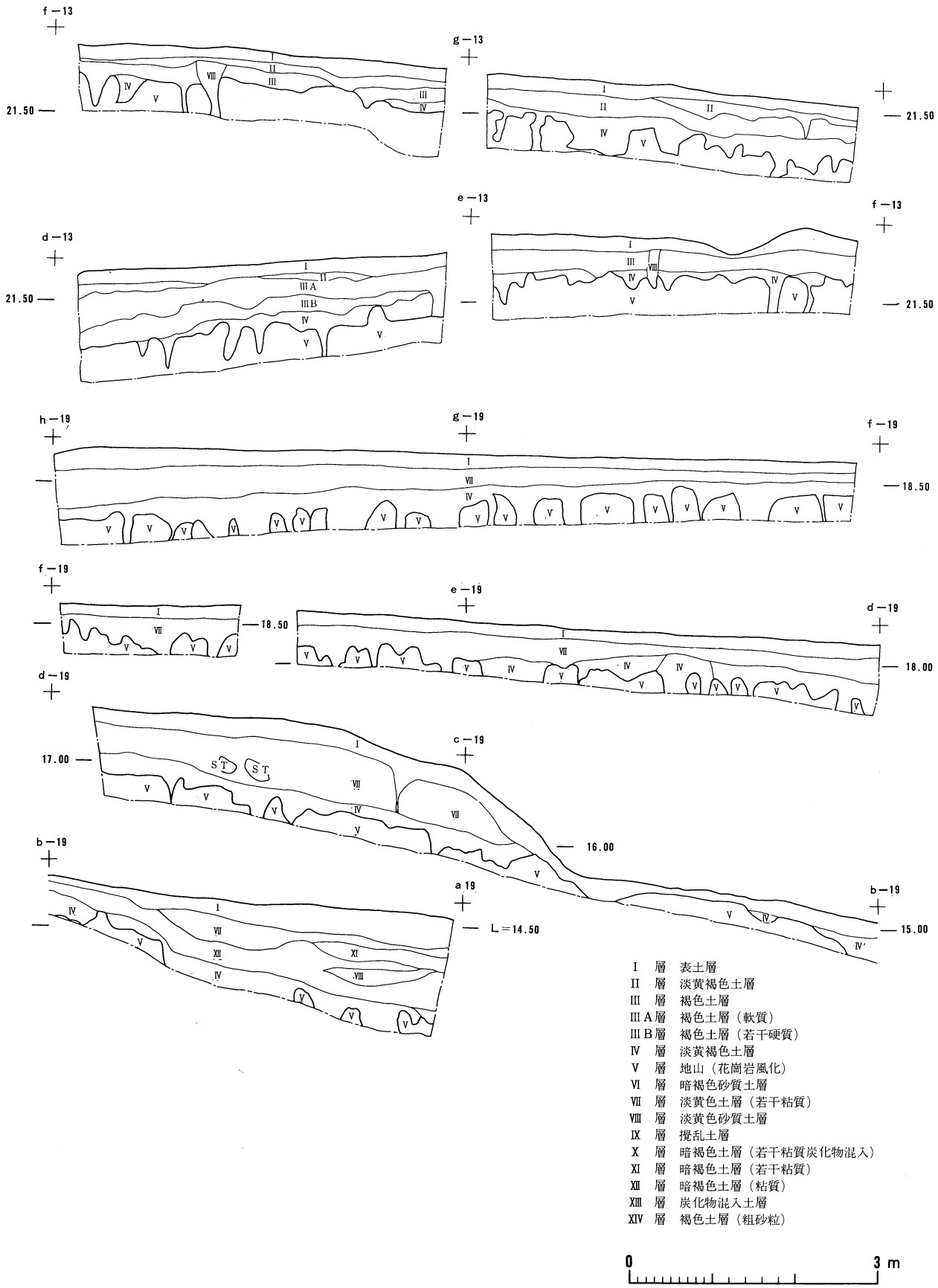
(5)　ａ列20～ｇ列20

10層はｅ～ｇ列まで一定な厚さであることは，ｅ列18～20と同一な状態である。ｃ区で急激に変化するのは土地の境界である。本来はなだらかな地形であったろうと推測される。７層はこの部分で消滅する。地境からａ列19は現在，耕作地として使用されている地区であり，畑作化の為，人為的に形成された状態を想定できる。ａ列20とｂ列20の中央でみられた土層は，全体に有機物を含む暗褐色粘質土層であり，粘質性に共通の要素が認められる。炭を多量に含む帯状の部分的な範囲がみられたが，この地区の平坦状の形成を行う過程の人為的な痕跡であることが考えられる。

（町川）



第 5 図　大浦遺跡土層図(1)



第 6 図　大浦遺跡土層図(2)

5　遺物について

大浦遺跡から出土した遺物は，旧石器から縄文時代さらに近，現代に至るまでの遺物が検出された。それは，ナイフ形石器・舟底形石器・縦長剥片石核・縦長剥片・横長剥片・細石刃・細石刃核・尖頭器・叩き石・石鏃・磨石・縄文土器・石匙・削器・土師器・須恵器・製塩土器・石錘・土錘・近，現代陶磁器・円盤状土製品・不明土器などである。ここでは，主に検出された旧石器時代から縄文時代の遺物について述べる。

石器，縄文土器を除く土器類は，摩滅した細片であること，当地の古老の話による戦後の畑地化のため砂を運搬したという状況から，本遺跡の南東に位置するそれらの遺物類を多量に出土する大浦浜遺跡からの移動も十分に考えられる。しかし，土師質・瓦質・陶，磁器製の円盤状土製品については，やや多く出土することから本遺跡に伴う性格のものかもしれない。

（町川）

(1)　石材について

出土した石材の分類はすべて肉眼によった。安山岩が大半を占め，少量の黒曜石，チャート，石英，砂岩がこれに伴った（第５表）。チャートは径２～３cmの角礫状の小片が大半で，石器は細石刃が１点認められたのみである。

石英は細石刃核１点，チップ２点が出土したが，細石刃は出土しなかった。

黒曜石は，漆黒と白色の縞があるものの比率によって４種類に分類される。大浦ではこのうち３種が出土している。ナイフ形石器，細石刃，縦長剥片に用いられている。

安山岩は４つに分類し，それぞれA・B・C・Dの記号を付した。

安山岩Aは従来から言われているサヌカイトで，風化の度合い，岩質により多少差異はあるが暗青灰色から，灰黒色に近いものとした。流離構造を示す灰白色の縞模様を呈するものもここに入れた。ナイフ形石器・横長剥片・削器・石鏃・尖頭器に多く用いられている。

安山岩Bは，従来「白色風化サヌカイト」と呼んでいたもので[注(1)]，外見は淡黄白色ないし淡黄灰色を呈するもので，極めて風化を受けた痕跡を示すものである。このため，剥離痕を示すフィッシャー・リング等は極めて判断し難い状況になっている。安山岩Aとの間で分布地点・包含される土層に差異は認められなかった。縦長剥片の９割近くを占める。また石鏃・削器では約半数を占めている。

安山岩Cは従来「玻璃質安山岩」と呼ばれていたものである。外見上，安山岩A・安山岩Bよりも粒子が細かく上質である。暗青灰色から灰黒色を呈す点では安山岩Aに近いが，新たな剥離面では，油分を包含したような光沢を呈す。一部ナイフ形石器にも用いられているが，大半は細石刃に用いられている。安山岩A・安山岩Bと分布地点・包含される土層に差異はなかったが，e－９区では特に集中が見られた。

安山岩Dは従来流紋岩として報告していたものである[注(2)]。黄白色ないし淡青黄色を呈し，粒子の比較的粗いものと，安山岩Cに極めて近く滑らかさを呈すものの２種類がある。新しい断面を観察すると，表面から２～３mmは表面と同じ色を呈するが，それより内側は黒色である。剥離面は，弱い貝殻状断口を呈するものもある。母岩の自然面は円礫状で，比較的滑らかである。ナイフ形石器１点，縦長剥片４点を含め計30点出土しているが，全体に占める割合いは少ない。集中する地点はなかった。

砂岩は，淡青灰色を呈す比較的硬質なものと，淡黄茶色を呈す軟質なものに二分される。いずれも叩石に用いられており，使用痕が見られる。出土地点に集中するところは見られなかった。

注

(1) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報』（Ⅲ）

(2) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報』（Ⅱ）（Ⅲ）
香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告』（Ⅰ）

(2) ナイフ形石器（図版１－１～図版４－29，図版６－34～36）

ナイフ形石器は基本として調整剥離の部位により分類し，次のａ～ｃ類に分けた。（第７図）

ａ類　素材とする剥片の片側縁にのみ調整剥離を施しているものとし，さらに調整剥離が片側縁の一部に限られるものをa_1類，片側縁全域に及ぶものをa_2類として細分した。

ｂ類　調整剥離が片側縁に限られず，刃部の側にも及んでいるものとし，刃縁部の調整が半ばを越えて刃部を皆無にしているものは除き，少しでも刃部が残るものをb_1類，両側縁の調整剥離が基部に限られているものをb_2類として細分した。

ｃ類　特に先端部を鋭利にする意識のうかがえる調整剥離のあるものとし，刃側縁先端部の調整剥離がa_1類に加えられたものをc_1類，b_1類に加えられたものをc_2類，b_2類に加えられたものをc_3類，刃側縁先端部の調整剥離のみのものをc_4類，刃側縁先端部の調整剥離も含めて全周に調整剥離が及び，刃部を欠如するものをc_5類とした。

a_1類　２がこれに該当する。素材には安山岩Ａが用いられている。背面に剥片剥離以前のネガティブな面が１面見られる。

a_2類　３～６，17，21，23，24，29がこれに該当する。３は安山岩Ａを素材とする。下端部に若干自然面を残す。調整剥離は数度にわたって丁寧におこなわれている。背面にネガティブな面を３面有する。断面は弱い台形を呈する。４は安山岩Ｄを素材とする。調整剥離は鋸歯状におこなわれているが，先端部に２㎝程施されていない部分がある。断面三角形を呈し，他に比較して痩身である。

５は安山岩Ａを素材とし，粗い調整剥離が施されている。先端部は調整剥離によって鋭利さを失なっている。６は安山岩Ａを素材としている。現在基部は平基になっているが，折断した痕跡があり尖っていたかもしれない。薄身で先端が尖っている。断面は三角形を呈す。17は黒曜石を素材としている。背面にネガティブな剥離面を３面もっている。

21は安山岩Ａを素材とする。５と同様に調整剥離は極めて粗雑で大きく，底面にまで及んでいる。背面にはネガティブな面を１面有している。断面はほぼ三角形を呈す。23は漆黒の黒曜石を素材とする縦長剥片ｃ類を用いている。背面には４面のネガティブな面が見えるが，ともに主要剥離面と同一方向の剥離方向を示している。ａ面左側縁部上端付近で折断面がみられる。調整剥離が右側縁のほぼ全域と左側縁の基部に施されている。

24は安山岩Ａを素材としている。安山岩Ａを素材とするものの中では小形に属し，縦長剥片を用いている。29は安山岩Ａを素材としている。調整剥離のおこなわれている片側縁に流離構造を示す朽木状の自然面を残している。調整剥離は概して大きく粗雑であるが，先端部に小さな剥離痕が見られる。

27は下半が折断しており，他の分類にはいる可能性もあるが，ここに入れた。安山岩Ａを素

材としている。鋭く尖っているところから先端部と判断した。調整剥離は粗い。鋭い刃部もあわせもつ。折断した後の調整剥離が見られることから，この形態で使用された可能性も考えられる。

b_1類　1，7～9，22，25，28がこれに該当する。1は安山岩Cを素材としている。a面右側縁はフラットな面で，左側縁上半が刃部に該当する。自然面を打面とする縦長剥片を用いている。断面三角形を呈す。7も安山岩Cを素材としている。いわゆる「切出し形」に相当する。8は安山岩Aを素材とする。背面にネガティブな面を1面有する。調整剥離は粗く，鋸歯状を呈す。

9は安山岩Bを素材とする。いわゆる「切出し形」である。a面右側縁の調整剥離は概して大きく，底面をかなり切っている。左側縁にみられる4面の大きな剥離痕は調整剥離である。背面中央には底面と見られるフラットな面が見える。断面は台形を呈する。22は安山岩Aを素材とする。基部腹面側にも調整剥離が施されている。小形であるがきちんと整形され，鋭利な先端部をもつ。斜位の刃部をもち断面は三角形を呈する。25は安山岩Aを素材とする。背面に底面とネガティブな面を1面有する。斜位の刃部を有す。先端部は発掘時に損傷を受けてはっきりしないが，鋭利に尖っていたものと思われる。先端部の断面は三角形であるが，基部の断面は台形を呈する。28は安山岩Aを素材とする。側縁部の調整剥離はやや粗く，小さいが鋸歯状を呈する。背面中央が高く盛り上っている。先端部の断面は三角形を呈すが,基部の断面は平たい台形を呈する。長さに比して幅が広い。

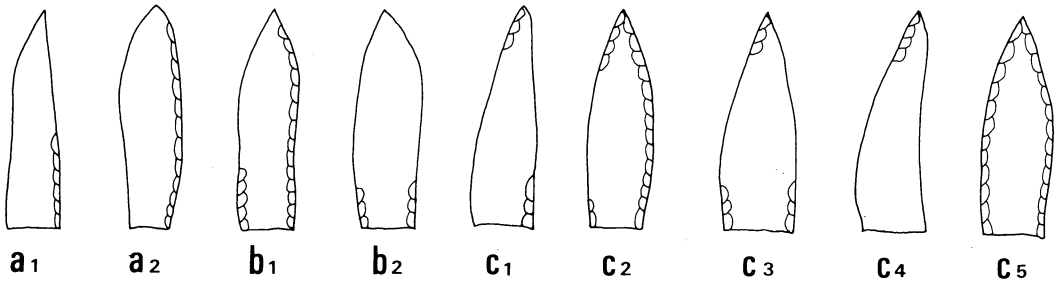
b類　12，15，26がこれに該当する。12は安山岩Aを素材とする。薄身で幅広である。背面に底面とネガティブな面を1面有している。基部に簡単な調整剥離のあとが見られる。断面は扁平な台形を呈する。15は安山岩Aを素材とする。背面にネガティブな面を3面もつ。そのうち2面が主要剥離面と同一方向剥離面で，残る1面がこれに対抗する剥離面である。a面右側縁上半にフラットな面をもつ。先端部に鋭利な刃部を僅かに有する。断面は扁平な台形を呈す。

26は安山岩Aを素材とする。背面下端に主要剥離面と同一方向の階段状剥離の痕跡が見られる。縦長剥片の剥離を意図した痕跡と思われる。c面に見られるように，調整剥離は基部付近では背面から腹面に向けて施されているが,上半では腹面から背面に向けて施されている。剥片剥離時にできた鋭利な先端部はそのまま残されている。断面は三角形を呈する。

c_1類　13がこれに該当する。安山岩Aの縦長剥片を素材とする。風化をあまり受けておらず灰黒色を呈している。b面が腹面であるが左上半に横方向からのネガティブな面をもっている。調整剥離は腹面基部に若干と，先端部に施されている。断面は三角形を呈する。

c_2類　10，16がこれに該当する。10は安山岩Aを素材とする。a面右側縁部の調整剥離は鋸歯状に施されており，刃縁部の調整剥離がおとなしいのと好対比をなしている。剥片剥離時に形成された刃部は左側縁上端部付近に限られていたと思われるが，基部とともに調整剥離がおこなわれて潰されている。左側縁部中央に剥片剥離時の底面が残されており，ここでの断面は台形となる。16は黒曜石を素材としている。a面右側縁中央で調整剥離が施されていない部分があるが，c_2類とした。先端部には極めて小さいが，樋状剥離的な部分があり，彫器の部類に属するのかもしれない。断面は台形を呈す。

c_3類　11，14，18がこれに該当する。11は安山岩Aを素材とする縦長剥片を用いている。先端部の調整剥離は極めて簡単に施されている。背面に残るネガティブな面は主要剥離面と同一方向ではなく，横方向からのものである。14は安山岩Aを素材としている。a面には3面のネ



第 7 図　ナイフ形石器模式図

ガティブ面をもつ他，フラットな面が1面ある。風化をあまりうけておらず灰黒色を呈す。縦長剥片のc類を素材として用いており，断面は台形を呈する。18は白色の縞模様がはいった黒曜石を素材とし，縦長剥片A類を用いている。断面は三角形を呈する。

c_4類　19，34，35，36がこれに該当する。19は安山岩Bを素材としている。大きな縦長剥片を用いている。左側縁部上端と下半に若干の調整剥離が見られる。右側面下半にフラットな面がある。背面中央にネガティブな面が1面あり，ここでの断面は台形となる。34は漆黒の黒曜石を素材としている。断面は扁平な台形を呈する。

35は安山岩Cを素材とする縦長剥片A類を用いている。a面右側縁部の調整剥離は概して小さい。左側縁部先端の調整剥離は，背面側から腹面方向に施されている。断面は三角形を呈する。36は白色の縞模様をもつ黒曜石を素材としている。b面上半に見られるように右側縁部上半はフラットな面となっており，この面から左側縁部に向って調整剥離が施されている。断面は台形を呈する。

c_5類　20がこれに該当する。安山岩Aを素材とする翼状剥片を用いている。背面下端近くにネガティブな面が僅かに残っている。a面左側縁部の調整剥離は大胆におこなわれている。またb面右側縁には背面側からの調整剥離が見られるが，これは腹面から背面方向に施されている調整剥離に先行している。一方，刃側縁部上半にも調整剥離が施されているが，概して小さい剥離となっている。この調整剥離の結果刃部は下半の鈍角な部分に限られることとなっている。下端にも大きな調整剥離が施されているが，僅かに折断した痕跡が残されている。削器の機能を想定させる。

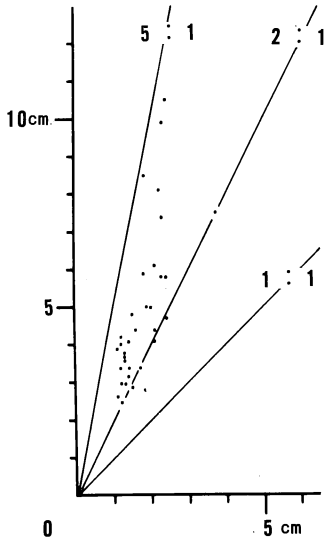
以上に述べてきたように，大浦遺跡出土のナイフ形石器には典型的な刃部をもち，刃器としての機能を活かせる例が少ない。その反面，大きさには大小があって一様でないが，各個体がもつ特徴には，①鋭い刃部をもたない　②細長い　③先端部に調整がある　④基部調整がある。など刺突機能に適する共通した要素が見られる。これらの点では，32，33に図示したものにも共通点が見られる。

32は安山岩Aを素材とする。風化をあまり受けていないため灰黒色を呈す。a面左側面に自然面を残し，背面にネガティブ面を2面有する縦長剥片Cを用いている。基部の調整剥離は細かいが簡単である。先端部の調整剥離についても同様のことが言える。断面は，基部付近で略

台形を呈するが先端部では三角形を呈す。33は安山岩Aを素材とする。縦長剝片Aを用いているが，下端部で折断しているためバルブは残っていない。図のように両側縁下端近くに大きな抉りが見られるので，こちらを基部としたが前例が見あたらない。腹面側から極めて細かい調整剝離が全周に施されている。

(3) 舟底形石器（図版５－30，31）

30，31とも安山岩Aを素材とする縦長剝片を用いている。30はやや風化が進行して，石の目が表面に出て灰白色を呈する。腹面側からの調整剝離は左側縁部で中央まで達していない。背面にネガティブな面を１面もつ。この面は主要剝離面のバルブが見えないことと考え合わせると，剝片剝離後の調整剝離と考えられる。先端部が鋭利に調整されていたとは考え難い。31は全周に施された調整剝離が中央の稜上に達しており，一部で稜上からの調整も施されている。断面は略三角形を呈する。先端部と下端部で折損しているため全長は不明である。



第１表　ナイフ形石器計測表

32，33を含め，長幅比は縦長剝片のそれに類似する（図版６－32,33）。また，縦長剝片を素材とするナイフ形石器の多くは，フラットな面をもっており，後述する縦長剝片と酷似する。

(4) 縦長剝片（図版７－38～図版11－69）

折断したものも含め，総計 802点出土した。長さ 1.5cm～12cm，幅 0.5cm～６cmを測り，大小の間にかなりの開きがある。大別すると，長さ 3.5cm以上，幅１cm以上の一群とそれ以下の一群に区別できる。前者と後者の比は８：２である。これらの二群の剝片は，長幅比では１：１から５：１の範囲内に収まる（第２表）。 また石材についても安山岩Bが圧倒的に多く用いられており，差は認められない。また，以下に述べる分類においても同じ様相を示している。

ここでは縦長剝片を，背面の形態・断面の形態から次の３つに分類した。

A類　背面に１本の稜線をもち，断面が三角形を呈するもの

B類　断面が四角形ないしはそれ以上の多角形を呈す角柱状のもの

C類　背面に１ないしそれ以上のネガティブな面をもち，断面がほぼ台形を呈するもの。背面のネガティブ面の剝離方向は主要剝離面の剝離方向と対向するものもある。

A類　38～41，43～45，57，67，68がこれに該当する。38は安山岩Aを素材としている。a面左側縁上端近くには調整剝離が見られる。これを基部調整とすれば，鋭利な先端部と考え合わせ，刺突機能を有することになるであろう。さらに，先端部の調整剝離を伴えば，ナイフ形石器に分類した13，18，26と同様の機能をもつことになる。39は安山岩Aを素材としている。背面に自然面を残す。ほぼ全周囲に刃部をもっているが，特に下端の一辺は鋭い。腹面のバルブは剝片剝離後の調整剝離によって欠落している。

40，41，43はともに安山岩Bを素材としている。40は背面の２面がともにフラットである。41は背面にネガティブな２面をもつ。43はa面右側面にフラットな面をもっている。以上の３点はともに上半を折損している。

44は安山岩Aを素材としている。a面右側面がフラットな面で，側縁部には使用痕か調整剝離か判別し難い小さな剝離痕が見られる。左右の刃側縁を比較すれば，右側縁の方が鋭利であ

ったと思われるので，上記の剥離痕は使用痕と考えられなくはない。右側面下端と左側面上端に錯向する剥離面が見られ，どちらも平坦打面をもっていることから，石核の長さに等しいと考えられる。45は安山岩Aを素材としている。背面に流離構造を示す自然面を残している。調整打面の稜上に加撃して剥片剥離がおこなわれている。

58は安山岩Aを素材としている。下半が折損している。a面右側縁にフラットな面をもち，断面は略四角形を呈する。主要剥離面には大きなねじれが見られるほか，下端の折断面に剥離痕が見られる。67は安山岩Aを素材としている。平坦打面を有している。背面上端には2面のネガティブな面がある。下端部は鋭く尖って刺突機能をもち，調整剥離を不要としている。68は安山岩Bを素材としている。平坦打面をもち，平行する両側縁に鋭い刃部をもつ。

B類　46～48，50がこれに該当する。48が安山岩Aを素材とする外はすべて安山岩Bを素材として用いている。

46は断面五角形を呈する。相対する2面のフラットな面はやや平行を失なって，片方に集束している。d面には3面のネガティブな面が見られる。47は断面五角形を呈する。b面には2面のネガティブな面をもっているが，そのうちの1面にはバルブが欠落している。48は断面四角形を呈する。c面上端には平坦打面からの小さな階段状剥離が見られる。50は断面四角形を呈する。他の剥片に較べて極めて長い剥片である。c面とa面下半には小さなフラット面をもっている。b面にみられるネガティブな面も長く，この長さの剥片を連続して取ったことがうかがえる。

以上4点のB類の縦長剥片は，いずれも相対するフラットな面とポジティブ面・ネガティブ面を各1面もっている。

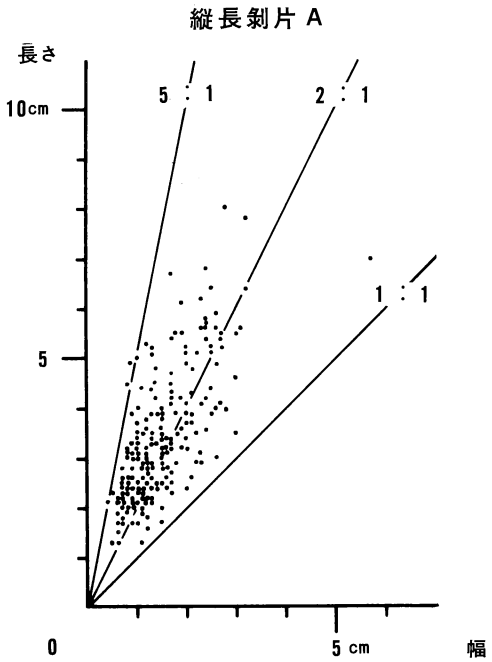
49は相対するフラットな面と2面のネガティブな面をもつ石核である。d面はネガティブな面であるが，石理によって異常な剥離を呈している。剥離時のバルブも，恐らくb面の剥片剥離をおこなう際の打面調整によって取り去られたものと思われる。

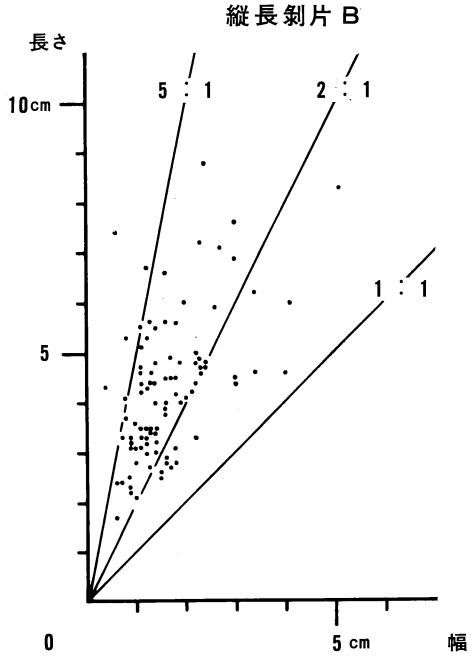
C類　42，51～66，69がこれに該当する。53，57，58，60，61，69は安山岩Aを素材とし，54は安山岩Dを素材としている。他はすべて安山岩Bを素材としている。

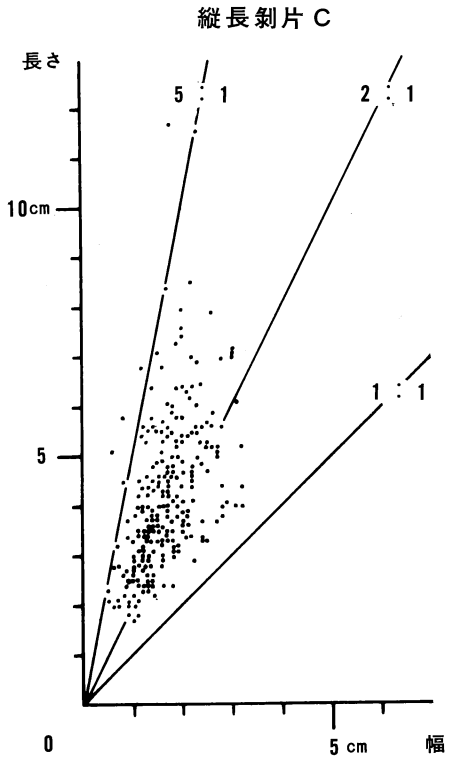
42は打面調整の稜上に加撃して剥離をおこなっている。51は背面に5面のネガティブ面をもっている。a面左側縁下半にはフラットな面を僅かに残している。52は上半を折損している。a面右側面にフラットな面が残っている。53は平坦打面をもち，右側縁にフラットな面をもつ。54は両側縁に鋭いエッジをもつ剥片で，平坦打面をもっている。a面左側縁に調整剥離か使用痕か不明の剥離が見られる。

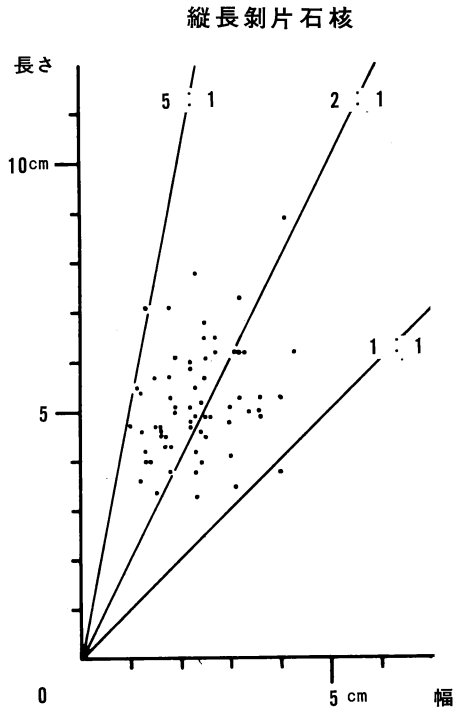
55，56はともに調整打面をもち，細身で薄い点が共通する。56はa面左側縁下端にフラットな面が残っている。57は調整打面をもっている。a面下端に見られるフラットに近いポジティブな面は，石核形成時のものと思われる。この面と打面とのなす角は約40度を測り，石核底面とは考え難い。側面にあたると思われる。58は下半が折断しているが，折断面にその後剥離がおこなわれている。断面にも見られるように，a面右側縁にはフラットな面が残っている。59も下半を折断しているため全長はわからない。平坦打面をもっている。

60は平坦打面をもち，左側縁下半に鋭い刃部をもっている。右側縁下半には細長いフラットな面を残している。61は調整打面をもち，下半を折断している。両側縁部に細かい剥離が見られる。c面下端部にフラットな面が残っている。62は調整打面をもち，a面左側面にはフラットな面を残している。右側面の横方向からの剥離は剥片剥離以前の調整剥離である。









第 2 表　縦長剝片・石核計測表

63は平坦打面をもっている。長さに比して幅が広く，c類の他の一群とは趣を異にする。両側縁の一部に調整剥離が施されている。64は調整打面をもっているが，主要剥離面のバルブは見られない。恐らく石材が流離構造をもつ安山岩Bであることに起因するのであろう。

65は大きい剥片の一群に属す。風化が著しい。a面左側面には剥片剥離以前の調整剥離が見られる。調整打面をもっている。66は階段状に剥離した調整打面の稜上に加撃して剥片をとっている。a面左側面にフラットな面が残っている。69は平坦打面をもっている。a面左側縁には鋭利な刃部をもつが，右側縁下半にはフラットな面が残って刃部は形成されていない。

以上述べてきたように，大浦遺跡から出土した縦長剥片は，A類～C類に到るまでともに1面もしくは平行する2面のフラットな面をもつものが多い。各剥片の中で，フラットな面をもつものの比率は第4表に示したとおりである。1つの縦長剥片石核から何枚の縦長剥片が剥離されたかは後に譲るとして，片面もしくは両側面にフラットな面をもつ板状の石核からある比率をもって側面を切る剥片がとられたと仮定することができるのではないだろうか。そして，一定の長幅比をもつ縦長剥片が多くとられている事実は，ナイフ形石器に縦長剥片が多く用いられていることと関連して，さらに検討されなければならない問題であろう。

(5) 縦長剥片石核（図版6－37，図版12－75～図版15－82）

縦長剥片石核は，2つのタイプに大別できる。タイプAは，不定形な素材の形状を巧みに利用して甲板面を設け，任意の部分から剥片剥離をおこなうと思われるものである。タイプBは，素材を板状に成形して，小口面より連続して剥片をとるものである。多くの場合側面はフラットである。なお，タイプAの石核においてもフラットな面をもつものも見られる。本遺跡ではタイプAよりもタイプBの例が多く出土している。今回の概報では主にタイプBを扱うことにした。

タイプBはさらに次の3類に分けた。

I類　大形の剥片をとる石核

II類　大形と小形の剥片を同一作業面内でとる石核

III類　小形の剥片をとる石核

37は安山岩Aを素材とするIII類の石核である。d面に見られるように，フラットに近い自然面を残している。a面には上端と下端の二方向からの剥離が見られる。75は安山岩Bを素材とし，I類に属する。フラットな面はb面に見られる1面だけであるが，反対側のd面はフラットに近い面となるような調整剥離が施されている。上端には調整打面をもち，下端は舟底状になるように反対方向から調整剥離が施されている。a面とその反対のc面に作業面をもっている。

77は安山岩Aを素材とする石核で，II類に属する。フラットな面はc面にしかないが，a面の大きなネガティブな面がフラットな面の役割りを果たしている。e面・f面に見られるように，両面に調整打面をもち，二方向から剥片剥離がおこなわれている。上方からの剥離は大きく，下方からの剥離は小さい。

78は安山岩Bを素材とするI類の石核である。但し，平坦面は1面もなく，a面とc面を側面として打面転移がおこなわれ，b面とf面を作業面としている。e面に見られる剥離はa面とc面の剥離に先行している。これらを考え合わせると，他に分類される可能性もある。

79は安山岩Aを素材とし，III類に属する。e面に自然面を残すが，打面調整によりこれを取

り除いた後に剥離をおこなっている。フラットな面はa面だけだが，c面は調整剥離によってフラットな面に替わる働きをしている。c面右側端下半に小さな剥離が重なっているが，調整剥離と思われる。例示した他の石核にくらべ幅が広いが，この種の一群が存在している。

80は安山岩Bを素材とし，Ⅲ類に属する。調整打面をもつ。下端部は反対方向からの調整剥離が施され，舟底状を呈している。c面に見られる自然面とa面のフラットに近いネガティブな面で構成される作業面がb面にある。作業面には3面の剥離が観察されるが，中央の2枚が先行しており，ともに平行な側縁をもつ小さな縦長剥片がとられたと想定される。

81は安山岩Aを素材とするⅢ類の石核である。c面には3つの剥離面が観察される。下端には打面とは反対方向からの調整剥離がおこなわれている。作業面幅は狭い。82は安山岩Aを素材とし，Ⅲ類に属す。c面が作業面と考えられるが，石核未製品であるかもしれない。下半には打面と反対方向からの剥離が片側面にのみおこなわれている。

76はタイプAに属すと考えられる。b面とc面にフラットな面をもっているが，平行ではない。打面調整がおこなわれており，ほぼ全周にわたって大型の剥片がとられている。

以上においては主にBタイプの石核を，目的剥片の大きさ，すなわち長さによって分類した。幅については特に考慮しなかったが，利器を製作する時，その大きさを決定するのが長さと幅であろう。今回出土している剥片を見た場合，打面に対する幅はさておいて，両側縁によって形成される実際の幅には一定の範囲があるようだ。だとするならば，石核の作業面の長さと幅は目的剥片をとる場合に重要な意味をもってくることになる。図示しなかった石核の中には，目的剥片の数倍の幅をもつと思われる作業面に，数面の剥離をもつものがある。目的剥片の幅とほぼ同じ作業面をもつ石核との対比が検討課題として残されている。

(6) 翼状剥片（図版11－70～74）

翼状剥片は15点出土した。そのうち5点を図示した。70～74がこれに該当する。

70は安山岩Aを素材とする。打面上で打点を移動しているために，背面に3つのネガティブな面を残している。底面の剥離が平坦でないために，直線的な刃部を得られていない。

71も安山岩Aを素材とするが，石材が不良であることに起因するのか，底面や打面調整剥離は変則的な剥離となっている。

72は安山岩Bを素材としている。一端が折断している。背面には2つのネガティブな面が見られるが，先行する剥離面は，この剥片とほぼ同じ位置に打点がある。他の1面の打点はややずれている。73は背面に2面のネガティブ面をもっている。74は底面をもたないが，打面調整をもち，背面にははっきりとしたネガティブ面をもっていることから翼状剥片とした。

これらの翼状剥片は，いずれも粗雑な調整で小型に属する。長幅比は小さく，見た目にも幅広である。大半が不定形な形をとり，真直ぐな刃側縁をもつものが少ない。横長剥片も含めて総計64点出土している。（斉藤）

(7) 細石刃（図版17－89～ 103・第13表）

細石刃の正面は，断面台形で2条の稜（90，92，95，99，100，102，103）と断面三角形で1条の稜（89，91，93，94，96，97，98，101）をもつものがみられる。調整に関しては側面調整剥離（92，94）下縁調整剥離（91，101）にみとめられ，頭部調整剥離は不明瞭ながら(89～96)には痕跡がみられる。92は側面調整と3条の剥片剥離作業痕跡がみられる。また，101，102は先端に礫面をもつ。

残存する部位の厳密な区分はむずかしいが，三部位，二部位切截手法が知られている。各部

位の要素を備えるものについて分けると，総点数 151－完形10　頭部83・中間部52・末端部 6 の各部位がみとめられる。この総数の中で総体的に頭部，中間部と完形，末端部の関係は総数，各部位数の差こそあるが他地域の傾向と同じである。[注(1)]

注

(1) 今後の明確な分類基準による区分方法によって移動することも考えられるが，その傾向については変わらないと思われる。

(8) 細石刃核（図版16－83～87・図版17－88・第14表）

83－打面を共有して左・右に 2 つの剥片剥離作業面が異なる傾斜で位置しており打面再生の可能性を推測させる。a 面に対する側面調整は横方向から両側面に行われている。また，e 面に関しては c 面の状況から剥片剥離作業痕と考えられるが，縦方向の側面調整の可能性もある。

84－打面は平坦であり剥片剥離作業面との関係は直角をなす。c 面における調整方向は不明瞭であるが横方向であると考えられる。

85－一側面に礫面を残す。a 面は側面調整が中央部を横切る。打面は全て主要剥離面から調整が行なわれており，縁辺には小さな剥離痕が並ぶ。最終的な剥離作業面は階段状剥離で止る。

86－頭部調整は 2 方向から行なわれ，その部分は打面部に対して傾斜する。明確な剥離作業痕の間にごく狭い面から 3 条の作業痕がみられる。c 面の横方向からの剥離は側面調整である。a 面の下方向からの剥離は作業面形成の剥離と考えられる。

87－礫面を部分的に残存する状態から小円礫を素材とするものと考える。平坦な打面を形成した後，剥片剥離作業を行っている。頭部調整がごくわずかに残る。c 面に横方向の剥離痕がみられるが，これは整形剥離と考えられる。a 面の剥離痕は条がみられないため表皮の剥離と考える。

88－打面部が異なる 2 ヶ所の剥片剥離作業痕が見られる。b 面は明らかに剥離作業を行った面で，a 面に礫面を除去する形で 2 ヶ所の横方向の側面調整が行なわれている。さらに c 面は縦方向の剥離痕がみられるが側面調整でなく石核形整の剥離痕であり，結果的に側面部を構成すると考えられる。d 面は b 面に直交する形で位置する。上下に続く剥片剥離作業痕は見られないが作業面端部に作業痕がみとめられる。

(9) 尖頭器（図版18－104～108・第15表）

全て両面に加工を施すが，調整部分の差がみられ104・106は縁辺部だけである。また，主要剥離面の識別は全面に調整が及ぶため困難である。

長さに関しては約 4 cmの開きがあるが，厚さは比較的，差がない。最大幅は 104を除くと約 $\frac{1}{3}$ にある共通性が認められる。そして，全て左右対称形である。

104 は，舌部が顕著であり逆刺も明確に判かる。その部分は，両縁辺に比べ細かな調整を施すが中程までは及ばない。素材自体，薄い剥片である。

(10) 叩き石・磨石・不明石器（図版19－109～114・図版20－115～119・第16表）

109～114 は両端部または，一端に大小の差違はあるが打痕が認められる。112 の平坦部は折断後に使用されたものか，摩滅している。叩き石である。115～116 は周縁部にわずかに痕跡がみられるが，打割されたと考えられるもので，スタンプ形石器と呼称されているのかもしれない。[注(1)]

117は，全面に研磨した後の使用痕と思われる痕跡が，側面，両先端部，片面中央にある。一方向の先端部はより明確な打痕があることから叩き石の機能も具備するものであると考える。また，118も同一要素を有すると思われるが，両先端部の形状は結果的または意図的なものであるか不明である。（町川）

注

(1) スタンプ形石器の可能性として，「縄文時代の遺構と遺物」『西之台遺跡B地点』1980．東京都教育委員会の分類を参考。

(11) 削器（図版21－120～図版23－125）

削器は9点出土している。すべて素材はサヌカイトで，調整剥離を施し製品としたものである。刃部形状別に　イ．直線刃削器…6点　ロ．外彎刃削器…1点　ハ．内彎刃削器…1点　ニ．両刃削器…1点　に4分類した。以下，実測図を掲載した6点について説明する。

イ．直線刃削器

120　大形薄身の横長剥片を素材とした横長形状の頂部につまみをもつ石匙である。刃部は両面から調整剥離が施され細かな剥離痕が並列する。

121　切断面をもつ大形板状の縦長剥片を素材としている。刃部は長側辺にあるがその中央部は両面から，端部は片面からやや粗雑な調整剥離で形成されている。全体的に剥離が大きいため刃部は鈍い。

122　横長剥片の一側辺に背面側から微細な調整剥離を施し刃部を形成している。突起部分の存在が石匙的な様相を呈す。

ロ．外彎刃削器

123　切断面ある石核を素材とし外彎する刃部を有する削器である。a面は2つのネガティブな剥離面とインヴァース・リタッチにより作出された刃部を有する主要剥離面によって構成される。なおb面にも刃部らしき剥離痕を有すが，それがスクレイパーとしての機能を果たしていたかどうかは判明できない。

ハ．内彎刃削器

124　礫面をもつやや厚い不定形な剥片の一側辺にコンケイブする刃部を設けた削器である。刃部は片面に大きな剥離後，二次的に細部加工によって形成している。

ニ．両刃削器

125　縦長剥片を素材とする。a面は前剥離段階で整形調整され，刃部形成は剥離後，細部加工を施し行なわれている。b面には加撃点，バルブ，フィッシャー，リングがよく観察される。

(12) 石鏃（図版24－126～150）

総計38点の石鏃を出土。うち完形品，或いはそれに近いもの21点，残りは欠損品もしくは破片である。出土分布状況について特記すべきは，g－16への集中で，出土数9点は全体の約¼を占め他を凌駕する（表4参照）。既刊の海峡部調査報告書[注(1)]等を指針に基部･側辺部形状を主基準として下記の如く2大別13類に分類した。しかし，それが必ずしも最良の分類とは思わない。機能面・剥離状態・柄との装着具合など複合的基準から考慮し分類施行する必要性があろうと思われる。

さて，今回報告する石鏃は全てサヌカイト素材の打製石鏃で分類別に数点を選択し実測図と

簡単な説明を付記した。

〈分類基準〉

Ⅰ．凹基無茎式

1　正三角形
- (1)　小形……1点
- (2)　中形……2点
- (3)　大形……1点

2　二等辺三角形
- (1)　両側辺が直線……10点
- (2)　両側辺が外彎……3点
- (3)　両側辺が内彎……1点
- (4)　一側辺が外彎，他側辺が内彎……2点
- (5)　鋸歯状側辺……1点
- (6)　先端が鋭利でタワー状側辺……2点
- (7)　大形……1点

3　ロケット形……3点

Ⅱ．平基無茎式

1　正方形……1点

2　二等辺三角形……1点

126　計測値が示す通り最小の石鏃で，先端は大きな角度をもち正三角形を押しつぶした形である。磨耗著しく調整剥離痕はやや不明瞭である。

127　抉りがほとんどなく平基式に分類可能で，両側辺に丸みをもつ小形石鏃である。

128　表裏両面に平坦な大剥離面を残している。周辺調整は細緻で丁寧に施されている。

130　鋭利な先端，方形の逆刺，「U」字型の抉りを有する。丁寧な調整のため断面は美しい凸レンズ状を呈する。

131　全体的に薄手・扁平で側辺は先端付近で外彎する。

132　鏃長は約3.5cm（復原推定値），鏃幅は2.5cmの大形三角形型石鏃である。片面は中央まで大まかな剥離が施され，他面は周辺調整を最小限にとどめ，剥離時の面をいかしている。

133　調整が全面に及びかつ丁寧な小形正三角形型石鏃である。

134　基部湾入比（抉りの深さ／鏃長）が最大で，抉りは鏃身の約¼に達する。逆刺はふくらみをもち先端は尖る。

139　内彎側辺部は軟らかい剥離具で徐々に押圧剥離したため特に薄手である。

140　ネガティブな主剥離面が残り，フィッシャーが顕著に観察される。整形調整が不完全なので未完成品かもしれない。

141　長幅比（鏃長／鏃幅）が大きく，そのため先端は鋭い。鏃身はねじれている。

142　側辺は基部に対し垂直であるが，下部において外反し脚部を形成する特異な形態である。片面には自然面が残存する。

143　側辺部は階段状剥離を施した側から鋸歯状にトリミングされている。「U」字型の深い抉り，鋭利な逆刺を有する。

144　全体的に厚手で断面は六角形を呈す。側辺は中央部で「く」字型に屈曲する。

145　表裏両面とも大剥離面を利用し，周辺だけを調整し整形している斜基状の石鏃である。

第 3表　石鏃計測表

No.	図版番号	分　類	全　長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重　量 (g)	抉りの深さ (cm)	先　端　角
1	126	I－1－(1)	(1.3)	1.45	0.2	0.3	0.3	80°
2	128	I－1－(2)	1.6	1.7	0.35	0.6	0.3	74°
3	129	I－1－(2)	1.9	(1.8)	0.4	0.7	0.4	60°
4	132	I－1－(3)	--	2.5	0.35	1.65	0.2	—
5	130	I－2－(1)	2.15	(1.5)	0.3	0.4	0.5	36°
6	134	I－2－(1)	2.3	1.75	0.35	0.8	0.6	45°
7	135	I－2－(1)	2.1	1.8	0.4	0.85	0.45	45°
8	136	I－2－(1)	2.4	1.9	0.4	1.1	0.25	45°
9		I－2－(1)	2.2	1.8	0.55	1.4	0.4	45°
10	141	I－2－(1)	2.3	1.4	0.3	0.6	0.2	41°
11		I－2－(1)	2.0	1.3	0.3	0.8	0.15	37°
12		I－2－(1)	(2.0)	(1.4)	0.35	0.7	0.1	45°
13		I－2－(1)	(2.5)	—	0.4	0.85	0.2	45°
14	140	I－2－(1)	2.65	1.9	0.4	1.45	0.15	45°
15	127	I－2－(2)	1.45	1.35	0.3	0.55	0.1	75°
16	146	I－2－(2)	(2.3)	(2.0)	0.6	1.7	0.3	74°
17	131	I－2－(2)	1.9	1.5	0.25	0.75	0.15	81°
18	139	I－2－(3)	2.65	2.1	0.4	1.4	0.4	76°
19	137	I－2－(4)	2.15	1.8	0.5	1.25	0.45	63°
20	147	I－2－(4)	1.7	1.55	0.4	0.85	0.2	67°
21	143	I－2－(5)	—	—	0.3	0.9	0.85	—
22	138	I－2－(6)	(2.3)	1.3	0.3	0.5	0.15	28°
23	148	I－2－(6)	2.8	(1.6)	0.4	1.15	0.3	28°
24	150	I－2－(7)	(3.8)	2.0	0.5	3.6	0.25	58°
25	142	I－3	—	1.55	0.4	1.0	0.25	—
26	144	I－3	2.1	1.2	0.45	1.1	0.35	56°
27		I－3	—	1.35	0.35	0.8	0.2	—
28	149	I－3	(3.25)	(1.7)	0.3	0.8	0.45	67°
29	133	II－1	1.5	1.6	0.3	0.5	0.0	67°
30	145	II－2	2.9	2.1	0.45	2.05	0.0	35°

注　－：計測不可能　　(　) 復元推定計測値　　図版番号の空欄は計測値のみ

剝離痕が最も明瞭なため観察しやすい。

146　厚い素材を薄くする剝離が施されているが，力が抜けきらず階段状剝離の痕跡をとどめている。整形が不完全で未調整なため未完成品としての色彩が濃い。

147　側辺は内彎・外彎し，逆刺形が異なる左右アンバランスな石鏃である。抉りが一方に片寄っているのも特徴である。

148　長幅比が大きく側辺も内彎しているので，先端は尖鋭で全体的にスマートである。

149　大形で薄手なロケット状の形態をなす。

150　横剝剝片を利用し両面に平坦な大剝離面が残存する最大の石鏃である。周辺調整を施した側辺は緩やかに外彎して基部に至るが両逆刺は鋭利である。　（東原）

注

(1)　『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報』（Ⅲ）1980．3　香川県教育委員会
『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告』（Ⅰ）1979．3　香川県教育委員会

(13)　土器（図版25－151～図版26－178・第17表）

早期の縄文土器片は約66点出土した。内訳は，山形文22点，楕円文６点，撚糸文１点，無文20点，その他・不明なものが18点である。不明の土器片は，胎土・色調などから推して，押型文土器片の摩滅した状態と思われる。大半の土器の器面には砂粒が付着し，摩滅もひどく，残存状態は悪い。本報告では比較的残存状態の良いものを掲げる。

土器片は，全体的に硬くて色調は赤，褐色を呈する。胎土には[注(1)]，透明度の違う石英粒・乳白色の角ばった長石，鈍い光沢の黒雲母が含まれる。石英粒は概して大粒のものが多く，長石・黒雲母の粒は小さい傾向にある。

粒子組成をみると，押型文土器と無文土器は同じ要素でできているが，総体的に無文土器の方が粗い粒を多く含んでいる。器壁の厚さは，無文が0.8cm～1.3cmと厚く，山形が0.5cm～１cm位である。また，楕円は 0.6cm前後の範囲内におさまり，比較的薄手である。撚糸は 0.5cmである。器形については，１点を除く全てが体部片であるため，傾きがやや変わる場合もあり，明確な器形の想定は難しい。さらに，文様をみると，164は出土中唯一の口縁部をもつ土器片であり，山形文が連結して横走している。166は山形文がやや斜め方向に走っている。しかし，部分的に山形が離れる個所があり，文様が２単位の可能性もある。178は条間が近接しているが，わずかに空白部分がみられ回転による施文と考えられる。

（町川）

注

(1)　胎土観察には30倍のライトスコープを用いた。その結果，黒雲母とは異なる黒色の細かい含有物を確認した。それは，肉眼で識別できる繊維とは違って，粘土中に含まれる有機物ではないかと思われる。

6 おわりに

櫃石島は島の最高所，花見山から派生する尾根筋，さらに低く延びる低丘陵には，旧石器時代の遺物を出土する地域が数箇所みられる。花見山から高さを減らしながら南へ向かって延びる標高25m前後の平坦状地に，大浦遺跡は位置する。

調査期間約6ケ月の精力的な調査により，対象面積3,280㎡の調査を行った。出土遺物の総点数は，10,733点である。出土遺物は15，16区が他区に比べ多い傾向が見られる。しかし，土層の堆積状況から第3層下方より土器片は含まれないものの，花崗岩を基盤とする周辺の島の羽佐島遺跡[注(1)]，与島西方遺跡[注(2)]，同島の花見山遺跡[注(3)]と同じように，混在した状態であった。また，1点ではあるが接合資料が確認されたことによって，部分的に残存する狭い範囲の移動も大浦遺跡では考えられるため，今後検討したい。遺構については，予備調査[注(4)]で不明のピットが検出されているが，本調査では確認されなかった。しかし，e－9区において，ハリ質安山岩がやや多く出土する落ち込みがみられたが，表土層除去面での確認であるため可能性は薄いと言える。

大浦遺跡から出土した旧石器時代から縄文時代の主な遺物には，ナイフ形石器・縦長剥片石核・縦長剥片・横長剥片・細石刃核・細石刃・尖頭器・削器・石鏃・叩き石・磨石・不明石器・縄文土器などがみられた。その結果，ナイフ形石器は明確な翼状剥片を素材とする国府型ナイフは検出されなかった。縦長剥片が出土遺物中最も多い。細石刃核の接合資料の出土により，製作過程の把握。細石刃核は少量であるが，形態的な差が存在する。舌部が明確にある有舌尖頭器を確認した。縄文土器は，押型文[注(5)]，撚糸文，無文の各様形態が出土した。石鏃は伴出遺物から，弥生以前の可能性がある。

この中で，予備調査[注(6)]において出土しなかった押型文，撚糸文，無文土器について述べると，その文様形態の中で，ネガティブな押型文，高山寺式[注(7)]と呼ばれている粗大な楕円文を含まないことから，5期区分の早期中葉黄島式併行[注(8)]と考えられる。さらに，楕円文は小粒であり乱れが少ない。山形文は狭い範囲での地域差が認められ，当出土の山形文口縁部片は1点の出土で全体としては少量であるが，口縁部内面に平行短線がみられないことなどから，相対的な把握として波張崎遺跡類別対比表[注(9)]の（2）にあたり，帝釈峡馬渡3層下[注(10)]に相当すると考えられる。また撚糸文，無文土器については，岡山県黄島貝塚[注(11)]・黒島貝塚[注(12)]，香川県小蔦島貝塚[注(13)]，広島県宮脇遺跡[注(14)]などの調査から共伴の可能性がある。全体としては，少量であるが，山形文を先行する型とすれば山形文と楕円文の対比において，山形文が多い点，若干古い様相を示しているといえる。この時期は後氷期の海進期にあたり[注(15)]，海進状況による地域性と文様形態の時期差に影響を及ぼしている点さらに検討を要す。

最後に，各種遺物を出土したが旧石器から縄文時代早期にかけての遺物が主体的な位置を占める。この時期は，海進期の問題を含め，各地域で複雑な組成関係の状況が明らかにされており，問題点を多分に含んでいる。層位的な出土状態を示さない本遺跡を含め，今後より明確な個別的把握をおこない，周辺地域との関連において，中部備讃瀬戸の一様相を示す大浦遺跡の位置づけを明確にしたいと思う。

（町川）

注

(1) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報』（Ⅲ）羽佐島遺跡　1980

(2) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告』（Ⅰ）与島西方遺跡　1979

(3) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報』（Ⅲ）花見山遺跡　1980
(4) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財予備調査報告』（Ⅰ）　1976
(5) 同島の他地点からも押型文土器が出土されており，櫃石島貝塚として知られていた。内容については不明であったが，詳しくは倉敷考古館・間壁葭子氏の御教示による。
(6) 注4に同じ
(7) 浦宏「紀伊国高山寺貝塚発掘調査報告」『考古学』10－7　1939
(8) 河瀬正利「中国山地帝釈峡遺跡群における縄文早期文化の二・三の問題」『考古論集』1977
(9) 平井勝『波張崎遺跡』岡山県玉野市教育委員会　1980
(10) 松崎寿和編『帝釈峡遺跡群』　1976
(11) 鎌木義昌「備前黄島貝塚の研究」『吉備考古』77　1949
(12) 伊東忠志「押型文土器を出せる備前黒島遺跡」『考古学』第9巻第3号　1938
(13) 樋口清之「讃岐蔦島貝塚之研究」『史前学雑誌』第8巻第1号　1936
(14) 豊元国「備後宮脇石器時代遺蹟について」『吉備考古』77　1949
(15) 鎌木義昌・高橋護「縄文文化の発展と地域性・瀬戸内」『日本の考古学Ⅱ』　1965

第４表　グリッド別石器組成表

	a－19	b－13	b－14	c－13	c－19	d－8	d－9	d－10	d－11	d－12	d－13	d－14	d－15	d－16	d－19	e－8	e－9	e－10	e－11	e－12	e－13	e－14	e－15	e－16	e－18	e－19	e－20	f－4	f－5	f－6	f－8	f－9	f－10	f－11	f－12	f－13	f－14	f－15	f－16	f－19	g－8	g－9	g－10	g－11	g－12	g－13	g－14	g－15	g－16	g－19	h－5	h－15	h－16	i－5	総合計
縦長剥片Ａ	(0.5) 1						(0.5) 1			(1.0) 2	(1.0) 2	(1.5) 3	(0.5) 1	(2.5) 5			(0.5) 1	(1.0) 2	(1.0) 2	(2.5) 5	(1.0) 2	(4.0) 8	(4.0) 8	(1.5) 3			(1.5) 1					(0.5) 1	(0.5) 1	(1.0) 2	(0.5) 1	(1.5) 3	(3.0) 6	(4.0) 8	(3.5) 7			(0.5) 1	(1.0) 2	(1.0) 2	(0.5) 1	(2.0) 4	(6.5) 13	(13.5) 27	(24.6) 49			(8.0) 16	(4.0) 8		(1.9) 199
縦長剥片Ｂ									(2.0) 2	(1.0) 1			(1.0) 1	(2.0) 2					(5.1) 5	(4.1) 4	(2.0) 2	(3.1) 3	(3.1) 3	(3.1) 3						(1.0) 1			(1.0) 1		(2.0) 2	(1.0) 1	(4.1) 4	(9.2) 9			(1.0) 1	(3.1) 3	(2.0) 2		(5.1) 5	(4.1) 4	(17.3) 17	(16.3) 16			(4.1) 4	(1.0) 1		(0.9) 98
縦長剥片Ｃ							(0.3) 1	(0.8) 3	(0.3) 1	(1.1) 4	(0.3) 1	(0.3) 1	(1.4) 5	(1.1) 4			(0.3) 1	(0.6) 2	(1.1) 4	(2.0) 7	(1.7) 6	(3.1) 11	(3.1) 11	(5.0) 18				(0.3) 1				(0.3) 1	(0.8) 3	(1.7) 6	(0.8) 3	(2.5) 9	(2.0) 7	(13.4) 48	(5.9) 21			(0.6) 2		(0.8) 3	(1.1) 4	(5.3) 19	(3.6) 13	(12.6) 45	(20.1) 72	(0.8) 3		(3.4) 12	(1.7) 6		(3.3) 358
縦長剥片小Ａ													(1.0) 1	(1.0) 1				(1.0) 1	(2.0) 2	(3.1) 3	(3.1) 3	(5.1) 5	(2.0) 2				(1.0) 1								(1.0) 1	(3.1) 3	(5.1) 5	(10.2) 10	(16.3) 16				(1.0) 1	(1.0) 1	(3.1) 3	(8.1) 8	(7.1) 7	(5.1) 5	(18.4) 18				(1.0) 1		(0.9) 98
縦長剥片小Ｂ							(6.7) 1												(6.7) 1				(6.7) 1	(13.3) 2												(6.7) 1		(13.3) 2	(20.0) 3							(6.7) 1		(6.7) 1		(13.3) 2						(0.1) 15
縦長剥片小Ｃ												(2.9) 1							(2.9) 1	(5.9) 2		(8.8) 3	(2.9) 1	(2.9) 1			(2.9) 1						(8.8) 3	(2.9) 1		(2.9) 1	(5.9) 2	(14.7) 5								(8.8) 3	(8.8) 3	(11.8) 4			(2.9) 1	(2.9) 1		(0.3) 34
縦長剥片石核Ｉ			(3.2) 1														(3.2) 1		(3.2) 1		(3.2) 1	(9.7) 3	(3.2) 1	(3.2) 1									(3.2) 1				(6.5) 2	(12.9) 4	(3.2) 1				(3.2) 1		(3.2) 1	(6.5) 2		(9.7) 3	(9.7) 3			(12.9) 4			(0.3) 31
縦長剥片石核Ⅱ											(8.3) 1										(8.3) 1														(8.3) 1	(8.3) 1	(8.3) 1	(8.3) 1									(8.3) 1	(33.3) 4	(8.3) 1						(0.1) 12
縦長剥片石核Ⅲ														(4.8) 1			(4.8) 1		(4.8) 1		(19.0) 4		(4.8) 1												(9.5) 2	(19.0) 4	(4.8) 1	(4.8) 1						(4.8) 1	(4.8) 1		(14.3) 3						(0.2) 21
ナイフ形石器(縦長)																		(5.3) 1		(5.3) 1	(5.3) 1																(5.3) 1							(5.3) 1	(10.5) 2	(21.1) 4	(5.3) 1	(5.8) 3	(5.3) 1		(10.5) 2	(5.3) 1		(0.2) 19
ナイフ形石器(横長)												(6.7) 1		(6.7) 1								(6.7) 1													(6.7) 1		(6.7) 1	(26.7) 4										(6.7) 1	(26.7) 4			(6.7) 1			(0.1) 15
舟底形石器																							(50.0) 1																									(50.0) 1							(0.0) 2
横長剥片								(1.6) 1						(6.3) 4					(3.1) 2			(4.7) 3	(7.8) 5	(4.7) 3			(1.6) 1						(1.6) 1			(3.1) 2	(3.1) 2	(20.3) 13	(9.4) 6								(1.6) 1	(10.9) 7	(12.5) 8	(1.6) 1	(1.6) 1	(1.6) 1	(3.1) 2		(0.6) 64
スクレイパー														(10.0) 1						(10.0) 1			(10.0) 1	(10.0) 1											(10.0) 1												(10.0) 1		(30.0) 3	(10.0) 1					(0.1) 10
石鏃									(2.6) 1				(2.6) 1	(2.6) 1					(2.6) 1			(5.3) 2	(10.5) 4	(2.6) 1										(2.6) 1	(2.6) 1	(2.6) 1	(10.5) 4	(2.6) 1				(2.6) 1		(5.3) 2	(2.6) 1		(7.9) 3	(23.7) 9		(2.6) 1	(2.6) 1	(2.6) 1		(0.4) 38
尖頭器												(7.7) 1									(7.7) 1	(7.7) 1		(7.7) 1										(7.7) 1	(7.7) 1			(15.4) 2						(15.4) 2	(7.7) 1	(7.7) 1		(7.7) 1					(0.1) 13
石斧																																	(100.0) 1																						(0.0) 1
調整痕ある剥片		(2.3) 2			(1.1) 1								(4.5) 4	(2.3) 2	(1.1) 1			(2.3) 2	(2.3) 2		(1.1) 1	(6.8) 6	(8.0) 7	(3.4) 3			(1.1) 1						(2.3) 2	(2.3) 2	(4.5) 4	(2.3) 2	(10.2) 9	(5.7) 5				(1.1) 1	(1.1) 1	(2.3) 2	(1.1) 1	(6.8) 6	(9.1) 8	(4.5) 4	(1.1) 1		(3.4) 3	(5.7) 5		(0.8) 88
自然面を有する剥片		(0.6) 1									(1.2) 2			(0.6) 1			(0.6) 1	(0.6) 1		(4.7) 8	(1.8) 3	(5.9) 10	(3.5) 6	(2.4) 4			(0.6) 1					(0.6) 1	(1.8) 3	(0.6) 1	(4.1) 7	(3.5) 6	(5.3) 9	(10.0) 17	(8.2) 14			(1.2) 2	(2.4) 4	(2.9) 5	(2.4) 4	(2.4) 4	(4.1) 7	(12.9) 22	(10.6) 18	(0.6) 1		(1.8) 3	(2.4) 4		(1.6) 170
叩き石													(6.7) 1					(6.7) 1						(20.0) 3														(6.7) 1								(20.0) 3		(13.3) 2	(20.0) 3				(6.7) 1		(0.1) 15
安山岩Ｃ・細石刃							(1.2) 3	(1.6) 4	(2.4) 6	(0.8) 2	(0.4) 1		(0.4) 1	(0.8) 2		(0.4) 1	(24.8) 61	(8.1) 20	(2.4) 6	((0.8) 2	(2.0) 5	(0.8) 2	(4.0) 10	(3.2) 8								(0.4) 1	(0.8) 2	(1.2) 3		(0.4) 1	(0.4) 1	(8.9) 22	(11.4) 28							(0.4) 1	(2.0) 5	(13.8) 34	(4.9) 12	(0.4) 1		(0.4) 1			(2.3) 246
チャート　細石刃																																						(100.0) 1																		(0.0) 1
黒曜石・細石刃																																					(33.3) 1	(33.3) 1															(33.3) 1		(0.0) 3
細石刃・石核		(5.9) 2						(2.9) 1	(2.9) 1								(5.9) 2	(2.9) 1		(2.9) 1		(2.9) 1	(11.8) 4	(2.9) 1								(2.9) 1		(2.9) 1			(2.9) 1	(20.6) 7								(2.9) 1	(8.8) 3	(11.8) 4			(2.9) 1	(2.9) 1		(0.3) 34
安山岩Ａ フレイク・チップ	(0.0) 1	(0.1) 3	(0.1) 3					(0.1) 1	(0.2) 5	(0.3) 8	(0.4) 14	(0.2) 7	(1.0) 30	(0.9) 27			(1.2) 38	(0.4) 13	(1.1) 36	(4.6) 143	(2.6) 82	(2.9) 91	(2.3) 73	(1.8) 55		(0.1) 4	(0.2) 6				(0.1) 2	(0.4) 11	(0.4) 14	(1.3) 41	(5.0) 158	(8.9) 278	(6.2) 195	(11.7) 367	(13.1) 411	(0.2) 5	(0.0) 1	(0.4) 4	(0.6) 18	(0.1) 3	(4.9) 152	(4.4) 137	(4.8) 151	(5.6) 176	(8.7) 273	(0.4) 12		(1.4) 44	(1.3) 41		(29.2) 3,134
安山岩Ｂ フレイク・チップ	(0.0) 1	(0.1) 6	(0.1) 6	(0.0) 2	(0.1) 7	(0.0) 1	(0.1) 3	(0.2) 11	(0.2) 11	(0.3) 15	(0.5) 27	(0.6) 32	(0.7) 36	(0.9) 43	(0.0) 1		(0.7) 35	(0.6) 28	(0.5) 25	(1.2) 61	(1.8) 89	(3.5) 174	(3.0) 150	(3.0) 152	(0.0) 1	(0.1) 4	(0.5) 23	(0.0) 1			(0.0) 1	(0.3) 16	(0.4) 20	(0.7) 37	(1.3) 64	(3.5) 178	(3.1) 157	(13.6) 684	(9.9) 497	(0.6) 28	(0.1) 6	(0.2) 9	(0.6) 28	(0.3) 16	(1.5) 75	(5.5) 275	(5.3) 267	(12.0) 604	(15.0) 751	(1.2) 58	(0.0) 1	(3.6) 183	(2.3) 116	(0.0) 1	(46.7) 5,017
安山岩Ｃ フレイク・チップ	(0.1) 1	(0.4) 3	(0.1) 1				(0.8) 6	(2.3) 18	(1.4) 11	(0.9) 7	(10.0) 8	(1.1) 9	(0.6) 5	(10.0) 8		(0.1) 1	(13.5) 108	(5.6) 45	(3.6) 29	(1.1) 9	(1.3) 10	(1.9) 15	(8.0) 64	(2.8) 22			(0.4) 3				(0.1) 1		(0.9) 7	(0.6) 5	(0.1) 1	(0.3) 2	(0.9) 7	(10.9) 87	(9.6) 77	(0.6) 5	(0.1) 1	(0.4) 3	(0.1) 1		(0.8) 6	(0.5) 4	(5.3) 43	(10.5) 84	(6.0) 48	(0.4) 3		(3.5) 28	(0.4) 3		(7.4) 798
安山岩Ｄ フレイク・チップ					(4.0) 1				(4.0) 1	(4.0) 1	(4.0) 1	(12.0) 3	(12.0) 3				(8.0) 2		(4.0) 1	(4.0) 1		(4.0) 1													(4.0) 1		(12.0) 3									(12.0) 3		(4.0) 1	(4.0) 1		(4.0) 1			(0.2) 25
黒曜石 フレイク・チップ											(2.1) 1	(2.1) 1	(2.1) 1						(2.1) 1	(17.0) 8		(4.3) 2					(2.1) 1						(4.3) 2	(2.1) 1	(6.4) 3		(4.3) 2	(4.3) 2				(2.1) 1		(2.1) 1	(4.3) 2	(4.3) 2	(8.5) 4	(2.1) 1	(19.1) 9			(4.3) 2			(0.4) 47
石英 フレイク・チップ									(50.0) 1																													(50.0) 1																		(0.0) 2
チャート フレイク・チップ	(3.3) 3							(1.1) 1	(1.1) 1	(1.1) 1	(1.1) 1	(2.2) 2	(2.2) 2	(3.3) 3				(1.1) 1		(1.1) 1		(2.2) 2	(1.1) 1	(14.3) 13	(2.2) 2							(1.1) 1	(2.2) 2	(3.3) 3	(1.1) 1	(1.1) 1	(4.4) 4	(7.7) 7	(4.4) 4		(1.1) 1		(1.1) 1		(2.2) 2	(1.1) 1	(5.5) 5	(7.7) 7	(4.4) 4	(2.2) 2		(4.4) 4	(7.7) 7		(0.8) 91
縄文土器			(2.9) 1								(2.9) 1	(2.9) 1	(8.8) 3	(2.9) 1					(2.9) 1				(5.9) 2	(2.9) 1			(5.9) 2						(2.9) 1	(5.9) 2								(8.8) 3		(2.9) 1			(5.9) 2	(8.8) 3	(20.6) 7	(2.9) 1		(5.3) 2	(2.9) 1		(0.3) 34
	(0.1) 7	(0.2) 17	(0.1) 12	(0.0) 2	(0.1) 9	(0.0) 1	(0.1) 15	(0.4) 40	(0.4) 41	(0.4) 41	(0.6) 60	(0.6) 62	(0.9) 95	(0.1) 107	(0.0) 2	(0.0) 2	(2.3) 251	(1.1) 118	(1.1) 21	(2.4) 257	(2.0) 211	(3.2) 344	(3.3) 356	(2.8) 296	(0.0) 3	(0.1) 8	(0.4) 39	(0.0) 2	0	(0.0) 1	(0.0) 4	(0.3) 34	(0.5) 57	(1.0) 108	(2.3) 243	(4.6) 498	(3.8) 404	(12.1) 1,303	(10.5) 1,124	(0.4) 39	(0.1) 9	(0.2) 26	(0.6) 61	(0.3) 35	(2.4) 258	(4.4) 471	(5.1) 544	(9.9) 1,061	(12.4) 1,330	(0.8) 86	(0.0) 3	(2.9) 314	(1.9) 200	(0.0) 1	10,733

（　）内はパーセント　　小数点第２位で四捨五入

第5表　石材別石器組成表

	安山岩				黒曜石	チャート	砂岩	砂岩(青)	石英	合計
	A	B	C	D						
縦長剥片A	(15.6) 31	(84.4) 168								(1.9) 199
縦長剥片B	(10.2) 10	(89.8) 88								(0.9) 98
縦長剥片C	(8.4) 30	(90.5) 324		(1.1) 4						(3.3) 358
縦長剥片小A	(14.3) 14	(85.7) 84								(0.9) 98
縦長剥片小B	(40.0) 6	(60.0) 9								(0.1) 15
縦長剥片小C	(17.6) 6	(82.4) 28								(0.3) 34
小計	(12.1) 97	(87.4) 701		(0.5) 4						802
縦長剥片石核Ⅰ	(12.9) 4	(87.1) 27								(0.3) 31
縦長剥片石核Ⅱ	(16.7) 2	(83.3) 10								(0.1) 12
縦長剥片石核Ⅲ	(28.6) 6	(71.4) 15								(0.2) 21
小計	(18.8) 12	(81.2) 52								64
ナイフ形石器(縦長)	(52.6) 10	(10.5) 2	(5.3) 1		(31.6) 6					(0.2) 19
ナイフ形石器(横長)	(53.3) 8	(26.7) 4	(6.6) 1	(6.6) 1	(6.6) 1					(0.1) 15
小計	(52.9) 18	(17.6) 6	(5.9) 2	(2.9) 1	(20.6) 7					34
舟底形石器	(100.0) 2									(0.0) 2
横長剥片(翼状剥片)	(42.2) 27(8)	(57.8) 37(7)								(0.6) 64
スクレイパー	(60.0) 6	(40.0) 4								(0.1) 10
石鏃	(44.7) 17	(52.3) 21								(0.4) 38
尖頭器	(92.3) 12	(7.7) 1								(0.1) 13
石斧	(100.0) 1									(0.0) 1
調整痕ある剥片	(55.7) 49	(44.3) 39								(0.8) 88
自然面を有する剥片	(25.9) 44	(74.1) 126								(1.6) 170
叩き石							(86.7) 13	(13.3) 2		(0.1) 15
細石刃			(98.4) 246		(1.2) 3	(0.4) 1				(2.3) 250
細石刃石核			(97.1) 33						(2.9) 1	(0.3) 34
フレイク・チップ	(34.4) 3,134	(55.0) 5,017	(8.8) 798	(0.3) 25	(0.5) 47	(10.0) 91			(0.0) 2	(85.2) 9,114
総合計	(32.0) 3,419	(56.1) 6,004	(10.1) 1,079	(0.3) 30	(0.5) 57	(0.9) 92	(0.1) 13	(0.0) 2	(0.0) 3	10,699

注　(　)内はパーセント　小数点第2位で四捨五入

第6表　縦長剝片分類表

	縦長剝片　A	縦長剝片　B	縦長剝片　C	縦長剝片　小A	縦長剝片小B	縦長剝片小C	総　数
総　　数	199 (24.8)	98 (12.2)	358 (44.6)	98 (12.2)	15 (1.9)	34 (4.2)	802
フラットな面を有する縦長剝片	40 (15.1) (20.1)	98 (37.0) (100.0)	104 (39.2) (29.1)	11 (4.2) (11.2)	7 (2.6) (46.6)	5 (1.9) (14.7)	265 (24.8)

注　(　) 内はパーセント　　小数点第2位で四捨五入

第7表　縦長剝片石核分類表 (1)

	縦長剝片石核Ⅰ	縦長剝片石核Ⅱ	縦長剝片石核Ⅲ	総　　数
総　　数	31 (48.4)	12 (18.8)	21 (32.8)	64
フラットな面を有する縦長剝片石核	21 (48.8) (67.7)	7 (16.3) (58.3)	15 (34.9) (71.4)	43 (67.2)

注　(　) 内はパーセント　　小数点第2位で四捨五入

第8表　縦長剝片石核分類表 (2)

	縦長剝片石核Ⅰ	縦長剝片石核Ⅱ	縦長剝片石核Ⅲ	総　　数
総　　数	31 (48.4)	12 (18.8)	21 (32.8)	64
安山岩　A	4 (33.3) (12.9)	2 (16.6) (16.7)	6 (50.0) (28.6)	12 (18.8)
安山岩　B	27 (51.9) (87.1)	10 (19.2) (83.3)	15 (28.8) (71.4)	52 (81.2)

注　(　) 内はパーセント　　小数点第2位で四捨五入

第11表　翼状剝片計測表

図版番号	出土区画	材質					計測値				備考
		安山岩				黒曜石					
		A	B	C	D		縦 cm	横 cm	厚さ cm	重さ g	
70	h－16	○					2.7	4.6	0.8	8.1	
71	f－15	○					3.1	5.9	0.7	11.3	
72	f－16		○				1.8	4.1	0.5	4.3	
73	g－15	○					2.0	4.0	0.8	5.7	
74	g－16	○					1.7	5.5	0.6	4.7	

第9表　ナイフ形石器・舟底形石器計測表

図版番号	出土区画	材質 安山岩 A	材質 安山岩 B	材質 安山岩 C	材質 安山岩 D	材質 黒曜石	計測値 縦 cm	計測値 横 cm	計測値 厚さ cm	計測値 重さ g	基部調整	先端部調整	刃部有無	剥離方向 縦	剥離方向 横	欠損 有無	欠損 部位	分類	備考
1	g－15	○					3.0	1.3	0.5	2.0			○	○				b1	
2	f－16	○					3.6	1.3	0.8	3.0			○		○			a1	
3	f－16	○					5.9	1.8	1.0	9.0			○		○			a2	
4	d－14				○		8.5	1.8	1.0	13.0			○		○	○	先	a2	
5	f－16	○					5.0	2.0	1.0	8.5			○		○	○	先	a2	
6	g－16	○					4.7	2.4	1.2	13.5	○		○		○			a2	
7	h－15			○			2.6	1.1	0.5	1.5	○		○		○			b1	
8	g－14	○					4.1	2.1	0.8	6.0			○	○		○	先	b1	
9	g－16		○				7.4	2.3	0.9	13.0	○		○		○			b1	
10	g－16	○					4.8	1.5	0.7	4.5	○	○			○			c3	
11	g－12		○				3.4	1.2	0.6	2.0	○		○	○				c4	
12	g－13	○					3.4	1.7	0.5	2.8	○		○	○				b2	
13	e－13	○					8.1	2.2	1.3	18.5	○	○	○	○				c1	
14	g－14	○					6.1	2.1	0.7	6.3	○	○	○	○				c4	
15	g－13	○					4.4	1.6	0.4	3.2	○		○	○				b2	
16	h－16					○	3.0	1.2	0.4	2.5	○	○	○	○				c3	
17	f－13					○	2.5	1.2	0.5	2.0			○		○			a2	
18	f－15					○	3.9	1.1	0.6	2.8	○	○	○	○				c4	
19	h－15		○				10.5	2.4	1.3	23.0				○				c5	
20	d－16	○					7.5	3.7	1.5	35.2					○			a2	
21	g－16		○				5.0	1.9	1.0	6.0			○		○			a2	
22	e－14	○					4.0	1.2	0.5	2.0	○	○	○		○			b1	
23	f－13					○	3.0	1.6	0.3	1.4				○				a2	
24	h－15	○					2.9	1.5	0.5	2.0			○	○				a2	
25	g－19	○					4.2	1.2	0.7	3.5	○		○	○				b1	
26	g－16	○					5.8	2.3	1.2	12.0	○		○	○				b2	
27	f－15	○					2.8	1.8	0.9	4.5			○		○	○	基	a2orb1	
28	f－16	○					4.4	2.1	0.8	3.0			○		○			b1	
29	g－15		○				5.8	2.4	1.3	15.5			○		○			a2	
30	e－15	○					5.6	2.4	1.2	23.5				○				舟底	
31	g－15	○					6.2	2.3	1.7	20.0				○				舟底	
32	e－12	○					9.9	2.3	1.0	24.5	○	○	○	○				不明	
33	e－12	○					7.7	3.2	0.7	14.5	○			○				不明	
34	g－14					○	4.1	1.4	0.4	3.0				○				c5	
35	e－10			○			3.8	1.3	0.5	2.1				○				c5	
36	g－16					○	3.7	1.3	0.7	2.7				○				c5	

第10表　縦長剝片計測表

図版番号	出土区画	材質 安山岩 A	材質 安山岩 B	材質 安山岩 C	材質 安山岩 D	材質 黒曜石	計測値 縦 cm	計測値 横 cm	計測値 厚さ cm	計測値 重さ g	分類	備考
38	f −15	○					4.6	3.0	0.8	9.1	A	
39	f −13	○					4.9	1.6	0.9	7.2	A	
40	e −16		○				4.9	2.0	0.6	5.2	A	
41	e −12		○				5.4	1.5	0.6	5.7	A	
42	g −15		○				6.4	1.4	0.7	6.5	C	
43	g −13		○				4.1	1.7	0.7	5.0	A	
44	h −15	○					5.8	2.4	1.0	12.0	A	
45	f −15	○					5.1	3.7	1.5	18.2	A	
46	e −12		○				6.9	3.0	1.5	12.7	B	
47	e −12		○				5.5	1.4	0.9	8.6	B	
48	f −16	○					5.6	1.3	1.5	7.8	B	
49	e −11		○				6.2	3.4	1.5	18.9	B	石核
50	e −13		○				8.8	2.4	0.9	19.4	B	
51	g −15		○				7.3	1.9	0.8	14.2	C	
52	f −13		○				5.6	2.3	1.1	11.7	C	
53	e −15	○					5.9	2.6	1.0	14.6	C	
54	g −15				○		4.3	1.5	0.5	3.5	C	
55	e −16		○				7.2	3.0	0.6	6.2	C	
56	e −16		○				7.6	2.0	0.5	6.9	C	
57	g −15	○					4.6	1.4	0.7	7.1	C	
58	f −11	○					3.9	2.5	1.0	10.1	C	
59	g −14		○				3.3	1.7	0.9	5.7	C	
60	g −16	○					4.6	1.9	0.8	5.4	C	
61	g −12	○					2.4	2.8	1.0	4.9	C	
62	e −16		○				7.0	3.0	1.3	13.7	C	
63	d −15				○		4.5	3.8	1.0	18.1	C	
64	e −16		○				6.2	2.2	0.8	10.2	C	
65	f −15		○				8.5	2.2	0.7	17.3	C	
66	e −16		○				8.4	1.7	1.0	17.2	C	
67	f −15	○					7.5	2.8	1.3	19.3	A	
68	g −16		○				6.8	2.4	0.7	10.6	C	
69	e −13	○					5.6	2.6	0.9	12.2	C	

第12表　縦長剝片石核計測表

図版番号	出土区画	材質 安山岩 A	B	C	D	黒曜石	計測値 作業面長幅 cm	横 cm	厚さ cm	重さ g	分類	備考
37	e－13		○				4.5	1.7	2.8	30.0	Ⅲ	
75	g－16		○				5.3	1.8	3.3	36.5	Ⅰ	
76	h－15	○					7.8	2.3	2.8	47.0	Ⅰ	
77	f－15	○					5.7	1.5	3.3	31.0	Ⅱ	
78	g－15		○				6.0	2.2	4.1	52.0	Ⅰ	
79	h－15		○				3.5	3.1	6.4	78.0	Ⅰ	
80	f－15		○				1.9	2.3	2.3	25.0	Ⅲ	
81	g－16	○					3.6	1.2	2.5	16.0	Ⅲ	
82	e－15	○					4.0	1.3	3.7	23.0	Ⅲ	

第13表　細石刃計測表

図版番号	全長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	部位
図版17－89	1.9	0.5	0.2	0.15	完形
90	1.65	0.5	0.2	0.2	完形
91	1.8	0.5	0.12	0.15	完形
92	1.62	0.52	0.3	0.25	完形
93	0.8	0.6	0.1	0.1	頭部
94	1.31	0.6	0.15	0.1	頭部
95	0.9	0.5	0.2	0.1	頭部
96	0.75	0.65	0.15	0.1	頭部
97	1.0	0.55	0.1	0.1	中間部
98	1.0	0.5	0.12	0.1	中間部
99	0.9	0.55	0.15	0.05	中間部
100	0.9	0.15	0.2	0.05	中間部
101	1.0	0.6	0.12	0.1	末端部
102	1.0	0.6	0.2	0.1	末端部
103	0.9	0.45	0.15	0.05	末端部

第14表　細石刃核計測表

図版番号	作業面長(cm)	打面長(cm)	打面幅(cm)	打面角	重量(g)
図版16－83	2.3	2.0	1.35	90°	13.8
	1.65	1.4	5.5	120°	
84	1.85	1.9	1.7	93°	7.8
85	2.6	2.3	7.5	75°	6.8
86	1.8	2.05	0.7	90°	10.1
87	1.9	3.0	2.2	83°	12.1
88	1.8	3.1	1.9	75°	16.1
	2.0	3.2	1.3	75°	

第15表　尖頭器計測表

図版番号	石材	全長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	先端角 (度)	備考
図版18－ 104	安山岩A	(2.8)	2.2	0.5	2.9	－	風化度の差であるのか やや黒い
105	安山岩A	5.3	1.5	1.0	5.1	36	粗い加工，横長剝片を素材
106	安山岩A	(4.6)	2.2	0.55	5.4	42	両縁辺のみ加工，横長剝片を素材 先端部欠損
107	安山岩A	5.5	1.7	0.8	7.1	39	横長剝片を素材 先端部欠損
108	安山岩A	(9.32)	2.4	0.9	18.1	21	先端部欠損

（　）現存値

第16表　叩き石・磨石・不明石器観察表

図版番号	出土区画	器種	全長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
図版19－109	g－13	叩石	(5.3)	4.7	3.2	107.0	折断
110	g－13	叩石	(4.5)	3.5	2.4	49.0	折断
111	g－16	叩石	13.7	4.5	4.0	132.0	
112	g－13	叩石	(5.0)	4.8	3.25	100.0	平坦部折断後使用
113	g－15	叩石	(8.7)	5.9	3.8	202.0	花崗岩破損
114	g－15	叩石	10.1	3.0	2.8	122.0	両端に叩痕
図版20－115	e－16	不明石器	(7.9)	3.9	2.9	129.0	折断？ 先端
116	g－15	不明石器	(7.3)	5.0	2.5	124.0	折断？
117	h－16	磨石	8.4	6.5	4.6	307.0	砂岩 研磨痕と打痕あり
118	e－10	不明石器	6.2	3.3	1.6	52.0	両先端磨面あり
119	d－16	不明石器	9.9	3.6	2.7	125.0	全面研磨？

（　）現存値

第17表　土　器　観　察　表

図版番号	文様	色調	焼成	胎土	備考
図版 25－151	山形文	褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒（少量）	砂粒表面化
152	〃	褐色	良好	石英粒 長石粒	残存状態良好
153	〃	淡黄褐色	良好	石英粒 長石粒	摩滅のため文様不明瞭
154	〃	赤褐色	良好	石英粒 長石粒（少量）	帯間が広い
155	〃	淡褐色	良好	石英粒 長石粒（微量）	山の先端がまるみをおびる
156	〃	淡赤褐色	良好	石英粒 長石粒（ごく微量）	施文時に文様が乱れる 文様間に空白が存在する
157	〃	淡褐色	良好	石英粒 長石粒（ごく微量）	器厚が薄い
158	〃	黄褐色	不良	石英粒 長石粒	文様間がとぎれる
159	〃	淡黄褐色	良好	石英粒 長石粒	残存状態が特に悪い 内面は砂粒が表面化
160	〃	淡褐色	良好	石英粒 長石粒	表面は褐色を呈する
161	〃	淡褐色	良好	石英粒 長石粒	文様は不明瞭
162	〃	褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	器厚が薄い 施文方向が若干傾斜する
163	〃	(内)赤褐色 (外)褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	文様が鮮明
164	〃	淡褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	口縁部片　内面に指頭圧痕が残る 内外面ともに施文
165	〃	明褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	内外ともに施文内面はやや不明瞭
166	〃	(内)赤褐色 (外)褐色	不良	石英粒（多量） 長石粒・雲母	内外に指頭圧痕が顕著に残る 接合の痕跡がある
167	〃	淡褐色	不良	石英粒（少量） 長石粒・雲母	部分的に文様が消滅
168	〃	淡赤褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	非常に堅い　二次的作用か
169	〃	淡赤褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒（やや多い）	内面は砂粒が表面化・先端がまるみをおびる
170	〃	淡赤褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	摩滅のため文様不明瞭
171	〃	淡赤褐色	良好	石英粒（多量） 長石粒・雲母	文様は横方向に走る
172	〃	褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒（少量）	内面に指頭圧痕が残る
173	楕円文	赤褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒（少量）	器厚が薄い
174	〃	暗褐色	不良	石英粒・雲母 長石粒（少量）	内側からの穿孔あり 口縁部分と考えられる
175	〃	(内)赤褐色 (外)褐色	良好	石英粒（少量） 長石粒・雲母	摩滅が著しいため文様が不明瞭
176	〃	(内)暗褐色 (外)淡褐色	不良	石英粒・雲母 長石粒（少量）	内外面の色調が異なる
177	〃	黄褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒（少量）	文様は斜方向に走る
178	撚糸文	淡褐色	良好	石英粒・雲母 長石粒	条は部分的にとぎれる箇所有り